

芦田均著作目録

松田 義男 編

改訂 2024 年 1 月 5 日

2003 年 4 月 28 日

目次

1. 著書
2. 共著
3. 評論等(新聞・雑誌掲載)
4. 帝国議会議事速記録・国会会議録

凡例

*「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 評論等(新聞・雑誌掲載)」、「4. 帝国議会議事速記録・国会会議録」に大別し、それぞれ年次順に配列した。

*編者未確認の著作については*を付した。

*連載は、初回掲載に一括した。

*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。

*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。

*掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。なお、第二次大戦後の『婦人公論』には、巻次の乱れがあるが、本著作目録では日本近代文学館の巻号表示により1946年を30巻、以後各年を1巻、1954年を38・39巻とし、1955年を40巻、以後各年を1巻とした。

*新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。

*東京本社発行版と大阪本社発行版のある全国紙、たとえば『朝日新聞』でいえば、大阪本社発行版のみ『[大阪]朝日新聞』と記した。

*座談会については、実施月日・出席者などを[]に注記した。実施月日が明記されていない場合、進藤栄一・下河辺元春編『芦田均日記』全7巻(岩波書店、1986年)、福永文夫・下河辺元春編『芦田均日記 一九〇五 - 一九四五』第1~4巻(柏書房、2012年)で確認できるものについては、その記述にしたがった。

*『芦田均日記』によって、1949年7月1日~1953年8月1日までの『ダイヤモンド』誌の「世界展望」欄を執筆していたことが確認できる。同欄はすべて無署名である。同様に、1949~1959年の『東京だより』の無署名またはペンネームによる執筆文、1932~1937年の『報知新聞』「論説」欄の無署名文(1938年の「論説」欄はすべて署名入りである)など、『芦田均日記』によって執筆が確認できるものについては、該当する『芦田均日記』の記述(『日記』と略記)を[]に示した。また、国立国会図書館憲政資料室所蔵の新聞切り抜き等で確認できるものについては「芦田均関係文書(書類の部)」>と注記した。

*無署名および白雲楼学人、芦原秋水、丹波與作、夏樹茂等のペンネームは≪≫に示した。

*その他、編者の注記を適宜[]に示した。

本目録作成にあたっては、石川県立図書館、NHK 放送博物館、大阪府立中央図書館・同中之島図書館、岡山大学鹿田図書館、京都工芸繊維大学附属図書館、京都産業大学図書館、京都府立図書館、京都府立総合資料館、群馬県立図書館、神戸大学附属図書館、神戸市立中央図書館、高野山大学図書館、慶応義塾大学三田メディアセンター、国立国会図書館、駒沢大学図書館、金光図書館、昭和館、信州大学中央図書館、政策研究大学院大学図書館、西南学院大学図書館、筑波大学附属図書館、天理大学附属天理図書館、東京大学総合図書館、長崎県立長崎図書館、日本近代文学館、兵庫県立図書館、北海道大学附属図書館、明治大学生田図書館、山口県立山口図書館、立教大学図書館、労働科学研究所、早稲田大学中央図書館、同現代政治経済研究所より資料閲覧の便宜を得ました。海外邦字新聞については、ウェブ・サイトで公開されている、スタンフォード大学の「邦字新聞デジタル・コレクション」を閲覧しました。付記して謝意を表します。

1. 著書(私家版・冊子含む)

- 『露国戦時財政概況』外務省政策局第二課、1917年10月印刷
- * 『露国戦時産業概況』<外事秘報 第4号>外務省政務局編・刊、1918年3月印刷[『日記』1951年7月22日]
- 『巴里会議後の欧州外交』小西書店、1923年11月3日
- 『怪傑レーニン』大日本雄弁会、1924年2月21日<白雲楼学人>
- 『列強の政戦』大阪毎日新聞社、1924年9月15日
- 『ロシア印象記』報知新聞社出版部、1924年10月15日[国立国会図書館所蔵版では24日と訂正]
- 『東宮及同妃両殿下御進講記念小篇集』非売品、1925年4月[「世界戦争勃発後の十日間」、「世界戦後に於ける英米独仏の関係」、「革命後のロシアはどんな模様か」、「御進講を終りて」(『丹州時報』1925年3月)、「欧米の政治と日本の政治」、「農村の将来」、「第二維新の意義」(『丹波青年』1、1925年2月)、「日米問題と我國民の覚悟」(『雄弁』15-18、1924年8月1日)、「国民外交の樹立」(『現代』)、「不安懊悩の世界」を収録]
- 『高速度、支那の旅』非売品、1930年4月
- 『君府海峡通航制度史論』巖松堂書店、1930年5月30日
- 『農村の家庭及教育』丹波青年社、1931年12月20日<京都府立図書館所蔵>
- 『近代世界外交問題解説』タイムス出版社、1932年6月30日
- 『外交に関する質問』芦田会、1933年[「帝国外政の方針を問ふ」、「外交国難打開の国策如何」、「演説に対する評論」、「議会演説の後に」を収録]
- 『最近世界外交史 前篇 -ビスマルクより世界大戦まで-』<訳書：原著ブランデンブルグ『ビスマルクより世界大戦まで』(Erich Brandenburg, Von Bismarck zum Weltkriege)>明治図書、1934年3月15日[再刊：時事通信社、1963年]
- 『最近世界外交史 中篇 -世界大戦より戦後の欧州まで-』明治図書、1934年6月5日[再刊：時事通信社、1964年]
- 『最近世界外交史 後篇 -米国参戦より連盟脱退まで-』明治図書、1934年6月20日[再刊：時事通信社、1965年]
- 『国際外交の知識』非凡閣、1934年5月10日
- 『国策論叢』第2号(非売品)、芦田均、1935年4月15日[速記録「外交国策に関する質問」(1935年1月25日衆議院本会議演説)、「通商貿易政策に関する論争」(1934年3月10日衆議院本会議)のほか、「外交質問に対する世評」として、佐々弘雄「専門家芦田君の外交質問」(『大阪朝日新聞』1月26日)、小汀利得「経済外交と文化外交」(『中外商業新報』1月28日)を収録]
- 『最近の国際情勢』<社会教育パンフレット第10輯>神戸市社会教育課、1936年3月27日[1935年11月時局講演会講演於神戸市湊川小学校]
- 『新興日本の将来』<新興日本叢書1>日本青年館、1936年8月10日
- 『東亜の現勢と外交国策』国政一新会、1936年11月20日
- 『動搖の支那を中心として』<『現代』18-2別冊付録>大日本雄弁会講談社、1937年2月1日

- 『危機は欧州か極東か』〈国政一新論叢 第19輯〉国政一新会、1937年6月5日[「危機は欧州か極東か」(『中央公論』52-1、1937年1月1日)、「英国戴冠式を繞る外交の舞台裏」(『ラヂオ講演講座』3、1937年6月15日)、「日本外交の刷新」(『雄弁』28-4、1937年4月1日)、「佐藤外相を語る」(佐藤外相論『改造』19-4、1937年4月1日)を収録]
- 『戦争はいつ始まるか』昭和書房、1937年8月1日
- 『欧米を行脚して世界の情勢を語る』〈国政一新論叢 第25輯〉国政一新会、1938年5月13日[4月7日講演(於国政一新会)]
- 『欧米見たまゝ』明治図書、1938年6月15日
- 『列強の動向を視る』〈時局と国民自覚大講演集 国民自覚運動パンフレット第11輯〉日本文化中央聯盟、1938年8月15日
- 『東亜問題と国際関係』〈時局叢書第2輯〉金光教典籍出版部、1939年10月5日
- 『バルカン』岩波書店、1939年12月22日
- * 『南支南洋の旅』[謄写版]1940年7月
- 『地中海に於ける英伊戦とバルカンの情勢』東洋経済新報社、1941年3月1日
- 『第二次世界大戦前史』中央公論社、1942年4月10日[補筆改訂版：時事通信社、1960年4月1日、中央公論社版の改題改版復刻：『第二次世界大戦への外交史』1、2(書肆心水、2020年)]
- 『新憲法解釈』ダイヤモンド社、1946年11月3日[『制定の立場で省みる日本国憲法入門 第一集』(書肆心水、2013年)収録]
- 『憲法改正に関する報告書』[1946年8月24日衆議院本会議に於ける委員長報告]芦田均、1946年8月20日
- * 『議政壇上に叫ぶ』民聴社、1946年[ダイヤモンド社、1947年]
- 『革命前夜のロシア』文芸春秋新社、1950年9月20日[一部を「一九〇五年・暗黒の日曜日」、「一九一七年・三月革命起る」と題して『ソ連革命四十年』(自由アジア社、1957年10月20日)収録]
- 『平和条約の調印と日本の将来 芦田の新軍備論』〈『東京だより』29 付録〉東京だより社、1951年12月1日
- * 『社会党国を危うくす』1951年
- 『講和両条約を繞る重大論争 吉田・芦田両雄の応酬』〈講演集 第30巻第1集〉日本講演協会、1952年1月1日[1951年10月18日衆議院特別委員会における吉田茂との論戦速記録]
- * 『四巨頭会談を前にして』〈講演シリーズ2〉内外情勢調査会、1955年7月5日講演(於時事通信社)
- 『憲法調査会の発足に際して』[8月6日、日本短波放送]〈資料 17〉自主憲法期成議員同盟編・刊、1957年8月
- 『核兵器時代の外交』〈講演シリーズ40〉内外情勢調査会、1957年11月20日講演(於京都ホテル)
- 『憲法草案の出来るまで あわせて戦争抛棄の意味』〈『東京だより』別冊〉東京だより社、1958年1月20日
- 『わが国外交のあり方』〈講演シリーズ46〉内外情勢調査会、1958年3月17日講演(於帝国ホテル)
- 『パリーロンドン—イスラエルの旅』〈特別資料37〉中外調査会、1958年7月10日[『東京だより』1958年6月号より転載]

『革命前後のロシア』自由アジア社、1958年10月1日[『革命前夜のロシア』に「黒海周遊記」、「ロシア・バレエの今昔」(『文芸春秋』35-11、1957年11月1日)、「モスクー芸術座の思い出」(モスクー芸術座のことなど『東京だより』109、1958年8月1日)を追録]

『第二次世界大戦外交史』時事通信社、1959年10月1日[再刊：『第二次世界大戦外交史』上・下<岩波文庫>岩波書店、2015年]

『芦田均日記』第1～7巻、進藤栄一・下河辺元春編、岩波書店、1986年1月20日、2月20日、3月28日、5月28日、7月28日、9月29日、11月28日[1946年11月3日の記事を「憲法公布の式典」と題して、作品社編集部編『読本 憲法の100年 3 憲法の再生』(作品社、1989年)収録]

『芦田均日記 一九〇五 - 一九四五』第1～4巻、福永文夫・下河辺元春編、柏書房、2012年3月10日

『制定の立場で省みる日本国憲法入門 第一集』書肆心水、2013年11月30日[]

『両大戦間世界外交史 賠償問題・経済復興・軍備縮小』書肆心水、2020年3月[時事通信社版『世界外交史』2の第3篇「大戦後の欧州」と同『世界外交史』3の第1篇「アメリカ合衆国」、第2篇「軍備縮小会議」、第3篇「ソヴィエト・ロシアの外交」の改版改題、また、巻末「付録」として『近代世界外交問題解説』第1篇～第3篇第3章までを「第一次世界大戦戦後処理概説」と題して収録]

2. 共著(序文等を含む)

革命の露都[1918年2月27日講演於日露協会]『第七回講演会速記録』日露協会、1918年4月9日

露国革命事情[講演]『戦時経済財政調査報告 第三十三回』東京交換所、1918年8月

列国政党の現状『最近政治経済講話』実業同志会編・刊、1925年3月23日

欧羅巴事情『国際教育』帝国書院、1925年5月23日[1924年6月講演要領速記(於文部省主催国際教育講習会)]

国際新聞通信事情に就て『国際教育』帝国書院、1925年5月23日[1924年6月講演要領速記(於文部省主催国際教育講習会)]

国交(総論)『公民教育講演集第二輯』文部省実業学務局編、実業補習教育研究会、1925年[10月]

世界の大事勢[「国際講座」]『政治教育講座 第二号』政治教育協会編・刊、1926年5月1日[『政治教育講座 第三卷』(政治教育協会編・刊、1927年11月15日)、同復刻版『政治教育講座 第三卷』(日本図書センター、2004年)収録]

更生土耳其の概観[土耳其 総説]『世界現状大観 VIII 土耳其・バルカン諸国篇』新潮社編・刊、1931年9月15日

回教王朝の滅亡と共和政治[土耳其 政治外交]『世界現状大観 VIII 土耳其・バルカン諸国篇』新潮社編・刊、1931年9月15日

世界の地震帯を往く[バルカン半島諸国 総説]『世界現状大観 VIII 土耳其・バルカン諸国篇』新潮社編・刊、1931年9月15日

若し日本が連盟に敗れたら『非常時読本』<『日の出』1-4 附録>新潮社、1932年11月1日[座談会：神川彦松、稲原勝治、米田実、大山卯次郎、町田梓桜]

列強はどう動くか『非常時読本』<『日の出』1-4 附録>新潮社、1932年11月1日[座談会：大山卯次郎、稲原勝治、大西斉、町田梓桜]

国民外交を樹立せよ[1月23日衆議院本会議、國務大臣に対する質問]『第六四回帝国議会代表演説集』日本講演通信社、1933年3月24日

世界に闊歩する自主的外交『時局大熱論集 熱烈火を吐く 敢て九千萬同胞に訴ふ』<『現代』14-4 付録>大日本雄弁会講談社、1933年4月1日

太平洋問題『世界経済問題講座 第五部 日本経済と世界経済』春秋社、1933年9月25日

*ロシア革命當時の話[「海外で見た勇敢の日本人」]『世界に輝く日本の偉さはこゝだ』<『日の出』2-10 附録>新潮社、1933年10月1日

平賀君の絵『仏国画壇に光る平賀亀祐画伯』塩見清編著、平賀亀祐画会、1933年11月3日

バリー講和会議『大戦後の世界』<世界文化史大系 第23巻>、新光社、1933年11月10日

世界に闊歩する自主的外交『現代名家大演説集』大日本雄弁会講談社、1933年12月10日

米露支接近と光榮ある孤立日本『非常時国民全集・外交篇』中央公論社[非売品]、1934年1月1日

ロシア革命とブレスト・リトウスク講和『立教授還暦祝賀 外交史論文集』神川彦松編、有斐閣、1934年4月5日

最近の外交問題に就いて[1934年5月29日講演(於第60回東京支部会)]『彙報別冊』第68号、全国経

済調査機関連合会、1934年

極東に於ける露西亞の準備工作[1934年9月18日講演(於第62回東京支部会)]『彙報別冊』第71号、
全国経済調査機関連合会、1934年

埃匈帝国の革命『世界文化史大系 第22巻 世界大戦』白鳥庫吉等監修、新光社、1934年11月20日

ドイツの革命『世界文化史大系 第22巻 世界大戦』白鳥庫吉等監修、新光社、1934年11月20日

海軍々縮会議の決裂『国政一新論叢 第1輯』国政一新会、1935年1月22日

奇跡的大親切『秦豊助』秦五十子編・刊、1935年2月4日

現内閣の外交政策を質す[1935年1月25日衆議院本会議演説要旨]『国政一新論叢 第三輯』国政一新会、
1935年3月31日

*伊藤正徳氏著『軍縮読本』『フザンボウドクショカイ』富山房、1935年5月

国民の不安は無方針なる外交政策[1月25日於衆議院本会議、国務大臣に対する質疑]『第六十七回帝国
議會代表雄弁集』日本講演通信社、1935年5月5日

現代世界外交思潮及びその動向『日本国際年鑑 昭和十年版』日本国際問題調査会編、河出書房、1935
年5月12日

海軍々縮を中心とする欧米列国の動向『国政一新論叢 第五輯』国政一新会編、言海書房、1935年7月
4日

エチオピア問題を繞る各国の動向『国政一新論叢 第八輯』国政一新会編、言海書房、1935年10月12
日

イタリーに対する経済制裁の効果『国政一新論叢 第十輯 通商と国防研究』国政一新会編、言海書房刊、
1935年12月26日

米大統領選挙の予想『国政一新論叢 第十二輯』国政一新会編・刊、1936年6月23日

所感『故遠藤前社長追懷誌』郡是製糸、1936年10月25日

所感『模範村長井上延茂翁事蹟』今川仙之助編、京都府天田郡雲原村、1936年11月3日

仏蘭西の外交『国民百科大辞典 第十一巻』富山房、1936年12月10日

モロッコ問題『国民百科大辞典 第十二巻』富山房、1937年3月20日

ダンチッヒ問題／チュニス問題／ドイツの再軍備要求／ドイツ包囲政策『国民百科大辞典 第十四巻』
富山房、1938年4月3日

列強の極東政策『東亞経済問題』東京商工会議所編、森山書店、1938年4月14日

列強の動向を視る[7月12日講演(於日本文化中央連盟主催『時局と国際関係』大講演会)]『時局と国民
自覚大講演集』11、日本文化中央連盟、1938年8月15日

支那事変と世界列強の動向『支那事変と帝国の態度 昭和十三年八月時局認識講習会速記録』西濃連合
教育会、1938年11月10日

支那事変と列強の動向[1938年11月22日講演於一橋講堂]『創立二十周年記念講演』明治学院高等商業
部、1938年12月23日

人間の再発見[「本書前篇に寄せられたる諸家の批評」]『有閑隨筆 続』林語堂著、偕成社、1939年2月
1日

- 最近の外交事情『新東亜の建設と仏教』仏教連合会編・刊、1939年4月29日
- 堰水先生を憶ふ『井上堰水先生』井上善吉編、1939年5月27日
- 欧羅巴の危機と日本[1939年6月21日、第105回講演於東京支部会]『彙報別冊』第120号、全国経済調査機関連合会、1939年7月
- 現下の国際情勢『興亜二週年記念講座講演集』京都府国防協会、1939年10月1日[国立国会図書館所蔵版では10日刊に訂正]
- 支那事変を繞る列国の動向『夏期講習録 昭和十三年度』滋賀県編・刊、1939年12月30日
- 欧州大戦の見透し『欧州大戦の見透し』<講演叢書 第14編>渡辺翁記念文化協会、1939年12月30日
- 日米関係の将来『動乱の世界と興亜日本 各界名士時局熱論集』<『雄弁』31-1 別冊付録>大日本雄弁会講談社、1940年1月1日
- バルカン諸国の動向に就て『欧州動乱読本』太平洋協会編、豊文書院、1940年1月5日
- 有吉明氏の思出『有吉明氏を憶ふ』山崎次郎編、1940年7月12日
- 欧州戦争と其の支那問題への影響『東亜共栄圏の諸問題』東亜経済研究会編、生活社、1940年10月7日
- 序『芦田佐吉翁記念誌』黒田定吉編、芦田本店、1940年10月20日
- 欧州大戦と日支事変『現代文化の問題』<国民学術協会公開講座 第1輯>国民学術協会編、中央公論社、1941年6月8日
- [翼賛選挙立候補挨拶]『大東亜建設代議士政見大観』都市情報社、1941年[吉見義明・横関至編『資料 日本現代史 4』(大月書店、1981年)収録]
- 西亜世界の動向『世界史講座 第5巻 西亜世界史』弘文堂書房、1944年11月20日
- 序『図解憲法』北浦圭太郎著、奈良日日新聞社、1947年1月28日
- 新しい日本のために一発刊のことば『新しい憲法 明るい生活』憲法普及会編・刊、1947年4月3日
[高見勝利編『あたらしい憲法のはなし他二篇』<岩波現代文庫>(岩波書店、2013年)収録]
- 序『日本国憲法制定誌』憲法改正記念刊行会編・刊、1947年5月3日
- 新憲法と教育『新憲法講話』憲法普及会編、政界通信社、1947年7月20日[『制定の立場で省みる日本国憲法入門 第一集』(書肆心水、2013年)収録]
- 反対党の若槻さん『古風庵回顧録』若槻礼次郎著、読売新聞社、1950年3月25日
- 序文『西へ五万キロ 新しい世界を一廻りして』生悦住貞太郎著、万里閣、1951年9月15日
- 目覚しい跳躍[「大映十周年記念に寄せて」]『大映十年史』大映株式会社編、1951年11月1日
- 演説についての私の意見[1951年10月30日インタビュー]『現代の座談・挨拶・文章』<『自由国民』42>自由国民社、1952年1月10日
- 東京時代『二十代』誠文堂新光社、1952年2月28日
- はしがき『日本新軍備に関する調書』山田忍三(印刷)、1952年3月下旬[はしがき]
- 新軍の創設『日本内外の急務』アジア問題研究会編・刊、1953年3月3日
- [写真解説]『現代日本の百人』文芸春秋社、1953年4月25日

序文『罌堂言行録』石田秀人著、時局社、1953年10月28日

現代に二人とない篠原君[「篠原さんを憶う」]『篠原三千郎氏を偲ぶ』東京急行電鉄、1954年3月31日

日本国憲法制定当時の事情と私の見解『日本国憲法制定の経緯とその実情』<憲法調査資料 No.2>改進黨政策委員会、1954年6月5日

想出さるゝ議會擁護大演説『川崎克伝』江戸川乱歩編、川崎克伝刊行会、1956年2月3日

野間左衛夫人の思い出『しのぶ草』野間左衛追悼録編纂会編・刊、1957年8月1日

[衆議院帝国憲法改正案委員会委員長・憲法改正特別委員会委員長としての回顧]『憲法調査会総会議事録』第7回、1957年12月5日報告[「憲法草案の出来るまで あわせて戦争抛棄の意味」と題して『東京だより』別冊として刊(東京だより社、1958年1月20日)、『東京だより』103、1958年2月1日に再録。「改憲案作成内閣の一閣僚としての回顧」と「衆議院憲法改正特別委員会の委員長としての回顧」に分割・改題して『いまの憲法をこう思う』(自主憲法期成同盟出版部、1958年1月10日)、『制定の立場で省みる日本国憲法入門 第一集』(書肆心水、2013年11月30日)収録]

五十年の交友河上君『河上弘一回想録』河上弘一記念事業世話人会編・刊、1958年3月1日

名川君と私『名川侃一を語る』名川恵造[非売品]、1959年9月20日

3. 評論等(新聞・雑誌掲載)<1589 篇>

1909(明治 42)年

仏国新家産法に就て[抄訳、「雑録」]『法学協会雑誌』27-11、11月1日

第十二回万国統計学会／清国法科大学の成立[「雑報」]『法学協会雑誌』27-11、11月1日<<あ、ひ、>>[『日記』10月21日：「法学協会の雑報を書いた」]

緑会秋季大会／吾等五度捷てり矣／緑会弁論部発会演説会[「雑報」]『法学協会雑誌』27-12、12月1日<<あ、ひ、>>

1910(明治 43)年

法科大学端艇選手決定[「雑録」]『法学協会雑誌』28-3、3月1日<<あ、ひ>>

如是我観[1909年11月14日演説(於帝国大学緑会)]『雄弁』1-3、4月1日[『青年雄弁集』(大日本雄弁会、1913年8月8日)収録]

相州酒匂より[「夏の便」]『雄弁』1-7、8月1日<<白雲子>>[『日記』7月17日：「酒匂の松濤園に行く」。20日：「青空に白い雲の行きかふのを岸に寝転んで波の音をきゝ乍ら見て居た…略…月明に乗じて遂に雄弁の原稿の結尾を書いた」]

富士を軽蔑しに行つた記『雄弁』1-8、9月1日<<強右衛門>>[『日記』9月3日：「雄弁の九月号に僕の富士行か大文字で出てゐる」]

仏蘭西より一筆啓上[「海外通信」]『雄弁』1-9、10月1日<<壽狸庵>>[『日記』9月17日：「図書館に行つて「仏国より一筆啓上」といふのを書いた」。19日：「図書館で雄弁の原稿を書いた＝書くといふより翻訳したんだ」]

近代感受性論[翻訳]『新思潮』3、11月1日[『並木の路』(早稲田文学社編・刊、[1911])収録]

巴里より一筆啓上[「海外通信」]『雄弁』1-10、11月1日<<壽狸庵>>[『日記』10月10日：「ポルトガルの政局の記事を雄弁の為に書いた」。目次のタイトルは「葡国革命前後の政況」]

東方に於ける欧州均勢の変調[「巴里より第三信」]『雄弁』1-11、12月1日<<ジュリアン>>[『日記』11月17日：「雄弁の原稿を書いた。海外通信に東方に於ける欧州場[均]勢の変調といふ題だ」]

漂泊者の手紙『雄弁』1-11、12月1日<<芦原秋水>>[『日記』11月2日：「漂泊者の手紙と題して雄弁に送つた」]

独逸現代の劇壇[翻訳]『新思潮』4、12月1日

1911(明治 44)年

漂泊者に寄する書『雄弁』2-1、1月1日<<北城王>>[『日記』1910年12月10日：「旧稿を雄弁に送る題を改めて漂浪[泊]者に傷[寄]するの書と書いた」]

パンテオンの対話(フランソア・コペエ)[翻訳]『新思潮』7、3月5日

那須野の果より『雄弁』2-7、7月1日<<強右衛門>>

1912(明治 45・大正元)年

青髭物語(アナトール、フランス)[Anatole France, *Les sept femmes de la Barbe Bleue* の翻訳]『雄弁』3-1、1月1日

カフェーの二階より[小説]『雄弁』3-3、3月1日<<丹波與作>>[『日記』1月31日: カップエーの二階より]

己は馬鹿だ[小説]『雄弁』3-7、7月1日<<夏木茂>>[『日記』6月20日: 己は馬鹿だ]

河岡潮風君を憶ふ『雄弁』3-8、8月1日<<芦田生>>

北條の浜より『雄弁』3-8、8月1日<<強右衛門>>

1913(大正 2)年

丁字の花咲く頃[小説]『雄弁』4-4、4月1日<<夏樹茂>>[『日記』3月4日: 丁字の花咲く頃]

1914(大正 3)年

ボエミアン(プーシユキン)[翻訳]『雄弁』5-1、1月1日

莫斯科から[「文芸」]『時事新報』5月29日

ロシヤから『雄弁』5-9、9月1日<<夏樹茂>>[目次では<<芦田均>>]

1916(大正 5)年

ペトログラードより『三田文学』7-1、1月1日<<夏樹茂>>

シヤリヤーピン『三田文学』7-5、5月1日<<夏樹茂>>[『ロシア印象記』収録]

[「消息」欄に井上滋宛書信]『三田文学』7-5、5月1日

ペトログラードから『三田文学』7-7、7月1日<<夏樹茂>>

1917(大正 6)年

[「消息」欄に井上滋宛書信]『三田文学』8-1、1月1日

露西亞革命立見の記『雄弁』8-6、5月1日<<夏木茂>>[「露西亞革命見物の記」と改題『怪傑レーニン』収録]

キエフよりヤスナヤ・ポリヤナまで『三田文学』8-11、12、11月1日、12月1日<<夏樹茂>>[「杜翁の墓」と改題『ロシア印象記』収録]

1918(大正 7)年

露国革命前後の事情[4月2日講演概要(京都府教育会主催時局講演会)]『京都日出新聞』4月5~7日『新聞集成大正編年史 大正七年度版 上ノ下』(明治大正昭和新聞研究会、1984年)収録]

余の実見せる革命の露国『実業之日本』21-8、4月10日

露国に於ける自由運動及び政党の発達『雄弁』9-5、4月10日

露国革命前後の事情[文責在記者]『京都教育』1、2、4月25日、5月10日

露国革命の由来『龍門雑誌』361、362、6月25日、7月25日

露西亜の革命前後『雄弁』9-8、7月1日[『怪傑レーニン』収録]

1923(大正 12)年

熱烈火の如き仏蘭西政界の雄弁家『雄弁』14-4、4月1日<<夏木茂>>

*巴里会議後の欧州外交『労働及社会問題』4月

財政緊縮問題と英国の先蹤『財政経済時報』10-21、11-1、2、12月15日、1924年1月1、15日

1924(大正 13)年

再生の為に悩む労農ロシヤ[「世界の現状」]『実業之世界』21-1、1月1日

黒シヤツ組によつて支持せらるゝイタリ[「世界の現状」]『実業之世界』21-1、1月1日

北欧に平和を楽しむスカンヂナヴィア三王国[「世界の現状」]『実業之世界』21-1、1月1日

言語と宗教の為に苦しむベルギー[「世界の現状」]『実業之世界』21-1、1月1日

内紛の絶えざるスペイン[「世界の現状」]『実業之世界』21-1、1月1日

欧州戦を惹起したるバルカン諸国の現状[「世界の現状」]『実業之世界』21-1、1月1日

民衆芸術としての活動写真批判会速記録『女性』5-2、2月1日[座談会：小山内薫、久米正雄、倉橋惣三、権田保之助ほか]

英国のソヴェット承認と其波紋『改造』6-3、3月1日[「労働党のソヴェット承認」と改題『列強の政戦』収録]

ルール悪闘の一年間『外交時報』39-7[464]、4月1日

レーニンの面影『雄弁』15-4、4月1日

英領自治植民地の法律上の地位『国際法外交雑誌』23-4、4月15日

確乎不拔の意思と信念を持って『受験界』5-5、5月1日

在京外国通信記者評『新聞及新聞記者』5-9、10、5月1日、6月1日[復刻版『新聞及新聞記者』第8巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

労農執権の第六年『外交時報』39-10[467]、5月15日

独逸の政戦『大阪毎日新聞』5月16～20日[「総選挙の前後」と改題『列強の政戦』収録]

仏国政戦の跡『大阪毎日新聞』5月21～25日[『列強の政戦』収録]

[「論理的な政権授受 本社楼上で芦田均氏の講演」中の5月23日講演概要「欧米の選挙に現はれたる世界相」要旨(於大阪毎日新聞社主催文化大学特別講座)]『大阪毎日新聞』5月24日

モナコの賭場[「世界の神秘境」]『女性』5-6、6月1日

[「年頃の娘に読せたき書物」]『婦人倶楽部』5-6、6月1日

ドーヴィルの浜とサヴォアの谿[「夏の遊び場」]『女性』6-1、7月1日
日米問題と我國民の覚悟『雄弁』15-8、8月1日[『東宮及同妃兩殿下御進講紀念小篇集』収録]
列強の総選挙後の形勢(講演の梗概)『学会月報』437、8月20日
仏国エリオー内閣と欧州政局の将来『国際知識』4-9、9月1日
黎明期の外交『現代』5-11、11月1日
世界の安定とドース案『実業之日本』27-21、11月1日
世界は今何を求めつゝあるか『女性』6-5、11月1日
露西亞対日本及び支那『朝鮮公論』12-11、11月1日
最近に於ける日本の外交問題(講演(於京都市教育会館))『京都日出新聞』11月11~14日
最近日本の外交問題—米、英、露、支につき—[11月8日講演(於京都市教育会第23回総集會)]『京都市教育』1-11、12月1日
外交一年間の回顧『世紀』1-3、12月1日
英国労働党内閣の没落と米國共和黨の勝利『中央公論』39-12、12月1日
雄渾博大的氣宇『雄弁』15-12、12月1日

1925(大正14)年

維新當時の如く[「余が外遊の所感中是丈けは是非日本で改良したいと思ふ事」]『実業之日本』28-1、1月1日
虚報を蒔く人々—国際場裡に於ける—『福岡日日新聞』1月1日
海のとと『婦人世界』20-1、1月1日
平和記念大会に於ける祝辞演説[第一付録]『雄弁』16-1、1月1日
ムツソリーニを繞る羅馬政界の喜悲劇『大阪毎日新聞』1月10~13日[(一)を『新聞集成大正編年史 大正十四年度版 上ノ上』(明治大正昭和新聞研究会、1987年)収録]
国際政局概観『時事新報』1月11~16日
欧州事情『山口県教育』296、2月7日
シベリア出兵より国交恢復まで『時事新報』2月25~28日、3月2~6日
*第二維新の意義『丹波青年』1、2月[『東宮及同妃兩殿下御進講紀念小篇集』収録]
日露新協約に依つて展開さるゝ各種の新局面『中央公論』40-3、3月1日
世界の通信事業(講演筆記(於国際教育講習會))『山口県教育』297、3月5日
農村問題を中心とするロシアの政治問題『外交時報』41-6[487]、3月15日
世界戦争の思想的背景『国際法外交雑誌』24-3、4、3月15日、4月15日
労働露國財政經濟の現状『龍門雑誌』438、3月25日
*御進講を終りて『丹州時報』3月[『東宮及同妃兩殿下御進講紀念小篇集』収録]

アメリカは成長しつゝあり[「廿世紀の謎世界の驕児米国及び米国人の研究」]『中央公論』40-4、4月1日

海のとと『婦人世界』20-4、4月1日

日露国交の恢復と日本の将来『雄弁』16-4、4月1日

最近国際政治史論三講－東宮及同妃殿下御前講演稿本－[以下三講:「一 世界戦争勃発前の十日間」、「二 世界戦後に於ける英米独仏の関係」、「三 革命ロシアの国家生活」]『中央公論』40-5、5月1日

欧米の政治と日本の政治[4月15日講演、日本連合青年団主催講演会(於愛知県会議事堂)]『愛知教育』450、6月1日

今の新刊紹介は文明国の汚辱[「新聞の『新刊紹介』欄(二)著者及び一般読者としての希望」]『新聞及新聞記者』6-19、10月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第12巻(金沢文圃閣、2023年)収録]

最近外交史並に国際関係[8月20～22日講習要領筆記(於滋賀県教育会夏季講習会)、文責在記者]『近江教育』361、362、11月1日、12月1日<彦根市立図書館所蔵、361号は「芦田均関係文書(書類の部)」56>

欧州安定の問題－平和議定書から安全保障へ－『国際知識』5-11、11月1日

1926(大正 15・昭和元)年

経済と外交[講演於京都経済会]『大阪銀行通信録』342、2月25日

国際連盟の話『成人』1-8～12、4月10日、5月10日、6月10日、7月10日、8月10日

1927(昭和 2)年

支那に於ける日本の経済的地位[「支那時局観」]『実業之世界』24-5、5月1日

伊貨急騰と輸出難 本邦綿貨売込の好機[電報]『日刊海外商報』816、5月2日

土耳其輸入品取引税法実施[電報]『日刊海外商報』840、5月26日

君府海峡の通航制度を論ず『国際法外交雑誌』26-8、27-1、3、10月1日、1928年1月1日、3月1日

アンゴラの都『中央公論』42-11、11月1日

1928(昭和 3)年

熱血児ケマル・パシヤ(世界英傑伝)『キング』4-4、4月1日

1929(昭和 4)年

土耳其固定税率改正並支土通商条約と本邦製綿粗布『日土協会会報』8、3月25日

土耳其に於ける御大典奉祝[「雑叢」]『日土協会会報』8、3月25日

土耳其産業の大勢『日土協会会報』10、12月1日

土耳其に日土弁絹織物会社創設さる『日土協会会報』10、12月1日

1930(昭和 5)年

- 最近の土耳其経済事情[2月20日講演要旨(於大阪商工会議所)]『大阪時事新報』2月22日
- 回教民族の動き『外交時報』53-6[607]、3月15日
- 最近の土耳其事情[講演速記]『大阪商工会議所月報』274、3月25日
- バルカンの現状『国際知識』10-5、6、5月1日、6月1日
- ボスニア併合事件と世界大戦『外交時報』54-5[612]、6月1日
- 土耳其の近状『日土協会会報』11、6月25日
- トルコに於ける革新運動について[「法理研究会記事」中の5月29日法理研究会例会講演大要(於学士会館)]『法学協会雑誌』48-7、7月1日
- 亜細亜に気を吐く怪傑ケマル『雄弁』21-7、7月1日
- 土耳其の近状とシリヤ、パレスタイン『文明協会ニュース』7月10日
- 土耳其の現状[「講演」]『龍門雑誌』502、503、7月25日、8月25日

1931(昭和 6)年

- *ロンドン今昔『丹州時報』8月17日～9月10日[『芦田均日記 第3巻一九二六年～一九三六年』480頁による]
- 英国議會見物『雄弁』22-12、12月1日

1932(昭和 7)年

- 土耳其帽を葬る『東洋』35-1、1月1日
- 三国干渉前後の事情『国際法外交雑誌』31-3、3月1日
- 日本はどうなる座談会『実業之日本』35-7、4月1日[3月14日座談会(於工業倶楽部): 勝田貞次、高橋清吾、宮島清次郎、平田晋策ほか]
- 吾等是如何に戦つたか[「政戦回顧吾等是如何に闘つたか」]『政界往来』3-4、4月1日
- 圧倒的な政友気流[「戦いに勝ちて」]『政友』379、4月1日
- 農村の家庭及教育『大日本農報』19-4～7、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日[『農村の家庭及教育』(丹波青年社、1931年)の転載]
- [「新代議士は如何に女性のために戦ふか」]『婦人公論』17-4、4月1日
- 轉換期のわが外交[「時局に直面して」]『報知新聞』4月24～27日
- 欧州はどうなるか『経済往来』7-5、5月1日[3月27日座談会(於東京会館): 高木友三郎、米田実、鹿島守之助]
- 勝利の果実[「時局随想」]『現代』13-5、5月1日
- 日本外交の功罪『中央公論』47-5、5月1日
- パレスタイン建国の悩み『東洋』35-5、6、5月1日、6月1日

- 近代世界外交問題解説『国際パンフレット通信』500、5月26日[『近代世界外交問題解説』(タイムス出版社、1932年6月)収録]
- 斉藤総理とラムジー・マクドナルド[「文明批評」]『時事新報』5月29、31日、6月1、2日
- 満蒙モンロー主義の限界[「学芸」]『国民新聞』6月1、2日
- 偉人の思い出『文芸春秋』10-6、7、6月1日、7月1日
- 満洲国の承認 いそぎ難き事情の数々『中外商業新報』6月30日、7月1日
- 最近の国際経済の動きと連盟精神『神戸商大新聞』28、7月15日
- 満洲国承認は早急に行かぬ『新嘉坡日報』7月18～20日
- 荒木陸相と道行の十六日間『現代』13-8、8月1日
- 欧亜の動きと日本[第10回海外事情講習会講演集]『東洋』35-8、8月1日
- 民族の大試練『雄弁』23-8、8月1日
- 非常時の世界各国を語る座談会『現代』13-9、9月1日[座談会：伊藤述史、沖野岩三郎、笠原幸雄、川原次吉郎、永田稠、保科善四郎、奈良静馬]
- 満洲国承認の意義『報知新聞』9月16日
- 満洲国承認問題『現代』13-10<第二特輯 時局解説辞典> 10月1日
- 孤立日本の外交『実業之日本』35-19、10月1日
- 「名士 問合せ回答 一、私が三十五才の時は何処で何をしてみたか。 二、今から三十五年前(明治三十年)の私は、何処で何をしてみたか。」『実業之日本』35-19、10月1日
- 外交当局の猛省を望む『新東洋』1-10、10月1日
- 満洲国承認の意義『東方公論』7-10、10月1日
- 満洲が誤まれば我国を危くする『九州日報』10月4日
- 連盟調査団の報告書を読む『報知新聞』10月4～6日
- リットン報告書の行衛[10月19日講演(於東京株式真人会主催講演会)]『講演』199、10月20日
- リットン報告書の批判[10月14日講演(東京市主催時局講演会於日比谷公会堂)]『日本講演通信』160、10月22日
- 支那政情の不安と日本[「論説」]『報知新聞』10月29日<<無署名>>[『日記』10月27日：支那の不安定と日本]
- 自分の力で立ち上る『キング』8-11、11月1日
- リットン報告と満洲問題『政友』387、11月1日
- 満洲国の成長が肝心[「報告書と国際連盟」]『東方公論』7-11、11月1日
- 英国議院政治の行衛[「世界展望大講演会」]『雄弁』23-11、11月1日
- 連盟は満洲問題をどうする気か『日曜報知』128、11月6日
- リットン報告と満洲問題について『大陸日報』11月9、10、12、14、16日[第3回以後は「リットン報告書を読んで」]

トルコに於ける暦法の改正『イスラム文化』1、11月15日

極東ロカルノの提唱『4-4[671]、11月15日

満洲問題と今後の我外交[「中外論叢」]『中外財界』7-11、11月15日

日本政府の意見書[「論説」]『報知新聞』11月22日<<無署名>>[『日記』11月21日：Lytton Report に対する日本の意見書]

理事会より総会へ『報知新聞』11月30日

満洲国完成が唯一の途[談、「満洲問題と国際連盟会議」]『黄人公論』1-1、12月1日

日ソ時局を語る会『東洋』35-12、12月1日[11月7日座談会：今井政吉、西春彦、大竹博吉、加藤五十造、川谷幸左衛門、田中丸雄祐厚、中里重告、倉知鉄吉、黒田乙吉、水野錬太郎、尾崎敬義、村山俊彦、藤田四郎]

1933(昭和8)年

The Japan Times will follow independence and liberal path 『The Japan Times & Mail』1月1日

政治外交時評『文芸春秋』11-1、1月1日

昭和八年の外交展望座談会『報知新聞』1月1、3~8日[1932年12月26日報知新聞社主催座談会(於帝国ホテル)：芳沢謙吉、山川端夫、寺田四郎]

欧羅巴の危かつた話『報知新聞』1月14日

国際情勢安定の曙光『経済往来』8-2、2月1日

連盟に反響した芦田代議士の質問[1月23日衆議院本会議質問演説]『大陸日報』2月15、16日

万全の方策ありや 冷静を欠く連盟脱退論『三田新聞』296、2月17日

勸告案より脱退へ『報知新聞』2月19、20日

連盟脱退は最後の切り札『ダイヤモンド』21-6、2月21日

連盟脱退の我が財界に及ぼす影響如何を主題とする座談会『経済情報』8-3、3月1日[2月20日座談会(於丸の内会館)：石橋治郎八、徳田六郎、大口喜六、大熊真、渡辺政人、河合良成、加藤鯛一、横田信一、田川大吉郎、鶴見祐輔、中野正剛、中島義治、梅浦健吉、山口敏夫、松方幸次郎、二神駿吉、小島精一、佐羽大三郎、円地与四松、水野広徳、下河辺健二、高橋亀吉、落合久次]

審かんとする者審かる[「大不平小不平」]『政界往来』4-3、3月1日[「議會演説の後に」と改題、『外交に関する質問』収録]

大陸政策の根本問題[「新外交政策論叢」]『政治経済時論』8-3、3月1日

The turning point in Japanese foreign policy 『The Japan Times & mail』3月5日

孤立外交の転換『経済往来』8-4、4月1日

連盟脱退孤立日本の将来『文芸春秋』11-4、4月1日[座談会：関根群平、高木友三郎、円地与四松、伊藤正徳、清沢冽、鶴見祐輔、佐々木茂索]

非常時日本の外交[4月2日講演(於神田教育会館)]『旬刊講演集』320、4月10日

満洲国を聴く『報知新聞』4月11~16日[3月30日、報知新聞社主催「満洲国を聞くの会」：駒井徳三、須崎治平、寺田四郎、広田四郎、鈴木宇一、倉辻明義、清沢冽、青木得三、松山幸逸]

- 四国協定を見送る－外交時評－『文芸春秋』11-5、5月1日
- 国際連盟脱退後の我が外交[「時評」]『財政経済時報』20-5、5月1日
- 「現在国論は統一されてみると認めるか」『サラリーマン』6-4、5月1日
- 独逸の革命[「論説」]『報知新聞』5月11日<<無署名>>[『日記』5月9日：独逸の革命]
- 安定政策は無用且つ不自然[「国際経済会議と円為替安定問題」]『経済情報』8-6、5月15日
- 世界は再び戦ふか『報知新聞』5月25、27～29日
- 貿易圧迫の危険を覚悟せよ[「世界経済会議に対する期待と影響」]『経済情報』8-7、6月1日
- クレマンソーを想ふ[「憧れの人物を語る」]『現代』14-6、6月1日
- 政治と民衆と流行『政界往来』4-6、6月1日
- 独・仏・伊の三角関係[「ピンチに立つ欧州の政局」]『世界知識』4-6、6月1日
- マクドナルドの足跡－外交時評－『文芸春秋』11-6、6月1日
- 連盟脱退後に於ける日本の外交[文責在記者]『京都教育』558、560、562、6月15日、7月1日、8月1日
- 日米親善問題座談会『東洋経済新報』1555、6月24日[6月15日座談会(於東洋経済新報社)：蠟山政道、長谷川如是閑、田川大吉郎、田中徳吉、鶴見祐輔、上田貞次郎、清沢洌、茂木惣兵衛、杉森孝次郎、石橋湛山]
- 分岐点に立つ支那の対日政策『大衆往来』5-7、7月1日
- 厄介なのは日本の財政[「世界経済会議が此の儘決裂せば」]『経済情報』8-10、7月15日
- 世界経済会議の後に来るもの『報知新聞』7月27、29～31日
- 日本外交の転換『専売協会誌』252、8月1日[『名士講演集 後編』(専売協会、1934年)収録]
- 世界経済会議の弔鐘『中央公論』48-8、8月1日
- 難破を免れた世界経済会議の後始末『工場世界』14-9、8月10日
- 時事解説 ナチスの自主外交[16日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』8月16日
- 英国の保護貿易と関税政策の将来 其の持続性が問題[「経済小論集」]『朝鮮公論』21-9、9月1日
- 行き詰れる教育を語る『帝国教育』633、9月1日[7月12日帝国教育会主催第二回座談会(於教育会館)：植原悦二郎、小泉信三、田川大吉郎、小林順一郎、本間利雄、小山完吾、東郷実、武部欽一、鎌田栄吉]
- 自由主義検討座談会『文芸春秋』11-9、9月1日[座談会(於大阪会館レインボウ・グリル)：清沢洌、麻生久、長谷川如是閑、石浜知行、倉田百三、三木清、佐々弘雄][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]
- 転換期にあるナチスの外交『外交時報』67-6[691]、9月15日
- 広田外相への期待[「論説」]『報知新聞』9月26日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 欧州政界の新人ドルフスの面貌『報知新聞』10月4、5日
- ドイツの連盟脱退[「論説」]『報知新聞』10月16日<<無署名>>[『日記』10月15日：ドイツと連盟脱退]
<「芦田均関係文書(書類の部)」140>

時事解説 ドイツの連盟脱退[21日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』10月21日

一九三六年の見透と其の対策に就て語る『東洋経済新報』1573、10月28日[10月12日座談会(於東洋経済新報社)：石丸藤太、大口喜六、勝田貞次、松岡駒吉、小島精一、赤松克麿、蠟山政道、田昌、水野広徳、石橋湛山、三浦鏡太郎]

国際間的信任の動揺—外交時評—『文芸春秋』11-11、11月1日

ドイツの連盟脱退『外交時報』68-4[695]、11月15日

国防第一か外交工作か『三田新聞』308、11月17日

「政党連合をどうみる？」『政界往来』4-12、12月1日

*非常時外交の展望『世界公論』18-12、12月1日

国際日本の現実『文芸春秋』11-12、12月1日[座談会：風見章、神川彦松、小島精一、高木友三郎、千葉雄次郎、横田喜三郎、筒井潔]

1934(昭和9)年

Japan's foreign policy in 1934『The Japan Times & Mail』1月1日

リトヴィーンフの外交行脚『国際知識』14-1、1月1日

国際政治の動き 一九三六年の危機とは何か？『朝鮮公論』22-1、1月1日

外交教程[「対危機教程」]『文芸春秋』12-1、1月1日

少壮軍人政治家対時局座談会『文芸春秋』12-1、1月1日[座談会(於日本橋なにはや)：船田中、田中貢、武富濟、宮野正年、川原直一、権藤恕、関根郡平、加藤尚雄]

まづ国内を整へそれから外交工作に[「危機！一九三六年を目指して」]『サンデー毎日』13-2、1月7日

見識の低い婦人に参政権は不可[「談話リレー」]『婦女新聞』1752、1月7日

リトヴィーンフの外交行脚『拓殖公論』91、1月11日

卅五・六年を望みて 三六座談会『報知新聞』1月11～13日

国民外交を何うする『婦人之友』28-2、2月1日[1933年12月28日座談会(於婦人之友社ホール)：清沢淵、田中館愛橘、矢田七太郎、羽仁吉一、羽仁もと子、羽仁恵子][『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 上』(婦人之友社、2003年)、『「婦人雑誌」がつくる大正・昭和の女性像 第20巻 社会・時代 3』(ゆまに書房、2015年)収録]

バリ暴動『経済往来』9-3、3月1日

戦争果して起るか？日露最近の利害関係『現代』15-3、3月1日

「もの」申さん[「新陸相に与ふ」]『文芸春秋』12-3、3月1日

故白国皇帝陛下の御追憶[「名卿小話集」]『拓殖公論』93、3月11日

モンロー主義の修正『外交時報』70-1[704]、4月1日

次の戦争原因としての奥国『経済往来』9-4、4月1日

貿易調節と通商擁護『政友』404、4月1日

時事解説[7日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』4月7日

- 『秘密』を研究的に観る『婦人之友』28-6、6月1日[座談会：小汀利得、加藤与五郎、白柳秀湖、千葉
亀雄、鶴見祐輔、浜尾四郎、羽仁吉一、羽仁もと子]
- 日本青年の弱点[文責在記者]『雄弁』25-6、6月1日
- ブラジルの移民制限『経済往来』9-7、7月1日
- 悩み抜く欧州政局のコメディ ヒットラーとムツソリーニ会談的一幕『ダイヤモンド』22-20、7月1日
- 時事解説 ナチス陣営の混乱[7日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』7月7日
- 二つの文化を語る著作[「書齋から発掘する」]『読売新聞』7月14日
- 太平洋に集まる視聴『大倉高等商業学校東亜事情研究』15、7月15日
- 太平洋に集まる視聴[講演於報知新聞社講堂]『講演』80、7月15日
- 暎国の擾乱はどうなる『報知新聞』7月29日
- ナチス陣営の混乱『外交時報』71-3[712]、8月1日
- 世界戦後十年の欧州『改造』16-9、8月1日
- 新内閣と明日の政界『経済往来』9-8、8月1日
- 君府からブルガリアへ『国際知識』14-8、8月1日
- 死海のほとり[随筆]『文芸春秋』12-8、8月1日
- 『永い眼で』[「大阪朝日京都版 カクテル」]『大阪朝日新聞[京都版]』8月27日[『石語』<カクテル
第1輯>(政経書院、1935年1月1日)収録]
- ロシアの連盟加入[「一頁時評」]『経済往来』9-9、9月1日
- 暎国の動乱と国際政局『国際知識』14-9、9月1日
- 日本人の見たソ連邦-(高加索の温泉)-『政界往来』5-9、9月1日
- 満洲と其匪賊[「論説」]『報知新聞』9月4日<無署名>[『日記』9月2日：満洲と其匪賊]
- 時事解説 ロシアの連盟加入を中心に[8日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』9月8日
- 蚕糸恐慌の対策『京都蚕糸』7-9、9月15日
- 老子爵の衣鉢を継ぐか渋沢敬三君[「私の関心をもつ人物」]『現代』15-10、10月1日
- 北鉄交渉と日露関係の将来『現代』15-10、10月1日
- [「私の崇敬する人物」]『実業之日本』37-19、10月1日
- 日本貿易の躍進と其将来『専売協会誌』266、10月1日
- 日露関係を中心とした外交問題[9月15日講演]『土木業協会会報』55、10月9日
- ソ連邦の連盟参加[「論壇」]『経済情報』9-21、10月11日
- ユ国王の崩御[「論説」]『報知新聞』10月11日<無署名>[『日記』10月10日：King Alexander I と
Barthou とがマルセイユで射殺]
- 講演 マルセイユ凶変と国際政局[16日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』10月16日
- ユーゴー国王暗殺の原因たる国内抗争[「時事解説」]『婦女新聞』1793、10月21日

諸外国は何と見る[「国防パンフレット問題」]『改造』16-12、11月1日[「国防の本義と其強化の提唱」に対する評論集](陸軍省新聞班編・刊、1934年)収録]

亜歴山一世を暗殺したマセドニア革命団『国際知識』14-11、11月1日

伊エ戦争と欧州の動き[談]『政友』424、11月1日

座談会 神経質『婦人之友』28-11、11月1日[9月29日座談会(於婦人之友社ホール):清沢冽、高良武久、高橋亀吉、徳田秋声、林麟、三木清、羽仁吉一、羽仁もと子][「婦人雑誌」がつくる大正・昭和の女性像 第20巻 社会・時代 3](ゆまに書房、2015年)、『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

マルセーユの兇変『文芸春秋』12-11、11月1日

予算編成の前途を悲観せず蔵相が功績を誇る日本を待望する[「論説」]『報知新聞』11月8日<<無署名>>[『日記』11月6日:藤井蔵相の増税案]

日本を中心とせる最近欧米国際情勢[10月20日於芝協定会館]『旬刊講演集』376(12-31)、11月10日

仏国の政変[「論説」]『報知新聞』11月10日<<無署名>>[『日記』11月9日:フランスの政変]

軍縮会議と農村[「政治・社会時評」]『ダイヤモンド』22-33、11月11日

外交・産業を得て軍備は全し 芦田均氏が説く国際政治の動向[10月29日講演概要(於一橋新聞創刊十周年記念講演会)]『一橋新聞』198、11月12日

金ブロックの動揺[「論説」]『報知新聞』11月22日<<無署名>>[『日記』11月19日:金ブロックの動揺]

高橋は清翁の蔵相就任 [「論説」]『報知新聞』11月28日<<無署名>>[『日記』11月27日:高橋は清翁が又蔵相を引受けたとの号外、急に論説を書く]

内輪げんかは国の損[「そこばくの言」]『実業之日本』37-23、12月1日

青表紙論[「随筆」]『政界往来』5-12、12月1日

西洋で迎へたクリスマス[口絵]『婦人之友』28-12、12月1日

議会政治の前途[「随筆」]『週刊朝日』26-26、12月2日

1935(昭和10)年

政治の今明日を語る『月刊維新』2-1、1月1日[1934年11月30日座談会(於上野精養軒):大塚惟精、岡部長景、風見章、船田中、金内良輔、津久井龍雄、赤松克麿、中谷武世、下中弥三郎]

議会政治の将来『政友』414、1月1日

一九三五年の極東情勢[「一九三五年危機の再検討」]『世界知識』8-1、1月1日

条約廃棄と列強の動向『中央公論』50-1、1月1日

「いまの日本に欲しいもの」『婦人之友』29-1、1月1日

一九三五・六年の危機検討座談会『文芸春秋』13-1、1月1日[1934年12月4日座談会(於芝公園浪華家):小野武夫、佐々弘雄、高橋亀吉、田中耕太郎、平田晋策、横田喜三郎、斎藤龍太郎]

独立自尊[「現代青年男女に望む」]『報国』4-1、1月1日

危機の外交 軍縮の目的達成には政治的利害の調節が必要『大阪時事新報』1月4日

一九三五年の世界『報知新聞』1月5～7日

ドイツの大勝と其の波紋[「ザール帰属決定の後に来るもの」]『ダイヤモンド』23-3、1月21日

ザール問題の結着と其影響『外交時報』73-3[724]、2月1日

外交の立場から[「国策の中心を何処に置く」]『経済往来』10-2、2月1日

故国を離れて住む方々へ[「新婚当時は思ひ出して新夫婦へ」]『婦人公論』20-2、2月1日

欧州政局の前途とザール帰属問題[1月18日、経済倶楽部定例午餐会講演要旨]『東洋経済新報』1638、2月2日

議会政治の将来[「政論」]『時局』28、2月5日

欧州安全工作の進捗[「論説」]『報知新聞』2月6日<<無署名>>[『日記』2月5日：英仏間の London Agreement]

ザール帰属問題と欧州政局の前途[1月18日、経済倶楽部定例午餐会講演]『経済倶楽部講演』79、2月22日

日支親善問題座談会『東洋経済新報』1641、2月23日[2月7日座談会(於東洋経済新報社楼上)：長谷川如是閑、阪西利八郎、芳沢謙吉、高木陸郎、長野朗、中山優、木村増太郎、杉森孝次郎、石橋湛山]

*議会政治の将来『青年日本』11-2、2月

世界は日本を何と見るか『雄弁』26-3、3月1日

陽春日本への観光客誘致事業と国際観光の実際を語る[「サンデー座談会」]『サンデー毎日』14-14、3月17日[座談会：田誠、道家斉一郎、林愛作、高久甚之助、千葉亀雄、青木槐三、辻平一、久住良三、山口久吉]

対支政策を中心とする当面の我が外交諸問題[「講演」]『ダイヤモンド』23-9、3月21日

*無策極まる外交『国論』2-3、3月

外客を迎へる用意『国際観光』3-2、4月1日

地中海の春—赤毛布の二日間—[「春光雑記」]『政界往来』6-4、4月1日

[「親子は同居か別居か」]『婦人公論』20-4、4月1日

[「日本女性の長所 短所 刻下の女性に望む所(婦人参政権是非)」]『歴史公論』4-4、4月1日

ストレーザ会議を中心として 三十年に逆戻りした欧州『時局』30、4月5日

今週の経済界『東洋経済新報』1648、4月13日[4月6日座談会(於東洋経済新報社)：高橋亀吉、西野喜与作、三宅晴暉、山田秀雄、山崎靖純、小汀利得、大口喜六、石橋湛山]

ストレーザ会議と欧州政局[「論説」]『報知新聞』4月13日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>

三十年前に逆戻りした欧州[4月13日於中央放送局]『旬刊講演集』391、4月20日

[「National Front to meet the Crisis」]『Nippon』3、4月20日

欧州政局の趣移を観る[「欧州政局の動向をどう見ねばならぬか」]『経済情報』10-12、4月21日

「世界の動向」を語る夕『経済往来』10-5、5月1日[4月8日座談会：出井盛之、清沢湧、杉森孝次郎、鈴木東民、室伏高信]

海軍軍縮を中心とする欧州列国の動向[2月15日講演於水交社]『有終』258、5月5日
ストレーザ会談以後『外交時報』74-4[731]、5月15日
ストレーザ会議を中心とした欧州[「特別寄稿」]『大陸日報』5月16日
欧州政局と英国の関係[「論説」]『報知新聞』5月25日<<無署名>>[『日記』5月23日：欧州と英独仏]
*伊藤正徳氏著『軍縮読本』『フザンボードクショカイ』5月
隠退するマクドナルド『経済往来』10-6、6月1日
『軍備競争狂時代と次の世界戦争』を語る夕『経済往来』10-6、6月1日[5月7日座談会(於東京会館)：
関根郡平、福永恭助、稲田正純、真方勲、山県有光、米田実、長谷川了]
しんぶんじやーなりずむ[「随感随想」]『政治経済時論』10-6、6月1日
トルコの海峡再武装と欧州政局[「欧州に相搏つ現状維持派と現状打破派」]『世界知識』8-6、6月1日
英内閣の改組[「論説」]『報知新聞』6月8日<<無署名>>[『日記』6月7日：英国の改組]
“海外放送”の意義と基準[「放送」]『放送』5-6、6月15日
英独会商と海軍々縮[「論説」]『報知新聞』6月21日<<無署名>>[『日記』6月19日：英仏海軍協定]<「芦
田均関係文書(書類の部)」140>
英国新内閣成立の意義[「恐慌渦巻く世界」]『中央公論』50-7、7月1日
最近世情批判座談会『文芸春秋』13-7、7月1日[6月6日座談会(於浜町浜のや)：関口泰、高柳賢三、
戸田貞三、三木清、蠟山政道、斉藤龍太郎][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)
収録]
エチオピア問題の重要性[「論説」]『報知新聞』7月5日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
大規模の新発展景気を期待する[「日満支経済ブロックへの期待と其財界影響」]『経済情報』10-20、7月
21日
アンソニー・イデン『経済往来』10-8、8月1日
太平洋上の建艦競争『行動』3-8、8月1日
エチオピア問題の真相『世界知識』8-8、8月1日
伊・エ戦はば[「論説」]『報知新聞』8月2日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
選挙の結果は懸念の要なし[「府県選挙の見透しと財界人の対応策」]『経済情報』10-23、8月21日
経済戦争の進展[「極東問題の新展開」]『中央公論』50-9、9月1日
エチオピアの戦雲[「今の問題」]『婦人之友』29-9、9月1日
国際裁判所判事の選任[「論説」]『報知新聞』9月6日<<無署名>>[『日記』9月3日：国際裁判所判事の
選挙]
伊・エ紛争と国際連盟[「論説」]『報知新聞』9月14日<<無署名>>[『日記』9月12日：伊エ紛争と国際
連盟]<「芦田均関係文書(書類の部)」140>
伊エ紛争を繞る欧米列国の動静『ダイヤモンド』23-28、9月21日
[「諸家の回答 選挙粛正と議会政治の前途」]『早稲田大学新聞』15、9月25日
エチオピアを繞る国際情勢『実業之日本』38-19、10月1日

- 伊エ紛争に躍る列国の外交[「動く欧羅巴」]『ダイヤモンド』23-29、10月1日
- 沿海州中立化の提唱[「今月の課題」]『日本評論』10-10、10月1日[英訳: Japan-Soviet relations in Far East 『The Japan Times & mail』10月8、9日]
- 伊エ開戦の波紋[「論説」]『報知新聞』10月5日<<無署名>>[『日記』10月4日: 伊エ開戦の波紋<<「芦田均関係文書(書類の部)」140>>
- 経済封鎖は至難 日本には多少好影響『報知新聞』10月10日[神戸大学附属図書館「新聞記事文庫」では、同日附で「経済封鎖を断行せば 完封は至難だが伊国の困窮絶大 日本には多少好影響」がある。本文は同一であるが、タイトルやレイアウト、カット写真の説明が異なる。版の違いであろうか]
- 欧州は果して闘ふか[10月5日(於東京放送局)]『旬刊講演集』409、10月20日
- 英伊和協の機運[「論説」]『報知新聞』10月23日<<無署名>><<「芦田均関係文書(書類の部)」140>>
- 欧州は果して戦ふか[「特別寄稿」]『大陸日報』10月29~31日、11月1日
- 英国総選挙の意義[「論説」]『報知新聞』10月30日<<無署名>>[『日記』10月27日: 英国総選挙の意義]
- 伊エ紛争の拡大性『外交時報』76-3[742]、11月1日
- 伊エ紛争と列強の態度『東方公論』10-11、11月1日
- エチオピアを繞る世界の情勢[講演(於全国実業教育会大会)]『産業と教育』2-11、11月3日
- フランスの悩[「論説」]『報知新聞』11月13日<<無署名>><<「芦田均関係文書(書類の部)」140>>
- 迷走低気圧の欧州『日本評論』10-12、12月1日
- 支那平価切下げの裏表[「動く支那」]『文芸春秋』13-12、12月1日
- エチオピア事件の過去と将来『雄弁』26-12、12月1日
- 軍縮会議の行詰[「論説」]『報知新聞』12月18日<<無署名>>[『日記』12月14日: London disarmament Conference]
- 英仏外相とエチオピア[「論説」]『報知新聞』12月22日<<無署名>><<「芦田均関係文書(書類の部)」138>>

1936(昭和 11)年

- 備忘録の功罪『国際知識』16-1、1月1日
- 軍縮決裂後に来るもの『日本評論』11-1、1月1日
- 日本の現在と将来『日本評論』11-1、1月1日[1935年12月2日座談会(於星ヶ岡): 馬場恒吾、近衛文麿、藤原銀次郎、長谷川如是閑、山川均、土方成美、杉森孝次郎、室伏高信]
- 軍縮会議脱退後の形勢と其の対策を語る『東洋経済新報』1690、1月25日[1月17日座談会(於東洋経済新報社楼上): 田川大吉郎、大口喜六、田昌、清沢洌、石丸藤太、福永恭助、水野広徳、三枝茂知、米田実、高橋亀吉、山田秀雄、三宅晴暉]
- 青年外相イーデン『中央公論』42-2、2月1日
- [「政友と民政はどちらが勝つかー来たるべき総選挙の予想」]『話』4-2、2月1日
- 海軍々縮条約の解消[「問題の分析と総合」]『婦人之友』30-2、2月1日
- [「葉書回答 名士の趣味の手帳」]『モダン日本』7-2、2月1日

ドイツの爆弾を繞りて[「論説」]『報知新聞』3月11日<<無署名>>[『日記』3月9日：ドイツの爆弾] <「芦田均関係文書(書類の部)」140>

時事解説[14日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』3月14日

独裁政治排撃の行手を明示 心強い態度の表明[「各方面の声に聴く 広田内閣の政綱批判」]『大阪毎日新聞』3月18日

独逸の爆弾宣言を繞りて[3月14日(於ジャパントイムス社)]『旬刊講演集』423(14-8)、3月20日

逐鹿挿話[「隨筆隨想」]『現代』17-4、4月1日

広田内閣人物合評会『実業之日本』39-7、4月1日[3月13日座談会：小汀利得、山浦貫一、清沢洌、喜多壯一郎]

ライン問題を繞る欧州の紛争『壮年団』2-4、4月1日

文化と暴力『文芸懇話会』1-4、4月1日[2月25日座談会：長谷川如是閑、清沢洌、馬場恒吾、杉森孝次郎、近松秋江]

広田内閣へ要望する座談会『文芸春秋』14-4、4月1日[3月9日座談会(於星ヶ丘茶寮)：阿部真之助、上田貞次郎、大口喜六、河野密、高橋亀吉、中島弥団次、鳩山一郎、馬場恒吾、菊池寛]

独逸のロカルノ条約廃棄宣言を繞りて[談]『講演の友』103、4月10日

日露関係の一考察[「論説」]『報知新聞』4月11日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>

エチオピアと國際道義[「論説」]『報知新聞』4月17日<<無署名>>[『日記』4月15日：エチオピアと國際道義] <「芦田均関係文書(書類の部)」139>

有田外相の第一声[「論説」]『報知新聞』4月28日<<無署名>>[『日記』4月26日：有田外相の第一声] <「芦田均関係文書(書類の部)」140>

独逸を睨む三人男『中央公論』51-5、5月1日

ラインランドの紛争[「問題の風景」]『婦人之友』30-5、5月1日

私の家ではこの二つを子供に実行させてゐる『婦人子供報知』125、5月24日

濠州との関税戦争[「論説」]『報知新聞』5月29日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>

青年政治家は何を求める『日本評論』11-6、6月1日[5月9日座談会：鶴見祐輔、船田中、吉植庄亮、風見章、喜多壯一郎、加藤鯛一、宮沢胤勇、片山哲、室伏高信]

極東の脅威ソヴェートを語る座談会『雄弁』27-6、6月1日[4月21日座談会：布施勝治、布利秋、長尾博、近藤義晴、山内封介]

仏国社会党内閣の難航[「論説」]『報知新聞』6月10日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>

ソヴェットの新憲法草案[「論説」]『報知新聞』6月20日<<無署名>>[『日記』6月16日：ロシアの新憲法] <「芦田均関係文書(書類の部)」140>

モンロー會議の停頓[「論説」]『報知新聞』7月4日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>

ソヴェート外交の変遷[6月26日講演筆記]『明治大学史学会々報』4、7月15日

米大統領選挙の予想『政友』432、8月1日

外は内より急なり[「判決以後の諸問題」]『中央公論』51-8、8月1日

日英関係の考察『日本評論』11-8、8月1日

- 〔「学制改革案是非」〕『婦人公論』21-8、8月1日
- 政民両党と外国国策〔「論説」〕『報知新聞』8月7日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 『電力民有国営の批判』座談会『東洋経済新報』1720、8月15日[8月7日座談会(於東洋経済新報社):
松本蒸治、永松利熊、浅野良三、来栖赳夫、太田収、松根宗一、三宅福馬、林安繁、三宅晴暉、山田
秀雄]
- スペインの不安はつゞく〔「論説」〕『報知新聞』8月21日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 〔「第十二回オリムピック東京開催に関する感想及び各方面への希望と註文(端書回答)」〕『改造』18-9、8
月1日
- 〔「五慾の人生・諸家に聞く」〕『人生創造』150、9月1日
- 天井と畳〔「隨筆」〕『政界往来』7-9、9月1日
- スペイン内乱と国際政局〔「スペイン革命と其波紋」〕『日本評論』11-9、9月1日
- 日本から予想する米国大統領選挙〔「特別寄稿」〕『大陸日報』9月1、2、4、5、8日
- 成都事件と北支問題〔「論説」〕『報知新聞』9月9日<<無署名>>〔『日記』9月4日:成都事件の□□^{スペイン}〕
- 西班牙の動乱に就て[8月26日講演(於帝国鉄道協会)]『鉄道協会会報』37-9、9月25日
- 蔣氏の交渉関与を勧告す〔「論説」〕『報知新聞』9月30日<<無署名>>〔『日記』9月27日:北支の論説〕
- ヴェルサイユの吊鐘『外交時報』80-1[764]、10月1日
- 〔「何処の何が一番うまかつたか」〕『実業之日本』39-19、10月1日
- 現下の極東情勢と露英米の動き『染織之流行』18-10、10月1日
- 通貨安定は可能か〔「論説」〕『報知新聞』10月3日<<無署名>>〔日記10月1日:フラン切下げ論〕<「芦田
均関係文書(書類の部)」140>
- スペイン革命の悲劇『333』1-1、10月10日
- 欧州の政情と極東問題『京都教育』643~647、10月15日、11月1、15日、12月1日、**1937年**1月1
日
- スペインを繞る角突合〔「論説」〕『報知新聞』10月27日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 東亜の現勢と外国国策[10月8日講演(於蒲田區教育会)]『旬刊講演集』445、10月30日
- *興味ある米国大統領選挙『時局』[42]、10月
- 〔「ベン俱樂部大会に誰を招くか(端書回答)」〕『文芸懇話会』1-11、11月1日
- 英国総選挙の結果〔「論説」〕『報知新聞』11月16日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 動く欧羅巴の政情『友友』436、12月1日
- 極東の情勢と日独協定『染織之流行』18-12、12月1日
- 来る年への準備〔「歳末随感」〕『報国』5-12、12月1日
- 欧州諸強の連衡と日本〔「論説」〕『報知新聞』12月1日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 講演 欧州の現状[16日 JOAK 放送案内、「ラヂオ」]『東京朝日新聞』12月16日
- 現時の国際情勢『地の塩』92、12月19日

支那動乱の反響[「論説」]『報知新聞』12月23日<<無署名>>[『日記』12月17日：支那動乱の反響]

1937(昭和12)年

世界の動き『新女苑』1-1、1月1日

一九三七年の国際展望『壮年団』3-1、1月1日

危機は欧州か極東か[「日本外交批判」]『中央公論』52-1、1月1日[『危機は欧州か極東か』収録]

「非常時外交の打開」[校閲済講演速記、1936年10月20日神戸貿易同志会主催講演(於貿易会館)]『同志』5、1月1日

秘密外交の失敗[「秘密外交の失態を叩く」]『日本評論』12-1、1月1日

自由なき生活[「名士寸閑寸話」]『婦女界』55-1、1月1日

[「1.私の憂ひ 2.私の喜び(又は希望)」]『婦人之友』31-1、1月1日

西安事変と支那の前途 我对支政策の転換を語る『東洋経済新報』1740、1月2日[12月15日座談会(於東洋経済新報社樓上)：高木陸郎、太田宇之助、山崎靖純、荳原達、高垣寅次郎、土屋計左右、林久治郎、清沢洌、三宅晴暉、石橋湛山]

軍備競争の行手[「昭和十二年の新展望 外交」]『京都帝国大学新聞』257、1月20日

危機迫る国際関係[「時事問題早分かり」]『キング』13-2、2月1日

大英国の新皇帝ジョージ六世陛下『現代』18-2、2月1日

忘れられぬスペイン人の親切[「随想随感」]『現代』18-2、2月1日

時事解説 世界の動き『新女苑』1-2、2月1日

*東亜の現勢と我外交国策『政治経済時論』12-2、2月1日<九州大学附属図書館所蔵>

秘密外交を糾弾す『中央公論』52-2、2月1日

「曖昧」を語る『婦人之友』31-2、2月1日[12月28日座談会(於南沢)：清沢洌、有沢広巳、今井登志喜、徳田秋声、三宅鈺一、羽仁吉一、羽仁もと子][『徳田秋聲全集 第25巻』(八木書店、2011年)収録]

ロシア外交論『文芸春秋』15-2、2月1日

食卓の訓練[「私の家の食事の作法」]『婦人子供報知』142、2月24日

*日支関係は何うなる『時局』[46]、2月

世界の動き『新女苑』1-3、3月1日

新日本の「前夜」を語る会『ダイヤモンド』25-7、3月1日[2月19日座談会(於レインボー・グリル)：木村正義、水谷長三郎、風見章、村松久義、北吟吉、山崎靖純、野崎龍七、阿部留太、石山賢吉]

外交国策をどうする『中外日報』3月2~7、9~14、16~21、23~28、30、31日、4月1~3日

戦争はいつ始まるか『サンデー毎日』16-12、3月7日

佐藤外相論『改造』19-4、4月1日[「佐藤外相を語る」と改題]『危機は欧州か極東か』収録]

国際時事『新女苑』1-4、4月1日

帝国の外交方針に就て『政友』439、4月1日

- 新日本の「前夜」を語る会[『ダイヤモンド』誌から転載]『祖国』9-4、4月1日[2月19日座談会(於レイ
ンボー・グリル):木村正義、水谷長三郎、風見章、村松久義、北吟吉、山崎靖純、野崎龍七、阿部
留太、石山賢吉]
- 支那の再認識を語る『日本評論』12-4、4月1日[座談会:雨宮巽、太田宇之助、山崎靖純、佐藤安之助、
高木陸郎、太田一郎、室伏高信]
- 「文化勲章は誰に授けて貰ひたいか」『話』5-4、4月1日
- 絶えず動く働き場[口絵]『婦人之友』31-4、4月1日
- 日本外交の刷新『雄弁』28-4、4月1日[『危機は欧州か極東か』収録]
- 国際時事『新女苑』1-5、5月1日
- カズベツクの妖女[「新聞人ばかりの談話室」]『話』5-5、5月1日
- 英国大宰相の勇退[「論説」]『報知新聞』5月29日<<無署名>>[『日記』5月28日:Baldwin引退]<「芦
田均関係文書(書類の部)」140>
- 世界の危機・日本の立場『人生創造』14-6、6月1日
- 「新代議士に訊く」『婦人新報』471、6月1日
- 英国戴冠式を繞る外交の舞台裏『ラヂオ講演講座』3、6月15日[『危機は欧州か極東か』収録]
- 赤軍首脳部の更迭[「論説」]『報知新聞』6月20日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- スペイン革命の余燼『経済マガジン』1-2、7月1日
- 「四十歳のとき私は何をしてゐたか」『実業之日本』40-13、7月1日
- 趣味と人生『実業之日本』40-13、7月1日
- 英帝国主義論『文芸春秋』15-7、7月1日
- 戦争の危機は欧州か極東か[「特別寄稿」]『大陸日報』7月2、3、5、6日
- 「読者より」『近きより』1-4、7月5日
- 「私の趣味 同好の友・好敵手を語る」『実業之日本』40-14、7月15日
- スペイン革命と国際戦争『財政』2-9、8月1日
- 「近衛内閣と新党問題(葉書回答)」『政界往来』8-8、8月1日
- 貿易及び関係産業調整問題—衆議院における質問要旨『政友』443、8月1日
- 「私が若し大臣だったら」『報国』6-8、8月1日
- 支那の対ソ政策不成功[「論説」]『報知新聞』8月31日<<無署名>>[『日記』8月30日:ソ支条約、支那
外交の失敗]
- 「国家非常時の放送への註文」『放送』7-9、9月15日
- ソ支不可侵条約『ラヂオ講演講座』13、9月15日
- 大戦の重圧と露国青年の動き[「欧州大戦と学生の動向」]『三田新聞』379、9月25日
- 世界の動き[7月8日講演(於南洋協會第29回定時総会講演会)校閲済速記]『南洋』23-10、10月1日
- 時局を語る『婦人之友』31-10、10月1日[9月4日座談会(於南沢):蠟山政道、三宅雄二郎、佐野学羽、

山本鼎、杉森孝次郎、杉山元治郎、高橋亀吉、東畑精一、羽仁吉一、羽仁もと子]

支那事変と日蘇関係座談会『文芸春秋』16-10、10月1日[9月7日座談会(於芝紅葉館):小林一三、茂森唯士、長谷川了、藤沢親雄、藤枝丈夫、安田徳也]

戦争と外交[「随筆」]『サンデー毎日』16-53、10月17日

九ヶ国会議で日支意志疎通?[談]『日布時事』10月22日

日本の勢力下に獨立國を作らぬこれが日本政府の根本方針[談]『日布時事』10月29日

ソ支不可侵條約とソ連の動向『海之世界』31-11、11月1日

ソ連は動くか日本をめぐる國際輿論『婦人公論』22-11、11月1日

國家宣傳論『雄弁』28-11、11月1日

英米の真意をさぐる『報知新聞[夕刊]』11月9日

米國の支援援助は民主々義援助たらず[ラジオ演説要旨]『日布時事』11月9日

芦田國民使節に聴く[國際電話筆記]『報知新聞』11月25日

太平洋上の國民使節大座談会 大倉・伍堂・松方三遣外使節を囲んで[山田わか「主婦之友遣米使節第一信」]『主婦之友』21-12、12月1日[10月18日座談会:大倉喜七郎、伍堂卓雄、松方幸次郎、伊藤正徳、齊藤惣一、田中寛一、野村洋三、笹尾久米太郎、山田わか]

1938(昭和13)年

[「芦田使節香港着」中の談]『東京朝日新聞』2月9日

欧米を行脚して[2月19日AK放送]『ラヂオ講演講座』29、3月5日

世界政治の新しき動向—國民使節の旅を了へて—『ダイヤモンド』26-9、3月21日[『欧米見たまゝ』収録]

長期戦下の我國際情勢—國民使節報告中心の座談会『東洋經濟新報』1805、3月26日[3月11日座談会(於丸の内常盤家):鈴木文治、笠間泉雄、長谷川如是閑、杉森孝次郎、蜂谷輝雄、神原周平、根津知好、山田秀雄、三宅晴暉][一部を「欧米の景氣と日本」と題して『欧米見たまゝ』収録]

回教の社会『善隣協會調査月報』71、4月1日

[「現代お作法への希望」]『婦人公論』23-4、4月1日

聖林の昨日けふ[「随筆」]『文芸春秋』16-6、4月1日[『欧米見たまゝ』収録]

世界見たまゝ『雄弁』29-4、4月1日[「印象の深かつた事」と改題『欧米見たまゝ』収録]

獨逸合併と欧州の新情勢[3月18日AK放送]『ラヂオ講演講座』32、4月5日[『欧米見たまゝ』収録]

獨逸合併後の世界情勢[「論説」]『報知新聞』4月7日

英伊協定の調印[「論説」]『報知新聞』4月16日

英仏會談の成果如何[「論説」]『報知新聞』4月30日

思想的に國家が対立する世界の現勢[「帰朝した國民使節からの報告」]『家の光』14-5、5月1日[冒頭部分「三人の國王、三人の大統領に拝謁」を「序言」と改題『欧米見たまゝ』収録]

思想的に國家が対立する世界の現勢[「帰朝した國民使節からの報告」]『家の光[都市版]』14-5、5月1日

- 列強軍備の背後に潜む思想戦『財政』3-5、5月1日[『欧米見たま』収録]
- 英外交の再検討『文芸春秋』16-7、5月1日[「イギリス外交の再検討」と改題『欧米見たま』収録]
- 印度よ何処へ『報知新聞』5月3～5日[「政争渦中の印度」と改題『欧米見たま』収録]
- 外交科試験の廃止[「文化評論」]『帝国大学新聞』719、5月9日
- ローマ会議の成果[「論説」]『報知新聞』5月11日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 世界はどこへ行く[「国民よ海外を眺め国内を顧みよ!」]『家の光』14-6、6月1日
- 世界はどこへ行く[「国民よ海外を眺め国内を顧みよ!」]『家の光(都市版)』14-6、6月1日
- フラーダンス『三十日』6、6月1日
- 最近の外交問題『政友』452、6月1日
- 列強の動向と極東への重圧『日本評論』13-7、6月1日[「列強の軍拡と極東への重圧」と改題『欧米見たま』収録]
- 列強の軍拡を中心として[4月28日帝国鉄道協会講演]『汎交通』39-6、6月1日
- いかもの喰ひ『婦人之友』32-6、6月1日
- [「感心した旅行公德 齷齪した旅行不徳」]『旅』15-6、6月1日
- 空爆と海外の輿論[「論説」]『報知新聞』6月15日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- チェッコ問題と欧州[5月27日AK放送]『ラヂオ講演講座』39、6月15日[『欧米見たま』収録]
- 欧米列強の動向を見る[6月10日講演於大阪国民会館]『講演時報』15-18、6月25日
- 軍拡の世界的趨勢と日本『財政』3-7、7月1日
- 第三国の動向に冷静なれ[「論説」]『報知新聞』7月1日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>
- 欧米列強の動向を見る『公民講座』164、165、7月1日、8月1日
- 事変を繞る最近列強の動き[記者によるインタビュー形式]『ダイヤモンド』26-20、7月11日
- 英国皇帝の巴里御訪問[「論説」]『報知新聞』7月21日
- 支那事変と列強の動き『訓育』3-8、8月1日
- [「①処世の急所はこゝにある ②上手と下手の分れ道」]『青年』23-8、8月1日
- 支那事変と列強の動き[一問一答形式]『政友』454、8月1日
- [「お子様のお名前 命名の由來」]『婦人倶楽部』19-10、8月1日
- 噴火山頂の支那・スペイン・チェッコ『婦人公論』23-8、8月1日
- 第三国を指導せよ[「論説」]『報知新聞』8月2日
- 輿論調査機関設立の提唱[「論説」]『報知新聞』8月13日
- 独洪の交歓[「論説」]『報知新聞』8月26日
- *時局下の宗教に何を求めるか『ひのもと』[1-?]、8月
- 眼に映る政治家群像[「時の問題・人」]『婦人之友』32-10、9月1日
- ヒトラー総統の演説[「論説」]『報知新聞』9月14日

中央ヨーロッパの風雲『ラヂオ講演講座』48、9月15日

英独巨頭の平和工作[「論説」]『報知新聞』9月17日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>

漢口攻略後の問題 注目の的は支那内政の転換『京都帝国大学新聞』284、9月20日

チエツコの運命と欧州『旬刊講演集』512、9月30日

Miscalculations『Japan To-day』7、10月1日[邦訳「誤算」とともに『『Japan To-day』研究 戦時期『文藝春秋』の海外発信』<日文研叢書 48>(人間文化研究機構国際日本文化研究センター、2011年)収録]

ゴールド・ラツシュ[「随筆」]『政界往来』9-10、10月1日

ゴールド・ラツシュ『政友』456、10月1日

[「車窓に名物を呼ぶ」]『旅』15-10、10月1日

四巨頭会談の成果[「論説」]『報知新聞』10月1日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>

チエツコ問題はどうか『ラヂオ講演講座』50、10月5日

ヨーロッパ政局の新展開—ミュンヘン協定後の欧州政局—『ラヂオ講演講座』52、10月25日

知りたくて知られぬ悩[「随筆・随想」]『国際知識及評論』18-11、11月1日

[「武漢・広東攻略後に対処すべき我が国の方針(葉書回答)」]『国策研究』9-11、11月1日

[「私の読書時間」]『実業之日本』41-22、11月1日

ヨーロッパ政局の新展開『政友』457、11月1日

座談会『型を破る』『婦人之友』32-12、11月1日[10月5日座談会(於南沢・自由学園): 三宅雪嶺、三宅火圃、杉森孝次郎、尾佐竹猛、大口喜六、長谷川如是閑、羽仁吉一、羽仁もと子]

米国の選挙は何を語る[「論説」]『報知新聞』11月11日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>

門戸開放と米国政府[「論説」]『報知新聞』11月12日

信用と充実[「現下“海外放送”に望む」]『放送』8-11、11月15日

欧州政局最近の動向[「論説」]『報知新聞』11月18日

門戸開放と米国政府[「論説」]『報知新聞』11月20日<「芦田均関係文書(書類の部)」140>

米国民論の方向『財政』3-12、12月1日

アンタント・コルジアルの今昔—エドワード七世の面影—『世界知識』11-13、12月1日

東亜の新秩序と第三国『ダイヤモンド』26-36、12月1日[11月25日座談会(於交詢社): 重徳泗水、蠟山政道、尾崎秀実、内田勝司、野崎龍七]

野間先生を憶ふ[「野間社長逝去について諸名士の言葉」]『雄弁』29-12、12月1日

英国政府の声明と極東[「論説」]『報知新聞』12月4日

四国協調の効果『エコノミスト』16-35、12月11日

埃太利の最後の日『学鏡』42-12、12月20日

対支文化事業の使命[「論説」]『報知新聞』12月30日

1939(昭和14)年

- 波瀾を予想させる一九三九年『公民講座』179、1月1日
- 破壊から新しい秩序へ 世界はどう動く？国際間の転変を見る一『サンデー毎日』18-1・2、1月1日
- 外交思ひ出席談話『サンデー毎日』18-1、1月1日[10月25日座談会(於芝公園浪花家)：伊東述史、笠間梶雄、清沢冽、田村幸策、松本忠雄]
- 世界に大勢に順応 針路を誤るな[「国民に寄す 各国民使節」]『大阪毎日新聞』1月2日
- [「諸家回答 一、昨年中にお読みになつた本で感銘されたものは 二、その理由？ 三、読まうと思ひながらお読みになれなかつた本？」]『日本読書新聞』69、1月5日
- 支那事変を繞る列国の動向(六)『京都教育』697、1月15日
- 世界の桎舞台に立つ日本[12月27日AK放送]『ラヂオ講演講座』60、1月15日
- 平沼内閣に何を求むべきか[「時事断想」]『報知新聞』1月16日
- 西班牙はどうなる『報知新聞』1月27日
- 戦略と政略との調和[「平沼内閣への直言」]『中央公論』54-2、2月1日
- 「東亜に迫る世界の圧力」座談会『文芸春秋』17-3、2月1日[12月26日座談会(於星ヶ丘茶寮)：清沢冽、伊藤正徳、尾崎秀実、神川彦松、志岐守治、松島慶三、丸山政男]
- 英米の申入れについて[1月20日]『ラヂオ講演講座』62、2月5日
- 人民戦線政府の崩壊とその波紋『福岡日日新聞』2月9、10日
- 新スペインと慌しき欧米政局『ダイヤモンド』27-5、2月11日
- スペインの前途『新愛知』2月11、12日[11日付のみ夕刊]
- 万国博への出品『東京朝日新聞』2月17、18日
- *米国の対日情勢と蚕絲業『蚕絲情報』2-2、2月
- 日英関係の現段階『商工経済』7-3、3月1日
- 欧州列強の争覇とスペインの前途『内外公論』18-3、3月1日
- 依然「フジヤマ」の因襲 万国博への出品[「フキーチュア欄」]『羅府新報』3月12日
- 議会の外交論『外交』394、3月21日[竹内夏積編『民族外交の顔』(岡倉書房、1940年)収録]
- Removing Misunderstanding between Britain and Japan 『The Japan Times & Mail』3月24日
- 独逸は東に出て行くか『財政』4-4、4月1日
- [「私の酒・煙草・茶」]『実業之日本』42-7、4月1日
- 現下の世界情勢と吾等の覚悟『禪の生活』18-4、4月1日
- チエツコ併合の余燼『創造』9-4、4月1日
- 事変外交篇『中央公論』54-4 附録<『当面日本の全面的分析 解説』>、4月1日
- 国際情勢と日本の地位『朝鮮及満洲』377、4月1日
- 反独同盟成るか『新愛知』4月2、3日

ユダヤ人の勢力[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』4月5日

チエツコ併合とドイツの東方政策[3月17日AK放送]『ラヂオ講演講座』68、4月5日

反独同盟成るか『福岡日日新聞』4月6、8日

防共枢軸を中心とする欧州の外交戦『文芸春秋』17-8<現地報告 時局増刊19>、4月10日

バルカンの宿命『東京朝日新聞』4月13～16日

チエツコ併合とその波紋[3月24日AK放送]『ラヂオ講演講座』69、4月15日

全体主義の進出 民族と思想の角逐[「学芸特輯 世界の胎動」]『読売新聞[夕刊]』4月18日

嵐を孕む欧州[4月6日講演(於火災保険倶楽部)]『講演』431、4月20日

ドイツの東方政策『エコノミスト』17-12、4月21日

英国の場合[「欧州危機の諸情勢を語る」]『ダイヤモンド』27-12、4月21日

破局は近づいた[「爆発するか欧州」]『週刊朝日』35-19、4月23日

世界危機の発火点を探る座談会『家の光』15-5、5月1日[3月13日座談会：清沢冽、鈴木東民、丸山政男]

[「この際学生に読ませたい書物」]『革新』2-5、5月1日

ドイツ包圍政策の成敗と欧州の運命『国策研究』10-5、5月1日

欧州の危局[「危機を孕む欧州政局の分析」]『政界往来』10-5、5月1日

反独同盟成るか 平和か戦争か爆発の危機は世界に満つ『内外公論』18-5、5月1日

[「私は何になりたかつたかー葉書回答ー」]『話』7-5、5月1日

「戦争と民族問題」座談会『文芸春秋』17-9、5月1日[4月6日座談会(於星ヶ岡茶寮)：今井登志喜、宇野円空、加田哲二、神川彦松、松本信広]

米国大統領の曲芸『サンデー毎日』18-24、5月7日

欧州の危機『学会月報』614、5月20日

独伊の攻勢と英仏の守勢[5月8日講演於AK放送]『旬刊講演集』534、5月20日

英仏とソ連の提携『新愛知』5月31日、6月1日

独伊の攻勢と英仏の守勢『外交時報』90-5[828]、6月1日

千変万化の欧州風雲『改造』21-6、6月1日

欧州の形勢[「時事問題早分かり」]『キング』15-7、6月1日

芦田均氏を囲んでーこれからの生活を訊く『婦人画報』424、6月1日[4月30日座談会：記者および一般読者]

欧州の危局[「講演」]『法曹会雑誌』17-6、7、6月1日、7月1日

英仏ソ連の提携『福岡日日新聞』6月3、4日

欧米人の日本観[1938年9月20日講演於東洋婦人教育会常集会]『東洋婦人教育会々報』1、6月25日

リトヴィーノフ失脚とソ連の外交『財政』4-7、7月1日

- 欧州低気圧の観測[「最近世界情勢検討」]『ダイヤモンド』27-19、7月1日
- 「文化宣伝としての観光宣伝を語る」座談会『国際観光』7-3、7月25日[座談会：清沢冽、黒田清、高久甚之助、高柳賢三、辰野隆、頼母木眞六、鶴見祐輔、片岡譚郎、井上萬壽藏、横田巖ほか]
- 欧州大戦は如何に闘はれるか『経済マガジン』3-8、8月1日
- ドイツ民族とスラヴ族の闘争『国際知識及評論』19-8、8月1日
- ダンチツヒより天津租界へ[「時の問題・人」]『婦人之友』33-8、8月1日
- 独ソ不可侵条約『福岡日日新聞』8月24、25日
- 日米通商条約の廃棄について『商工経済』8-3、9月1日
- 「官僚に対する不平と希望—ハガキ回答—」『政界往来』10-9、9月1日
- 独ソ協定は何故結ばれたか[「独ソ協定の総分析と政変」]『ダイヤモンド』27-26、9月1日
- 全地球を掩ふ不連続線—触即発の世界情勢—『雄弁』30-9、9月1日
- 独蘇提携の波紋と我が対外方針『東洋経済新報』1884、9月2日[座談会：津久井龍雄、太田宇之助、松本丞治、佐藤安之助、直井武夫、石橋湛山]
- 日英会談決裂 雨が風がダンチツヒ[「興亜展望」]『週刊朝日』36-12、9月3日
- 第二次世界大戦に寄す『東京朝日新聞』9月4～6日
- 欧州情勢と我が国の将来[6月3、5日講演(於岡山県経済倶楽部晩餐会・福岡経済倶楽部晩餐会)]『経済倶楽部講演』昭和14年第25輯、9月7日
- 戦争と国民性『読売新聞[夕刊]』9月7～10日
- 動乱欧州の総括的展望を法学博士芦田均氏に訊く[インタビュー]『ダイヤモンド』27-27、9月11日
- 欧州大戦の外交戦術『福岡日日新聞』9月19、21～22日
- 欧州大戦の外交『新愛知[夕刊]』9月20～22日
- 「欧州大戦の頃—ハガキ回答—」『日本読書新聞』95、9月25日
- バルカンの危機『東京朝日新聞』9月26、27日
- 蘇連の動向を占ふ『改造』21-11、9月28日
- 大戦はいかに闘はれるか『経済マガジン』3-10、10月1日[座談会：宮沢胤勇、福山寛邦、秋山邦雄、高瀬五郎、野崎龍七]
- 世界大戦の見透し『公民講座』179、10月1日
- 「欧州戦はどこまで発展するか—長期戦か短期戦か—」『実業之日本』42-19、10月1日
- 「日本外交よ！世界大戦にかく対処せよ」『大陸』2-10、10月1日
- 米国は大戦に捲き込まれる『知性』2-10、10月1日
- 動乱欧州の前途(座談会)『中央公論』54-10、10月1日[9月7日座談会(於偕樂園)：馬場恒吾、堀真琴、城戸又一、丸山政男、益田豊彦、尾崎秀実、斉藤忠、鈴木東民]
- 世界大戦の見透し『日本評論』14-10、10月1日
- 座談会—世界新情勢の中に立つ『婦人之友』33-10、10月1日[9月13日座談会(於目白・明日館)：清沢

冽、石渡壯太郎、大蔵公望、杉森孝次郎、鈴木梅太郎、長谷川如是閑、三田村篤志郎、三宅雪嶺、三宅驥一、山本忠興、羽仁吉一、羽仁もと子]

[[良書紹介]『図書』45、10月5日

待機するアメリカ『中央公論』54-11、10月10日

興亜戦線と欧州の新情勢[「動乱の欧州」]『通信協会雑誌』374、10月10日

世界大戦の見通し『綿業時報』7-10、10月10日

欧州大戦勝敗の鍵を探る『家の光』15-11、11月1日

欧州大戦勝敗の鍵を探る『家の光[都市版]』15-11、11月1日

*欧州戦争と日本[講演]『公民教育』9-11、11月1日

米国は援蒋するか『創造』9-12、11月1日

欧州大戦の表裏を語る座談会『雄弁』30-11、11月1日[9月28日座談会(於偕楽園):加藤尚雄、秋山邦雄、田村幸策、木村毅、清沢冽、高瀬五郎]

アメリカを動かす力『旬刊時事特輯』39、11月11日

[[大戦はがき回答]『週刊朝日』36-23、11月12日

欧州戦争と日本[11月23日於日比谷公会堂]『旬刊講演集』553、11月30日

[[英語必須科制撤去問題]『学生生活』2-12、12月1日

[[私の処世信条]『向上』33-12、12月1日

アメリカは何を考へてゐるか[「世界各国の現状」]『新女苑』3-12、12月1日

雨か?風か?暗雲低迷する日米関係を語る座談会『大陸』2-12、12月1日[10月23日座談会(於晩翠館):清沢冽、加田哲二、高柳賢三、山本実彦]

大戦の始まった頃[[隨筆]『モダン日本』10-12、12月1日

内・物価政策の破綻 外・赫々たる南方作戦[「興亜展望」]『週刊朝日』36-26、12月3日

照国丸事件の反響 白米禁止を実行[「興亜展望」]『週刊朝日』36-27、12月10日

日ソ漁業交渉好転 芬蘭ソ連に屈服[「興亜展望」]『週刊朝日』36-28、12月17日

五党首会談—国民の協力を要求 米の輿論と伊の動向[「興亜展望」]『週刊朝日』36-29、12月24日

こゝ二三ヶ月は西部戦線異状なし[「興亜展望」]『週刊朝日』36-30、12月31日

*大戦と事変処理の限界『外地評論』12月

1940(昭和15)年

世界の方向は和平に進む『九州日日新聞』1月1日

世界政局と日本の進路を語る『経済マガジン』4-1、1月1日[11月27日座談会(於常盤):北吟吉、蠟山政道、高木友三郎、関根郡平]

[[皇紀二千六百年を迎ふる覚悟と希望]『公民講座』182、1月1日

欧州の争覇と戦争目的『財政』5-1、1月1日

- 〔「興亜の大業と語学者の使命」〕『ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド』17-1、1月1日
- 座談会「文化の空虚を衝く」『知性』3-1、1月1日〔11月6日座談会(於山水楼)：辻次郎、三木清、菅井準一〕〔『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版、2018年)収録〕
- 〔「二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ」〕『婦人之友』34-1、1月1日
- 来るべき外交戦と日本の立場『北海タイムス』1月1、3、5日
- 新東亜外交戦 事変処理と現実政策『新愛知[夕刊]』1月5、7、9、10日
- 来るべき外交戦と日本の立場『福岡日日新聞[夕刊]』1月5、7、9、10日
- 欧州戦争の帰結『台湾日日新報』1月6日
- 日本とアメリカ『台湾日日新報』1月10日
- 皇紀二千六百年と日本の外交『通信協会雑誌』377、1月10日
- 来るべき外交戦『河北新報』1月17、18日
- 欧州に漂ふ和平の機運『京都帝国大学新聞』308、1月20日
- 対ソ、対策方針が新外交の命題〔「米内内閣に望む」〕『福岡日日新聞』1月21日
- 反共か容共転換か 外交の当面する命題〔「新内閣に要望す」〕『北海タイムス』1月22日
- 苦き外交経験を活かせ〔「新内閣に要望す」〕『新愛知[夕刊]』1月23日
- 「父の日記など」を讀みて〔「会員の著作」〕『龍門雑誌』616、1月25日
- 多難なる外交当局 当局の肚と腕に期待〔「新内閣に要望す」〕『河北新報』1月26日
- フィンランドの冬〔「隨筆」〕『科学知識』20-2、2月1日〔林麟・藤島亥治郎編『科学春秋』(力書房、1943年)収録〕
- 欧州に漂ふ和平の機運『染織之流行』22-2、2月1日
- 政党復活論の分析『日本評論』15-2、2月1日〔12月28日座談会：馬場恒吾、河野密、斎藤隆夫、鶴見祐輔〕
- 〔「浅間丸事件をどう思ふ？」〕『アサヒグラフ』34-5、2月7日
- 欧州大戦と極東問題〔講演於熊本經濟俱樂部晚餐会(1939年11月11日)、長崎經濟俱樂部晚餐会(12日)〕『經濟俱樂部講演』昭和15年第3輯、2月12日
- 欧州戦争と極東〔「時局講座」〕『蚕糸經濟』125、2月15日
- 日本戦時外交談義『実業之日本』43-4、2月15日〔2月1日対談(於丸の内会館)：清沢冽〕
- 動かない欧州の情勢〔「学芸」〕『読売新聞』2月22～24日
- 七十五議会の審判『改造』22-4、3月1日〔座談会：小汀利得、谷川徹三、矢部貞治、東畑精一、水谷長三郎、久米正雄〕
- 戦局は北欧南欧に拡がるか『ダイヤモンド』28-7、3月1日
- 欧州大戦と極東『公民講座』185、4月1日
- 〔「欧州戦は和平か、継続か」〕『実業之日本』43-7、4月1日
- 議会の言論〔「隨筆」〕『モダン日本』11-4、4月1日

汪政権の樹立と対外関係『新国策』4-10、4月5日

〔「本誌第四周年記念、諸友有志諸氏の御回答文 一 『近きより』を評す 二 正木呉に苦言を呈す 三 貴下の御近況』』近きより』4-4、4月5日

〔「良書紹介』』図書』51、4月5日

〔「日本の政治に何を望むか』』実業之日本』43-8、4月15日

決定的要素たり得ず〔「特輯 大戦は更に拡大するか?』』東洋経済新報』1917、4月20日

北欧作戦に対する法学博士芦田均氏の観測[「問一答形式』』ダイヤモンド』28-12、4月21日

世界に網を張る通信組織『東京朝日新聞』4月24、25日

世界戦争の展望『読売新聞』4月26~28、30日、5月1、3、4、7日〔座談会：安東昌喬、長谷川正道、高瀬五郎、秋山邦雄、白鳥敏夫、笠間旻雄〕

非常時と武藤先生の政治理論〔講演於第7回武藤記念講座』』公民講座』186、5月1日

東亞連盟と欧州連邦『国際知識及評論』20-5、5月1日

時局を中心とせる国際情勢『法曹公論』44-5、6、5月1日、6月1日

旅支度のこと一廃めたい歓迎迎一〔「旅心有情 私の旅行報告』』ホーム・ライフ』6-5、5月1日

最近に於ける近東の外交戦『京都帝国大学新聞』312、5月5日

俗人の読書観『東京堂月報』27-5、5月15日

悲劇は繰返すベルギー国王痛々しい御胸中 謁見の日を追憶〔談』』読売新聞』5月29日

混沌の倫理『知性』3-6、6月1日

婦人の作法と社会生活〔「女性エチケット批判』』婦人公論』25-6、6月1日

ヨーロッパの運命と日本『東洋経済新報』1924、6月8日〔座談会：板倉進、半沢玉城、金内良輔、田代格、清沢汎、馬場恒吾、杉森孝次郎、出井盛之、内山徳治、村山公三〕

予断は下せぬ 戦争は寧ろ之から〔「戦乱ヨーロッパはどうなる』』談』』東京朝日新聞』6月16日

欧亞に亘る大動乱の見透し〔6月9日講演於東京帝国大学講堂』』講演時報』588、6月25日

最近の比律賓に就て〔講演』』比律賓情報』37、6月28日

不介入政策の根拠『外交時報』95-1〔854〕、7月1日

〔「強力新党樹立運動に就て』』祖国』12-7、7月1日

日本はどうする ドイツ戦勝後への凝視『経済マガジン』4-8〔臨時増刊号〕、7月5日〔座談会：北吟吉、高木友三郎、河野密、三田村武夫、富塚清、斉藤忠、野崎龍七〕

埃及と土耳其を想ふ〔「地中海隨筆』』週刊朝日』38-1、7月7日

救へ政治の混乱〔「近衛さんに何を望む?』』読売新聞』7月18日

*新党運動に躍る人々『実業展望』12-7、7月

非常時局と政治の新態勢『公民講座』189、8月1日

〔「かくあるべし新体制 葉書回答』』中央公論』55-8、8月1日

欧州戦争と極東『財政』5-10、9月1日

世界の変革と日・米・蘇の関係『商工経済』10-3、9月1日
欧州戦の将来とバルカン・地中海『世界知識』13-9、9月1日
ルマニアを護る二人男[談「飛箭」]『読売新聞』9月25日
自肅あるところ自由あり[「温泉の新体制案」]『温泉』11-10、10月1日
マンネンハイム元帥『アサヒグラフ』35-17、10月23日
[「社会変革期に於ける学生生徒への希望」]『新若人』1-3、11月1日
眼前の世界の動き[「時事解説」]『愛国婦人』116、11月10日
カロール皇帝の思出[「隨筆」]『モダン日本』11-13、12月1日
[「良書紹介」]『図書』59、12月5日
隣組にのぞむ[「隣組しんぶん」]『読売新聞』12月5日
組織の必要[「社会から学窓へ」]『緑会雑誌』12、12月10日
アメリカ圏の新動向を語る『現地報告』9-1、12月15日[座談会：堀内謙介、桑島主計]

1941(昭和16)年

重大岐路に立つ我が経済・外交『経済マガジン』5-1、1月1日[座談会：石橋湛山、船田中、住田正一、佐多忠隆、野崎龍七]
国際政治概観[「特輯 海外政治の動向」]『国家学会雑誌』55-1、1月1日
来るべき地中海の争覇戦『財政』6-1、1月1日
[「学徒は如何なるものを読む可きか」]『新若人』1-5、1月1日
欧州大戦とバルカン『ダイヤモンド』29-1、1月1日
国際関係愈よ多岐 和戦両様の決意もて[「紀元二千六百一年の出発 外交」]『福岡日日新聞』1月1日
[「近頃快心の事」]『婦人之友』35-1、1月1日
外交の転換と魂の入れ替へ『北海タイムス』1月1日
[「学生は翼賛運動の一翼として如何なる形で政治に関与すべきか」]『三田新聞』449、1月1日
[「一 現時局における日本人の欠点 二 日本文化の欠陥 三 最近感心されたこと」]『近きより』5-1、1月5日
国力を背景に[「紀元二千六百一年の出発 外交篇」]『新愛知[夕刊]』1月8日
世界情勢と極東『通信協会雑誌』389、1月10日
アメリカ海軍『経済マガジン』5-2、2月1日
バルカン民族の横顔『東京朝日新聞』2月18、19日
地中海攻防戦を語る『ダイヤモンド』29-6、2月21日
皇道座談会(第三十九回)『固本盛国』5-3、3月1日[2月13日座談会(於学士会館)：真崎甚三郎、尾崎敬義、下村虎六郎、松尾長造、鶴見祐輔、渋谷作助、夏秋亀一、松尾常治、古賀残星、三宅維信、日影薫、加藤於菟丸、尾佐竹猛、内田寛一、諸岡存、高田保馬、山本勝市、坂井隆治、山崎佐六、中野邦

一]

- 予言者を求める国『改造』23-6<時局版16>、3月2日
- 【「壮年団全国連合に望む」】『壮年団』7-3、3月5日
- ドイツのバルカン攻勢『エコノミスト』19-10、3月10日
- 地中海に於ける英伊戦とバルカンの情勢[1月24日講演於経済倶楽部]『経済倶楽部講演』昭和16年第7輯、3月10日
- 禍乱のバルカン[「渦中の国々から」]『帝国大学新聞』849、3月22日
- 埃太利滅亡史の考察『史学』19-4、3月
- 太平洋の風雲『公民講座』197、4月1日
- 【「私の生活標語」】『新若人』2-1、4月1日
- 地中海の制覇戦『創造』11-4、4月1日
- バルカン民族の横顔[「随筆」]『東方公論』16-4、4月1日
- 独逸遂にユーゴー進撃『新愛知』4月8、9日
- バルカンの戦火を衝く『福岡日日新聞』4月8、9日
- 独逸軍のユーゴー進撃『河北新報[夕刊]』4月9、10日
- スエズか英本土か 予測し難い独の次の手[談「ギリシア降服の後に来るもの」]『大阪毎日新聞』4月24日[『新聞集成昭和編年史 昭和十六年度版Ⅱ 独ソ開戦』(新聞資料出版、1993年)収録]
- 日米国交の調整[「改造内閣に望む」]『ダイヤモンド』29-13、5月1日
- チャーチルのプロフィール『知性』4-5、5月1日
- バルカンの内幕『改造』23-10<時局版18>、5月2日[対談：岡正雄]
- 米国の参戦とモンロー主義『国際知識及評論』21-6、6月1日
- 世界の謎 近東の実情を語る座談会『実業之日本』44-11、6月1日[座談会：永淵三郎、武富敏彦、横山正幸]
- バルカン興亡史『大陸』4-6、6月1日
- インテリと大衆[「曳光弾」]『東京朝日新聞』6月2日
- 欧州戦争と太平洋『汎交通』42-6、6月15日
- 最近の国際情勢[講演]『建築雑誌』675、6月20日
- 欧州の戦火と太平洋[6月4日講演於京橋明治屋集会所]『旬刊講演集』607、6月20日
- 【「独ソ戦と諸専門家の見解」】『東洋経済新報』1977、6月28日
- 米国の動向と其の因由『蚕糸界報』593、7月1日
- 独ソ開戦と英米の動き[「独ソ遂に戦ふ」]『ダイヤモンド』29-19、7月1日
- 凡てを自主的に[「特輯 独ソ戦争と日本」]『改造』23-14<時局版20>、7月2日
- 清沢冽氏著「外交史」を手にして[書評]『中外商業新報』8月10日

- ドイツ東方策とソ連『外交時報』99-4[881]、8月15日
[「各界の名士に徴す 缶詰の重要性」]『缶詰時報』20-9、9月1日
エドワード七世とその時代[「曳光弾」]『東京朝日新聞』9月1日
翼賛議員同盟[「窓外」]『新愛知[夕刊]』9月3日
翼賛議員同盟[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』9月3日
独米危機を孕む世界動乱の展開『インダストリー』5-10、10月1日[9月17日座談会：清沢冽、勝田貞次]
太平洋の現実『海』11-10、10月1日
国民生活の臨戦体制指針[「臨戦体制指針」]『経国』8-10、10月1日
イラン策戦の意義『財政』6-10、10月1日
[「翼賛議員同盟について」]『祖国』13-10、10月1日
英米の抗戦力と経済力『優駿』1-6、10月1日
『臣民の道』に就て[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』10月7日
米国は何を惧れる『改造』23-23、12月1日
[「東条内閣への期待と要望」]『祖国』13-12、12月1日
欧州戦局と太平洋『経済倶楽部講演』昭和16年第30輯、12月25日

1942(昭和17)年

- 国家興亡の岐るゝ秋『優駿』2-1、1月1日
戦争の背景を為すイデオロギー『読書人』2-2、2月1日
[「来るべき総選挙の諸問題」]『祖国』14-4、4月3日
庭を荒された投票日『三田新聞』488、5月20日
[「総選挙雑感」]『祖国』14-6、6月1日
トルコの動向 独ソ決戦と以夷制夷政策『京都帝国大学新聞』349、6月20日
最近のフイリツピンに就て[「講演」]『比律賓情報』37、6月20日
スエズ運河は死せり 枢軸国の保護あるのみ『関西学院新聞』188、8月20日
インド独立の機運『優駿』2-9、9月1日
独ソ戦線から西アの決勝へ『優駿』2-10、10月1日
[「良書紹介」]『図書』83、12月5日

1943(昭和18)年

- ブルガリヤ 民族十字路の文化『毎日新聞』2月13日
米水兵と十二万法[「隨筆」]『外地評論』6-3、3月7日

〔「一、貴下は、どういふ風に忠君愛国を實踐されつつますか 二、「近きより」の存在理由 三、貴下の最近の悦び〕』『近きより』7-4、4月5日

外電への希望『日本新聞報』76、12月28日

1945(昭和20)年

再建第一歩 京都府出身代議士座談会『京都新聞』9月13～17日[9月7日座談会(於貿易会館):今尾登、田中伊三次、田中好、田中和一郎、中村三之丞、水谷長三郎]

正義と博愛 主義と政策の實踐へ[「新生日本の立言」]『東京新聞』9月26日

新政党と総選挙を繞りて『東洋経済新報』2193、10月13日[9月11日座談会(於東洋経済新報社):河野密、蠟山政道]

ジュラルミンで作る家屋 戦災者の越冬対策[談]『読売報知』10月18日

* [「都市建設への指標」]『新生活』1-1、11月1日

1946(昭和21)年

新時代の厚生行政『日本医事新報』1175、1月1日[[「医史学及社会医学」]『医学中央雑誌』91、9月1日に抄録]

世界に目をひらけー待望する第二の文芸復興ー『婦人朝日』1-7、8月1日[6月12日対談:辰野隆]

日本国憲法の解明『朝日新聞』10月8日

新憲法解説『[大阪]朝日新聞』10月8～11日

Japan's new destiny rests upon revised constitution『Nippon Times』11月3日

新憲法と国民生活『読売新聞』11月4日[対談:金森徳次郎]

憲法送迎の感[「憲法改正案衆議院委員会経過報告演説の一部」]『時局』132、12月1日

新憲法の本質[講演(於大阪中央会堂)]『講演通信』10-11、12月15日

1947(昭和22)年

〔「昭和二十二年に望むこと(アンケート)」]『人間』2-1、1月1日

改正憲法をめぐって『放送』7-1、1月1日[座談会:犬養健、宮沢俊義、鈴木義男、霜山精一]

危機をどうして切り抜けるか 片山・芦田両氏に聴く『東京新聞』1月3日[インタビュー]

生鮮食糧の統制撤廃[「日本の危機・突破政策くらべ」]『都新聞』2月20日

生産の急速再開 不完全統制は不可[「両陣営の三月危機突破策」]『山形新聞』2月21日

まず遅欠配一掃へ 自由な経済策恢復が必要[「三月危機と政党」]『秋田魁新報』2月22日

民主革命への一役 新憲法発布記念映画をめぐる座談会『キネマ旬報』12、4月1日[座談会:渋谷秀雄、永田雅一]

新憲法成立公布を顧みて『講演』2-3・4、4月1日

保守政党の立場から『政界ジープ』2-4、4月1日

総選挙の意義『夕刊北海タイムス』4月11日

まず優秀な教育者を養成 マルキシズムには反対[「四大政党文化政策展望」]『学園新聞』33、4月21日

政局はどう動くか『毎日新聞』4月28日～30日[座談会：西尾末広、石橋湛山、三木武夫、徳田球一]

政局はどう動くか『西日本新聞』4月28日～30日、5月1日[座談会：西尾末広、石橋湛山、船田亨二、野坂参三]

どんな内閣を作る？四党代表座談会『読売新聞』4月28日～5月1日[4月27日座談会：西尾末広、石橋湛山、船田亨二]

政局はどう動く『朝日新聞』4月29日～5月2日[4月27日座談会(於朝日新聞社)：西尾末広、大野伴睦、船田亨二、徳田球一]

総選挙後の政局を語る座談会『北海道新聞』4月29日～5月2日[4月27日座談会：西尾末広、石橋湛山、船田亨二、野坂参三]

[「アンケート 問(一)新しい時代の教育者に私は斯く望む (二)新しい初等教育はかくあつてほしい」]『教育人』1-1、5月1日

保守か急進か 観念論では危機救えず[「総選挙に臨んで」]『時事新報』5月25日

霞閣会々員へ御挨拶『霞閣会会報』27、6月30日

ほゝえましいスナップ 郷土出身の二閣僚 芦田水谷対談『都新聞[夕刊]』7月12日[対談：水谷長三郎]

教育はすべてである『教材研究』2-6、7月15日

婦人の独立『婦人公論』31-11、11月1日

1948(昭和23)年

四党首の新春政局縦横談『大阪新聞』1月1日[座談会：三木武夫、吉田茂、片山哲]

平和成立の歳『京都新聞』1月1日

政局放談『座談』2-1、1月1日[座談会：西尾末広、(司会)佐藤観次郎]

講和会議 平和国家を建設し列国の信頼を得よ[談]『都新聞』1月1日

政局を語る『毎日新聞』1月3日

新春ごもく対談『夕刊新大阪』1月3～5日[対談(於外相官邸)：阿部真之助]

[「各党総裁立会演説前哨戦 政治感覚メンタルテスト」]『週刊朝日』52-7、2月15日

[「サンキュウ!ありがとう!農民の皆さん!!おかげで三、〇五五万石供出完了」]『農林弘報』2、4月1日

貿易振興は祖国再建の鍵―『国際経済』推薦の言葉―『国際経済』2、4月15日

われらの進むべき道『民主新論』1、4月15日

教育人の自覚を望む[「教育新人に贈る」]『渾沌』21-3、4月17日

『チャーチル大戦回顧録』に期待す『毎日新聞』4月29日

民主化の推進と保守政党『新日本』3-5、5月1日
青年国家を作ろう『青年の世界』26、5月1日
経済再建の途を想ふ[創刊卅五周年記念特別寄稿]『ダイヤモンド』36-15、5月1日
実生活に生かせ 憲法と民主政治[「あす憲法施行一周年」]『朝日新聞』5月2日
憲法と民主政治『[大阪]朝日新聞』5月2日
[「発刊を祝す」]『国会』1、5月3日
世界も正しく認めん 大理想への努力[談]『東京新聞』5月3日
一周年にかく思う『毎日新聞』5月3日[鼎談：三淵忠彦、松岡駒吉]
最高目標を現実生活に[談、「きょう憲法一周年」]『読売新聞』5月3日
祖先・子孫へ責任痛感 誓って日本再建へ[談]『都新聞』5月4日
[昭和23年度日本助産婦看護婦保健婦協会通常総会祝電]『看護学雑誌』3-6、5月15日
激励を謝す『時局』139、6月1日
再建の好機を把握せよ[「外資の導入はよいか悪いか」]『日本週報』82・83、6月15日
新憲法と社会『教育と社会』3-7、7月1日[5月4日座談会(於神田共立講堂)：金森徳次郎、浅沼博]
清沢君を憶ふ『民主新論』2、7月1日
芦田首相政局を語る[一問一答インタビュー]『読売新聞』7月8日
再建の好機を把握せよ『東北興信社報』1-20、7月21日
解散は与党少数の時[一問一答インタビュー]『読売新聞』8月5日
経済再建の基調『民主新論』3、8月20日
外務省の日本再建計画について『日本の再建』1-1、8月28日
中道政治連盟[一問一答インタビュー]『東京新聞』8月29日
民主政治と自由人権『人権』1、9月1日
解散理由見出せぬ 非日委設置には賛成[首相西下談]『西日本新聞』9月5日
[1948年6月24日付尾崎行雄宛書簡]『時局』141、10月1日
再建政策の継続性必要[「産業界の要望に応える」]『日産協月報』3-10、10月10日
批判的に行動[談]『朝日新聞』10月16日
わが道は中道『民主新論』4、10月25日

1949(昭和24)年

展望台『民主党政調情報』2、5月1日<<無署名>><<「芦田均関係文書(書類の部)」437>>
ドイツ処理問題の方向『ダイヤモンド』37-15、5月21日<<大町千二>>[『日記』4月15日：独逸はどうなる]
岐路に立つ『文芸春秋』27-6、6月1日

- 社会主義国家か自由主義国家かー英国総選挙への関心ー『ダイヤモンド』37-17、6月11日《大町千二》
[『日記』4月19日：英国総選挙への関心]
- 国際展望『ダイヤモンド』37-17、7月1日《無署名》[『日記』6月19日：ダイヤモンドの短文]
- ざんげ[「青春の集ひ 短歌」]『生長する青年』3-7、7月10日
- 国際展望『ダイヤモンド』37-19、7月11日《無署名》[『日記』7月1日]
- 政府与党の巻／野党混戦の巻／早期講和論の巻／反共運動の巻[「東京だより」]『東京だより』1、7月20日
日《無名氏》[『日記』6月11日：早期講和論、6月18日：反共政策の短文]
- ベタンとナポレオン／ローズヴェルト三世[「世相さまざま(1)」]『東京だより』1、7月20日
- ドイツ処理の問題ー四国外相会議ー『東京だより』1、7月20日《大町千二》[『日記』6月18日：外相会議のレポート]
- 紐育倫敦景気話『東京だより』1、2、7月20日、9月1日
- 国際展望『ダイヤモンド』37-20、7月21日《無署名》
- 国際展望『ダイヤモンド』37-21、8月1日《無署名》[『日記』7月21日]
- 国際展望『ダイヤモンド』37-23、8月11日《無署名》[『日記』8月1日]
- 国際展望『ダイヤモンド』37-24、8月21日《無署名》
- 保守合同は難破した函舟／反共精神の根底／公務員亡国[「東京だより 政治」]『東京だより』2、9月1日
日《無名氏》[『日記』7月27日：保守合同は難破の函舟、7月30日：反共精神の根底]
- アメリカの反共布陣と対華白書『東京だより』2、9月1日《大町千二》[『日記』8月1、2日：アメリカの反共布陣]
- チャンドラ・ボーズ兄弟／フォレストルの死／婦人外交官[「世相さまざま(2)」]『東京だより』2、9月1日
- 国際展望『ダイヤモンド』37-27、9月11日《無署名》[『日記』8月24日]
- 国際展望『ダイヤモンド』37-28、9月21日《無署名》[『日記』8月30日]
- 教育の危機／災害対策／シャープ勧告書[「東京だより 政治」]『東京だより』3、10月1日《無名氏》[『日記』9月2日：教育の危機、9月3日：災害復旧と“シャープ勧告書”]
- ユーゴーとソ連との確執『東京だより』3、10月1日《大町千二》[『日記』9月4日：ユーゴーとソ連との抗争]
- チトーの風貌／エヴイタペロン夫人／死んだ文学が生きた [「世相さまざま(3)」]『東京だより』3、10月1日
- 国際展望『ダイヤモンド』37-29、10月1日《無署名》[『日記』9月21日]
- [「前号に対する諸家の批判及感想」]『近きより』11-2、10月10日
- 国際展望『ダイヤモンド』37-30、10月11日《無署名》[『日記』9月28日：移民問題]
- 国際展望『ダイヤモンド』37-32、10月21日《無署名》[『日記』10月9日]
- 対日講和はどうなる／一波万波の世界／感激のない国民生活[「東京だより 政治」]『東京だより』4、11月1日
日《無名氏》[『日記』10月9日：“東京だより”の第一章]
- ボン市の今昔／ベルギー国王のことなど[「世相さまざま(4)」]『東京だより』4、11月1日

革命前夜のロシア『東京だより』4~12、11月1日、12月1日、1950年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日[『革命前夜のロシア』(文芸春秋新社、1950年)収録]

国際展望『ダイヤモンド』37-33、11月1日<<無署名>>

国際展望『ダイヤモンド』37-34、11月11日<<無署名>>[『日記』11月4日]

国際展望『ダイヤモンド』37-35、11月21日<<無署名>>[『日記』11月12日：最近の議会に於ける講和問題の論議について日本人を叱つた]

ドツヂ氏来朝の機会に／首相の施政演説／更生資本主義[「東京だより 政治」]『東京だより』5、12月1日<<無名氏>>[『日記』11月5日：ドツヂ氏来朝の機会に、11月9日：吉田首相の施政演説]

有為転変／舞踊劇時代 [「世相さまざま(5)」]『東京だより』5、12月1日

国際展望『ダイヤモンド』37-36、12月1日<<無署名>>

国際展望『ダイヤモンド』37-37、12月11日<<無署名>>

国際展望『ダイヤモンド』37-38、12月21日<<無署名>>

1950(昭和25)年

吉田内閣の一年間／第七国会のヤマ／労働運動のデレンマ[「東京だより 政治」]『東京だより』6、1月1日<<無名氏>>

イスマット・パシヤ／続パレーの人気 [「世相さまざま(6)」]『東京だより』6、1月1日

意見を慎む[「皇太子の留学をどう考えますか」]『丸』3-1、1月1日

冷たい戦争の舞台は廻る／アメリカ世論の動向[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-2、1月11日<<無署名>> [『日記』1月6日]

中共対米国の関係[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-3、1月21日<<無署名>>

難局を予想する／米軍首脳部の訪日／講和問題に焦るな[「東京だより 政治」]『東京だより』7、2月1日<<無名氏>>

スターリンの誕生日／背広服 [「世相さまざま(7)」]『東京だより』7、2月1日

中共との貿易[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-4、2月1日<<無署名>>[『日記』1月25日：中共の Inflation の解説]

アジアと共産主義[「世界と日本」]『民主党政調情報』10、2月5日<<無署名>><「芦田均関係文書(書類の部)」438>

ソ連のアジア攻勢[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-5、2月11日<<無署名>>

中共との貿易[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-6、2月21日<<無署名>>

近く戦争があるか[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-7、3月1日<<無署名>>[『日記』2月22日：近い将来に戦争はあるか]

極東は五十年逆戻り／国会は何をすべきか／共産党はマスクを脱げ[「東京だより 政治」]『東京だより』8、3月1日<<無名氏>>

京都市長の選挙 [「世相さまざま(8)」]『東京だより』8、3月1日

ロシアのテロリスト『文芸春秋』28-3、3月1日

- 中国を繞る情勢[「世界と日本」]『民主党政調情報』12、3月5日<無署名><「芦田均関係文書(書類の部)」439>
- 原子力の管理[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-8、3月11日<無署名>
- 英国の再選挙はいつ[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-9、3月21日<無署名>
- 磅一円の問題[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-10、4月1日<無署名>
- 外交を党略に使うな／政界の再編成／道路の再建と安全性[「東京だより 政治」]『東京だより』9、4月1日<無名氏>
- チベットーヒマラヤ／イギリスの選挙を見る[「世相さまざま(9)」]『東京だより』9、4月1日
- 金本位の問題[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-11、4月11日<無署名>[『日記』4月4日]
- チャーチルと独蘇[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-12、4月21日<無署名>
- 政治の中心問題／参議院の半数改選[「東京だより 政治」]『東京だより』10、5月1日<無名氏>
- 外国語教育の問題[「東京だより 政治」]『東京だより』10、5月1日
- モーリシアス島の競馬場／トンガの女王／科学小説[「世相さまざま(10)」]『東京だより』10、5月1日
- 外交方針の統一[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-14、5月11日<無署名>[『日記』5月3日]
- 外相会議と対日講和[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-15、5月21日<無署名>
- 講和は近いか[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-16、6月1日<無署名>
- ロシア皇后とラスプチン『中央公論』65-6、6月1日
- 天野文相に期待する／放言雨下／第七国会の印象[「東京だより 政治」]『東京だより』11、6月1日<無名氏>
- エジプトの女王／歌舞伎とオペラ[「世相さまざま(10)」]『東京だより』11、6月1日
- 欧州経済の基本問題[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-17、6月11日<無署名>[『日記』5月24日]
- 講和の見通し[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-18、6月21日<無署名>
- W. チャーチルの教養『新潮』47-7、7月1日
- 欧州の鉄石炭の合同[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-19、7月1日<無署名>[『日記』6月24日:Schuman plan のこと]
- 日共幹部の追放／参議院の改選／イギリスの復興風景[「東京だより 政治」]『東京だより』12、7月1日<無名氏>
- ヴェトナムのジャングル／セurezエの花嫁[「世相さまざま(12)」]『東京だより』12、7月1日
- 朝鮮の戦火[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-20、7月11日<無署名>
- 朝鮮戦争の長期化? [「国際展望」]『ダイヤモンド』38-21、7月21日<無署名>[『日記』7月16日:朝鮮事件の長期化]
- 朝鮮事変の拡大性[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-22、8月1日<無署名>[『日記』7月25日:朝鮮事件の拡大性]
- 朝鮮の劫火／超党派外交／肌寒い夏[「東京だより 政治」]『東京だより』13、8月1日<無名氏>
- ロシア革命後記『東京だより』13~17・18、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、1951年1月

1日

象／ヴァイキング／国際自動車競争[「世相さまざま(13)」]『東京だより』13、8月1日

永世中立不可能論『文芸春秋』28-11<緊急増刊>、8月5日

朝鮮事変の次に来るもの 永世中立は不可能だ『ダイヤモンド』38-23、8月11日

アジア諸国と朝鮮事変[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-23、8月11日<無署名>

都市を愛する心『都市美』3、8月12日

世界再軍備熱[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-24、8月21日<無署名>[『日記』8月15日]

日本とドイツの場合[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-25、9月1日<無署名>[『日記』8月24日：日本とドイツの場合]

暴力革命は来るか／義勇軍の問題[「東京だより 政治」]『東京だより』14、9月1日<無名氏>[『日記』8月12日：義勇兵の問題と“暴力革命起るか”]

如是閑出版祝いの記『東京だより』14、9月1日<三毛猫>[『日記』8月13日：長谷川如是閑の出版祝]

金のある貧乏国／カザルス老いず／ミゼラビリスト[「世相さまざま(14)」]『東京だより』14、9月1日

米国の慎重な態度と日本[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-26、9月11日<無署名>[『日記』9月3日]

西ドイツの再武装[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-27、9月21日<無署名>[『日記』9月11日]

[「新聞に望む」]『京都新聞』10月1日

米国の統制経済[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-28、10月1日<無署名>[『日記』9月25日]

対日講和はいつか／戦は好まず戦を怖れず／超党派外交の行衛／教育使節の来朝[「東京だより 政治」]『東京だより』15、10月1日<無名氏>[『日記』9月6日：超党派外交の行方]

オリムピアの山／お風呂の歴史[「世相さまざま(15)」]『東京だより』15、10月1日

戦争放棄の国と総理大臣『読売評論』2-10、10月1日[インタビュー：高木健夫]

三十八度線[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-29、10月11日<無署名>[『日記』10月5日]

仏印のたゞかい[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-30、10月21日<無署名>

世界絹業大会[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-31、11月1日<無署名>

政界の明朗化／ドイツの再武装／全世界は武装す[「東京だより 政治」]『東京だより』16、11月1日<無名氏>[『日記』8月13日：世界は武装する、9月15日：ドイツ再武装]

ロンドンの小劇場／オーアシス再生 [「世相さまざま(16)」]『東京だより』16、11月1日

中共介入で戦局はどうなる[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-32、11月11日<無署名>[『日記』11月5日：中共と朝鮮動乱]

米国選挙の波紋[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-33、11月21日[『日記』11月12日：アメリカ中間選挙の波紋]

統制経済復活の兆し[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-34、12月1日[『日記』11月19日：統制経済復活の兆]

中共は何を狙う[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-35、12月11日<無署名>

レーニン主義を解明 示唆する西欧革命の運命[E.H.カー『西欧を衝くソ連』の書評]『図書新聞』75、
12月13日

危局と英米会談[「国際展望」]『ダイヤモンド』38-36、12月21日<<無署名>>

芦田氏、反共自衛を強調 総司令部へ意見書提出[記事中に「芦田意見書」全文と「芦田氏談」掲載]『朝日新聞』12月28日

1951(昭和26)年

人類進歩の大勢[「新年に思ふところ(諸家の回答)」]『時局』162、1月1日

第三次大戦 行手の信号は赤か[「今年を動かす七つの鍵」]『ダイヤモンド』39-1、1月1日

第三次世界大戦について『中央公論』66-1、1月1日[1950年11月28日座談会(於築地錦水):尾形昭二、佐島敬愛、鈴木英一、松本重治]

世界の戦慄／政治季節／米国中間選挙の波紋[「東京だより 政治」]『東京だより』17・18、1月1日<<無名氏>>[『日記』1950年11月11日:アメリカの中間選挙]

黄金の土／ストラヴィンスキー／滅茶苦茶 [「世相さまざま(17)」]『東京だより』17・18、1月1日

講和と日本人の覚悟『毎日新聞』(『毎日新聞[大阪]』)1月1日[座談会:安倍能成、田中耕太郎]

講和会議縦横談『中部日本新聞』1月1、3、4日[1950年12月14日座談会:武者小路公共、堀内謙介、栗山茂、伊達源一郎]

英仏の議会『東京新聞』1月3日

“自衛は違憲でない” 芦田氏再び軍備協調[記事中に演説(於福知山)要旨]『朝日新聞』1月10日

世界大戦は始まったか[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-2、1月11日<<無署名>>[『日記』1950年12月28日]

平和のための自衛『毎日新聞』1月14日[『新聞月鑑』3-25、1951年2月に転載]

一九五一年の世界[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-3、1月21日<<無署名>>[『日記』1月14日]

自衛武装論『ダイヤモンド』39-4、2月1日

容易でない再軍備[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-4、2月1日<<無署名>>[『日記』1月25日]

民族の危機に立つ／住宅問題の解決[「東京だより 政治」]『東京だより』19、2月1日<<無名氏>>

パレスティン紀行『東京だより』19、2月1日

鉄のカーテンを覗く／舞台監督[「世相さまざま(18)」]『東京だより』19、2月1日

自衛力強化の急務『経済倶楽部講演』2月2日講演<<「芦田均関係文書(書類の部)」328>>

“社党の三原則は無理” 芦田氏 自衛軍備を説く[談]『朝日新聞』2月5日

防衛力の強化[談]『毎日新聞』2月5日

中共の動き[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-5、2月11日<<無署名>>

祖国防衛の精神『読売新聞』2月14日

妻を語る『週刊朝日』56-8、2月18日

外交権、国会にあり 首相は新憲法を無視[談]『北海道新聞』2月19日

米国の対外援助[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-6、2月21日<<無署名>>[『日記』2月15日]

自由と平和のために祖国を擁れ[2月5日於中之島中央公会堂、文責在記者]『講演通信』61、3月1日

ユーゴの危局[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-7、3月1日<<無署名>>

ダレス旋風/再武装の思想的根拠/[「東京だより 政治」]『東京だより』20、3月1日<<無名氏>>

小鳥の鳴き合せ/スカラ座のオペラ/カララの大大理石 [「世相さまざま(19)」]『東京だより』20、3月1日

小野君への回答[「論争 単独講和論の一盲点について」]『中央公論』66-3、3月1日

[「第三次大戦と日本の立場」]『婦人公論』35-3、3月1日

自由と平和のための闘ひー風にゆらぐ8千万本の葦ー『文芸春秋』29-4、3月1日

国際情勢とわが国の地位[2月19日於日労研役員懇談会]『週刊日労研資料』115、3月7日

[「今に残る「幣原外交」、談」]『朝日新聞』3月11日(「幣原外交」を語る [「大阪朝日新聞」3月12日])

西独の再軍備[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-9、3月11日<<無署名>>[『日記』2月27日：西独の再軍備論]

イランの危機[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-10、3月21日<<無署名>>[『日記』3月15日]

“風にそよぐ葦”と現実『中央公論 文芸特集』7、3月28日[3月13日座談会(於築地錦水)：石川達三、三宅晴暉、宮本三郎、大宅壮一]

Japan :Communist' temptation 『Contemporary Japan』20-1-3、3月

[「私の感銘した本と私のすゝめる本」]『学苑』12-4、4月1日

三十八度線[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-11、4月1日<<無署名>>

講和受入れ態制/アジアは主戦場か/極東コミンフォルム[「東京だより 政治」]『東京だより』21、4月1日<<無名氏>>

イギリスの祭/シシリー島の馬車 [「世相さまざま(20)」]『東京だより』21、4月1日

てんやわんやの会『東京だより』21、4月1日[座談会：石川達三、大場惣太郎、久保田万太郎、小糸源太郎、渋谷秀雄、宮田重雄、芦川寿美子]

日本は狙われているー清水幾太郎氏の論に答えてー『婦人公論』35-4、4月1日

客間訪問『サンデー毎日』30-14、4月8日[3月17日座談会(於芦田邸)：芦田寿美、永田雅一・文子、渋谷秀雄、小糸源太郎]

一応の安心感[「国際展望」]『ダイヤモンド』39-12、4月11日<<無署名>>

日本の良き助言者 温情の人 マ元帥[談]『朝日新聞』4月13日

芦田均氏にも申す 再軍備をめぐる婦人の主張座談会『主婦の友』35-5、5月1日[2月20日座談会：宮崎白蓮、高良とみ子、深川タマエ、堤ツルヨ、平林たい子、植村環、岡崎照子]

こよなき助言者 マ元帥の解任に際して『東京だより』22、5月1日

一応の安心感/講和と日本社会党/講和条約の草案[「東京だより」]『東京だより』22、5月1日<<無名氏>>

- デュウマという作家／魚市場／ピンポン [「世相さまざま(21)」] 『東京だより』 22、5月1日
- 講和成立せず[「半年後の日本はどうなっているか 国際情勢・外交・政治」] 『ファイナンス・ダイジェスト』 5-5、5月1日
- 対日講和の難関[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-16、5月11日<<無署名>>
- 世界経済界の孤児[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-17、5月21日<<無署名>>
- 東独の兵力問題[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-18、6月1日<<無署名>>
- 英国も動揺か 『東京だより』 23、6月1日<<無名氏>>
- 印度の新指導者 『東京だより』 23、6月1日
- 人海戦術と選挙／鉄と羊毛は勝る [「世相さまざま(22)」] 『東京だより』 23、6月1日
- 木村名人を囲んで 『東京だより』 23、6月1日[5月13日座談会(於芦田邸)：木村義雄、石山賢吉、馬場恒吾]
- 年と共に深まる情愛[「口絵 我が愛妻の記」] 『富士』 4-6、6月1日
- ダレス特使の訪英[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-20、6月11日<<無署名>>
- 木村名人のこと[「随筆」] 『時事新報[夕刊]』 6月17日
- 木村名人のこと[「随想」] 『大阪新聞』 6月18日
- 対日講和の進展[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-21、6月21日<<無署名>>
- フランスの選挙[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-22、7月1日<<無署名>>[『日記』 6月26日：フランスの選挙]
- 政治家の混迷[「東京だより」] 『東京だより』 24、7月1日<<無名氏>>
- 青木元外相と鹿／街頭美／バレエ讃美[「世相さまざま(23)」] 『東京だより』 24、7月1日
- アチソンの幽鬱 『東京だより』 24、7月1日<<夏樹茂>>
- 舞踊を語る 『東京だより』 24、7月1日[座談会：芦田夫人、永田雅一、永田夫人、武原はん]
- 新訳源氏物語[「良書推薦」] 『Books』 17、7月5日
- 朝鮮での停戦[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-23、7月11日<<無署名>>[『日記』 7月4日]
- 講和条約の草案[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-24、7月21日<<無署名>>
- 中東の紛糾[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-25、8月1日<<無署名>>[『日記』 7月23日]
- 日本の悲劇[「東京だより」] 『東京だより』 25、8月1日<<無名氏>>[『日記』 7月6日：内閣改造劇]
- 衣装の流行／オペラの天路歷程 [「世相さまざま(24)」] 『東京だより』 25、8月1日
- 欧米空のたび 新しきものと古きもの 『東京だより』 25、8月1日[7月11日座談会(於交詢社)：久保田万太郎、堀久作]
- 講和調印の前に 『読売新聞』 8月13、14日[8月11日座談会(於読売新聞本社)：工藤昭四郎、田付景一]
- 危機は東か西か[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-27、8月21日<<無署名>>[『日記』 8月16日]
- 欧州復興と日本[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-28、9月1日<<無署名>>
- 講和の秋を迎う[「東京だより」] 『東京だより』 26、9月1日<<無名氏>>

役人の無駄骨／欧州とところどころ [「世相さまざま(25)」] 『東京だより』 26、9月1日

アジア諸国との講和[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-29、9月11日<<無署名>>[『日記』9月6日：アジア諸国との和平]

講和の調印と貿易[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-31、9月21日<<無署名>>[『日記』9月14日]

英国の総選挙[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-32、10月1日<<無署名>>[『日記』9月21日：英国の選挙]

講和全権行状記・講和条約の後に来るもの／芸術の育成／英国の総選挙 [「東京だより」] 『東京だより』 27、10月1日<<無名氏>>[『日記』9月7日：芸術の育成]

アイヴオール・ノヴェロが死んだ [「世相さまざま(26)」] 『東京だより』 27、10月1日

日本人の眼『東京だより』 27、10月1日[9月15日座談会(於東京会館)：石川達三、小糸源太郎、長谷川才次]

平和よりも正義を[「二つの主張 2 再軍備の負担に耐えるか」] 『朝日新聞』 10月2日

自由と平和を衛る軍備[「再軍備は是か非か」] 『世界週報』 32-28、10月11日[『平和のための防衛』<政調情報 26>(国民民主党本部、1951年11月11日)収録]

生糸価格の安定[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-33、10月11日<<無署名>>[『日記』10月4日：生糸市価安定]

米ソ戦の場合の日本[談、「安全保障と再軍備」] 『東洋経済新報 別冊』 5、10月15日

安全保障条約と日本の責任[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-34、10月21日<<無署名>>[『日記』10月13日：日米安全保障条約と日本の責任]

回教世界の動揺[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-35、11月1日<<無署名>>[『日記』10月23日]

新軍備論 自由と平和のために『東京だより』 28、11月1日

日本の立場と責任[「東京だより」] 『東京だより』 28、11月1日<<無名氏>>

ワシントンと星条旗／人口問題[「世相さまざま(27)」] 『東京だより』 28、11月1日

欧州の国際不安[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-37、38、11月11、21日<<無署名>>[『日記』11月2日]

欧州のS.O.S. [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-39、12月1日<<無署名>>

臨時国会の煙火／ファツシヨは身近にある／生活の不安／ポンド貨幣の動揺／フランの切下[「東京だより」] 『東京だより』 29、12月1日<<無名氏>>

チャーチルの幕僚『東京だより』 29、12月1日

石の考古学 [「世相さまざま(28)」] 『東京だより』 29、12月1日

国際文化を語る『東京だより』 29、12月1日[10月11日座談会(於東京会館)：加納久朗、秦豊、薩摩治郎]

軍縮か軍拡か[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-40、12月11日<<無署名>>[『日記』11月29日：軍縮か軍拡か]

ダレス氏訪日[「国際展望」] 『ダイヤモンド』 39-42、12月21日<<無署名>>[『日記』12月11日]

「夜明け」の夢[「師走日記」] 『週刊朝日』 56-54、12月30日

1952(昭和27)年

新生日本の政治を語る『朝日新聞』1月1日[1951年12月17日座談会(於朝日新聞本社談話室):石橋湛山、河上丈太郎、鈴木茂三郎、緒方竹虎]

能見物『観世』19-1、1月1日

米国外援助の限界[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-1、1月1日<<無署名>>

一九五一年を葬る／日蔭もの軍隊／京大事件の意義[「東京だより」]『東京だより』30、1月1日<<無名氏>>[『日記』1951年12月2日:京大事件の意義、一九五一年を葬る]

パークレーの演説／ヒギンス嬢の世界歴訪[「世相さまざま(29)」]『東京だより』30、1月1日

新しき演劇と映画の道『東京だより』30、1月1日[座談会:花柳章太郎、吉屋信子、永田雅一]

独立日本の方向『西日本新聞』1月1日[座談会:蠟山政道、長谷川如是閑、松本重治]

独立の年を迎えて『毎日新聞』1月1、3日[1951年12月20日座談会(於毎日新聞社):石橋湛山、安部能成、中山伊知郎]

世界の動向と日本『神戸新聞』1月3日

世界の動向と日本『中部日本新聞』1月5日

西欧の防衛[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-2、1月11日<<無署名>>[『日記』1951年12月22日:西欧の防衛]

米国会開く[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-3、1月21日<<無署名>>[『日記』1月16日]

アジアに焦点[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-4、2月1日<<無署名>>

社会党と中立論／国防と警察予備隊／教育問題の重要性[「東京だより」]『東京だより』31、2月1日<<無名氏>>[『日記』1月15日:社会党と中立論]

夢と現実／クレオパトラとシーザー [「世相さまざま(30)」]『東京だより』31、2月1日

放談 東京の扉『東京だより』31、2月1日[座談会:石川達三、小糸源太郎、渋谷秀雄、大場白水郎、益田義信、宮田重雄]

自由と平和を衛る軍備は絶対に必要[「再軍備問題の検討」]『東邦経済』13-2、2月1日

程よい腕前[「口絵 素人将棋指し告知版」]『富士』4-6、2月1日

軍備促進連盟の結成 芦田、渡辺鉄蔵氏らが提唱[記事中に「芦田氏談」]『毎日新聞』2月5日[2月4日インタビュー]

独立日本と再軍備『先見経済』256、2月11日[「点滴十年」]『先見経済』600、1956年11月10日に抄録]

冷戦は狐火のように[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-5、2月11日<<無署名>>[『日記』2月3日]

ソ連の平和攻勢にどう対処すべきか『ダイヤモンド』40-6、2月21日

ドイツ軍備の停頓[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-6、2月21日<<無署名>>[『日記』2月12日]

平和攻勢の目標[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-7、3月1日<<無署名>>[『日記』2月22日:平和攻勢の目標]

同憂の士来れ!! 新軍備促進連盟の結成『東京だより』32、3月1日[『日記』2月15日:軍備促進連盟、連盟の檄文、6月号まで毎号『東京だより』巻頭に掲載]

なめられている国民／欧州軍創設の悩み／改進黨の結成[「東京だより」]『東京だより』32、3月1日<無名氏>

ガンヂーにつづくもの／カルメン[「世相さまざま(31)」]『東京だより』32、3月1日

新中国の動向『東京だより』32、3月1日[座談会：陳中孚、苗劍秋、宮本利直、石川順]

[「徳川夢声連載対談 問答無用(第四十八回)」]『週刊朝日』57-9、3月2日[対談：徳川夢声][「問答有用 II 夢声対談集」(朝日新聞社、1953年1月10日)収録]

行政協定について『日本経済新聞』3月10日

米ソの対立はとけず[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-8、3月11日<無署名>[「日記」3月5日]

極東の事態は重大[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-9、3月21日<無署名>[「日記」3月14、15日]

再軍備を語る『政界往来』18-4、4月1日[2月21日対談：木舎幾三郎]

革命の前夜／極東の風雲[「東京だより」]『東京だより』33、4月1日<無名氏>[「日記」3月14日：革命の前夜、極東の風雲]

読書余録／イギリス気質 [「世相さまざま(32)」]『東京だより』33、4月1日

座談会 外交－国防－憲法『東京だより』33、4月1日[座談会：野村吉三郎、団伊能、加瀬俊一]

政府の不手際な行動－安保条約の行政協定に就て－『東邦経済』13-4、4月1日

憲法をどうするか『読売新聞』4月2～6日[3月27日座談会：植原悦二郎、浅沼稻次郎、武藤運十郎、鈴木安蔵][座談会における芦田の発言を「第九条修正の経緯と理由」と題して『分類帝国憲法改正審議録戦争放棄編』(参議院・参議院事務局編、新日本法規出版、1952年10月16日)収録]

座談会 憲法は二週間で出来たか?『改造』33-6、4月10日[2月25日座談会(於Aワン)：鈴木安蔵、岩淵辰雄、三宅晴暉、阿部真之助]

独ソの和平は困難[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-12、4月11日<無署名>[「日記」4月3日]

Japanese arguments for rearming Japan [Hessell Tiltman による芦田均へのインタビュー記事]『Manchester Guardian Weekly』66-18、5月1日

戦争放棄と戦力[「法学者はどう考えるか」]『世界』77[「特集 平和憲法と再武装問題」]、5月1日

朝鮮休戦の行手[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-15、5月1日<無署名>

独立回復の日／朝鮮戦局の不安／解説 ドイツとの講和－平和攻勢第二号－[「東京だより」]『東京だより』34、5月1日<無名氏>[「日記」4月2日：ドイツ問題]

ラッセルと未来戦を語る／ロンドンのピカッソ[「世相さまざま(33)」]『東京だより』34、5月1日

座談会 花見 魚釣 農村『東京だより』34、5月1日[4月5日座談会(於東京会館)：渋谷敬三、阿部賢一、杉森孝次郎]

重光葵著「昭和の動乱」を推賞す[「書評」]『Book』25、5月5日

中共の国際貿易[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-16、5月11日<無署名>[「日記」5月5日：中共との貿易]

エリザベス女王[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-18、5月21日<無署名>[「日記」5月13日：エリザベス女王]

独立後の日本の課題『大阪人』6-6、6月1日[5月10日座談会：西尾末広、小田原大造]

- 自ら守らざる民は滅ぶ[「特集・独立日本と再軍備」]『経済時代』17-6、6月1日
- 太平洋和平会議[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-19、6月1日<<無署名>>[『日記』5月22日：アジア和平会議]
- 独立日本の外交／フランスの奇蹟／アジアの安定[「東京だより」]『東京だより』35、6月1日<<無名氏>> [『日記』5月18日：アジアの安定]
- 中共の演芸革命／角帽狂想曲／ヨーロッパ専門学校 [「世相さまざま(34)」]『東京だより』35、6月1日
- 木村名人を囲んで『東京だより』35、6月1日[座談会：木村義雄、伊藤正徳、水野重雄、山本為三郎、石山賢吉、富成宮吉、堀久作]
- [「随筆 涙」]『婦人公論』36-6、6月1日
- 中共との貿易[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-20、6月11日<<無署名>>
- ポンド貨は切下げか[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-21、6月21日<<無署名>>[『日記』6月14日]
- 英国と中共[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-22、7月1日<<無署名>>[『日記』6月23日]
- ス ト・ス ト・ス ト／治安は維持されているか[「東京だより」]『東京だより』36、7月1日<<無名氏>>
- ペヴェンの動き／国際連盟の思い出／スペインの民謡と舞踊[「世相さまざま(35)」]『東京だより』36、7月1日
- 不況対策と米国[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-23、7月11日<<無署名>>[『日記』7月4日]
- 米国の大統領選[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-25、7月21日<<無署名>>
- 私も同憂同感だ[「板倉博士に答う」]『時事新報[夕刊]』7月25日
- 中共の購買力[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-26、8月1日<<無署名>>[『日記』7月24日：中共の購買力]
- [「日本は斯くあるべし」]『天地人』1、8月1日
- アイゼンハワー勝つか／教育界の課題[「東京だより」]『東京だより』37、8月1日<<無名氏>>
- 英国政界の怪物ーペヴェンー 『東京だより』37、8月1日
- チャーチルの仕事振り／大西洋横断のレコード[「世相さまざま(36)」]『東京だより』37、8月1日
- 海と空と音『東京だより』37、8月1日[座談会：浅尾新甫、古垣鉄郎、颯田琴次]
- ソ連・中共の戦備[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-27、8月11日<<無署名>>[『日記』8月4日]
- いもから始まる話[「グラフ対談」]『毎日グラフ』5-22、8月1日[6月27日対談：東山千栄子]
- 芦田放談 危機收拾へ政策転換 “解散の時期は問題でない” [インタビュー]『東京新聞』8月18日
- 世界不況の行く手[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-28、8月21日<<無署名>>[『日記』8月15日：世界経済不況に関する意見を紹介]
- 治安維持の能力なき現内閣の偽購策『新民』3-9、9月1日
- 苦難のアジア経済[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-29、9月1日<<無署名>>[『日記』8月24日]
- 八千四百万の欠伸／本末顛倒の図絵／大統領選挙の裏表『東京だより』38、9月1日<<無名氏>>[『日記』8月13日：八千四百万の欠伸、本末顛倒の図絵、北米大統領選]
- 政治は人口を増減する／泰国のバレー／ハンガリアの写真術 [「世相さまざま(37)」]『東京だより』38、

9月1日

問答無益か『東京だより』38、9月1日[7月25日付『時事新報』から転載]

堂々再軍備やれ 吉田内閣は“夜逃げ解散” [9月1日演説要旨於共立講堂「総選挙に臨む各党一声 毎日新聞社主催四党代表演説会」]『毎日新聞』9月2日

お好み対談『時事新報』9月3日[9月1日対談：杉村春子]

力相応の少数精鋭で[9月2日演説要旨於毎日新聞社主催四大政党代表演説会]『[大阪]毎日新聞』9月3日

モスクワ会談[「国際展望」]『ダイヤモンド』40-31、9月11日<無署名>[『日記』8月28日]

[「国民はどの政党を支持するか」]『経済時代』17-9、10月1日

総選挙戦の展開『東京だより』39、10月1日

ムソリーニの亡霊／歴史学の変遷[「世相さまざま(38)」]『東京だより』39、10月1日

四党首脳大いに語る『読売新聞』10月3、4日[10月2日座談会：鳩山一郎、河上丈太郎、鈴木茂三郎]

今後の日本の政治『講演時報』704、10月5日[座談会：鳩山一郎、河上丈太郎、鈴木茂三郎]

当選御礼[「風信録」]『時局』179、11月1日

政局の安定は望みうるか／遠東同盟の指向するところ [「東京だより」]『東京だより』40、11月1日<無名氏>

パガニアの提琴／映画冷戦／『国際問題梗概』の再現 [「世相さまざま(39)」]『東京だより』40、11月1日

座談会 秋空に囁く『東京だより』40、11月1日[座談会：伊藤正徳、高石真五郎、松本竜蔵]

民主主義政治の根本／政局の安定／争議が国を貧乏にする[「東京だより」]『東京だより』41、12月1日<無名氏>

憲法を改正しよう『東京だより』41、12月1日

フオレストアルの日記／シユーマツヘル之死 [「世相さまざま(40)」]『東京だより』41、12月1日

米国大統領選挙をどう見る『東京だより』41、12月1日[座談会：楠山義太郎、野田岩次郎、須磨弥吉郎]

兵器生産をめぐる問題『東京新聞』12月31日[12月16日座談会(於帝国ホテル)：郷古潔、佐藤喜一郎、和田博雄、片山哲、星島二郎、緒方竹虎]

1953(昭和28)年

日本の再軍備はいつか『京都新聞』1月1日[1952年12月17日座談会(於参議院副議長室)：緒方竹虎、水谷長三郎]

容易ならぬ環境[「感激した事実、驚異した事柄 新春に感ずるところ」]『時局』181、1月1日

ロシア研究について『大陸問題』2-1、1月1日

新年に迷う／施政方針の声明／改進黨の動向[「東京だより」]『東京だより』42、1月1日<無名氏>

よろず覚え帖『東京だより』42、1月1日[座談会：石橋湛山、石坂泰三、城戸四郎]

クルツプ家の復旧／保守党の系譜[「世相さまさま(41)】『東京だより』42、1月1日
政局の今日と明日『北海タイムス』1月1、3日[12月23日対談(於交詢社)：阿部真之助]
極東情勢は安定するか『名古屋タイムズ』1月4日[対談：有田八郎]
大砲かバターか『西日本新聞』1月4、5日[12月23日対談(於交詢社)：勝間田清一]
アイクと世界経済[「国際展望】『ダイヤモンド』41-4、2月1日<<無署名>>[『日記』1月23日]
われ等の前途を考え直そう『東京だより』43、2月1日
南鮮戦局とアイク／労働運動と政党[「東京だより】『東京だより』43、2月1日<<無名氏>>
大統領の演説／ベルリン市長を讃える [「世相さまさま(42)】『東京だより』43、2月1日
政治家と事業[「国際展望】『ダイヤモンド』41-5、2月11日<<無署名>>[『日記』2月2日]
他山の石[「国際展望】『ダイヤモンド』41-7、2月21日<<無署名>>
国防費の増大[「国際展望】『ダイヤモンド』41-8、3月1日<<無署名>>
春季攻勢はあるか／吉屋信子さんの場合／日本の経済は難局にある『東京だより』44、3月1日
オペラと国民性『東京だより』44、3月1日[12月16日座談会(於東京会館別館)：藤原義江、小松清、
長井亜歴山]
チャップリン帰る [「世相さまさま(43)】『東京だより』44、3月1日
これからの政治 これからの経済『ダイヤモンド』41-9、3月5日[座談会：高崎達之助、伊藤忠兵衛、
石山賢吉]
[「今後の米ソ関係をどう見るか】『読売新聞』3月5日
一新求む人心[「政局不安を衝く アンケート】『京都新聞』3月11日
ダレス氏訪日か[「国際展望】『ダイヤモンド』41-10、3月11日<<無署名>>
スターリンの相続者[「国際展望】『ダイヤモンド』41-11、3月21日<<無署名>>
マレンコフの洋行[「国際展望】『ダイヤモンド』41-12、4月1日<<無署名>>[『日記』3月24日]
スターリン亡きソ連のなぞ『東京だより』45、4月1日
戴冠式の意味するもの [「世相さまさま(44)】『東京だより』45、4月1日
続てんやわんや『東京だより』45、4月1日[3月6日座談会(於芦田邸)：宮田重雄、大庭惣太郎、久保
田万太郎、渋谷秀雄、佐々木茂索、芦田夫人]
私心を捨て協力へ[「政局収集の途」談]『東京新聞』4月21日
ルールなき野球戦／選挙風景とところどころ[「東京だより】『東京だより』46、5月1日<<無名氏>>
ベヴィンを想い起して [「世相さまさま(45)】『東京だより』46、5月1日
平和攻勢の狙い[「国際展望】『ダイヤモンド』41-18、5月11日<<無署名>>[『日記』5月5日]
米国の軍需生産[「国際展望】『ダイヤモンド』41-19、5月21日<<無署名>>
三巨頭会談[「国際展望】『ダイヤモンド』41-20、6月1日<<無署名>>
吉田第五次内閣／率直な警告[「東京だより】『東京だより』47、6月1日<<無名氏>>

バグロム／羨ましい図絵 [「世相さまざま(46)」] 『東京だより』 47、6月1日
 平和の確保について 『朝日新聞』 6月10～13日 [6月9日対談：都留重人]
 米国と保護関税 [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 41-22、6月11日 ≪無署名≫
 M.S.A 援助 [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 41-23、6月21日 ≪無署名≫ [『日記』 6月11日：MSA 援助
 と吉田内閣]
 私の一日 『毎日新聞[夕刊]』 6月29日
 鉄、石炭共同体 [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 41-24、7月1日 ≪無署名≫
 なんと聴いたか／朝鮮は底なしの沼? [「東京だより」] 『東京だより』 48、7月1日 ≪無名氏≫
 豪華版の復興／五百年を記念する [「世相さまざま(47)」] 『東京だより』 48、7月1日
 座談会 日本の貿易をどうするか 『東京だより』 48、7月1日 [座談会：野田岩次郎、一井保造]
 芦田首相政局を語る [インタビュー] 『毎日新聞』 7月8日
 ソ連圏との貿易 [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 41-27、7月11日 ≪無署名≫ [『日記』 7月5日]
 ベリア追放 [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 41-28、7月21日 ≪無署名≫ [『日記』 7月13日]
 極東と英米 [「国際展望」] 『ダイヤモンド』 41-29、8月1日 ≪無署名≫ [『日記』 7月23日：極東と英米]
 モスクワー伯林ー倫敦 [「世界の動き」] 『東京だより』 49、8月1日
 総評の動向を注目せよ 『東京だより』 49、8月1日 ≪無署名≫ [『日記』 7月16日：総評の運動方針]
 西と東／動物園見物 [「世相さまざま(48)」] 『東京だより』 49、8月1日
 [「8.15日あの放送があったあの瞬間、あなたはどこで何をしていましたか」] 『丸』 6-8、8月1日
 日共の新動向を衝く 『東京新聞』 8月10、11日 [座談会：三田村四郎、吉橋敏雄、野溝勝]
 吉田・芦田一騎打 七月国会の防衛問答 [7月30日衆議院予算委員会会議速記録から転載] 『東京だより』
 50、9月1日
 議会政治の効用 [「世相さまざま(49)」] 『東京だより』 50、9月1日
 初秋に語る 『東京だより』 50、9月1日 [座談会：渋谷秀雄、益田義信、戸塚文子、榊原麗一]
 ペラ・イタリヤ首相と語る 『毎日新聞[夕刊]』 9月23日
 欧米の旅 ネールの印度 [「東京だより」] 『東京だより』 51、10月1日
 ラニエル仏首相と語る 『毎日新聞』 10月1日
 ジュアン元帥と会談 『毎日新聞[夕刊]』 10月2日
 英労働党大会印象記 『毎日新聞』 10月3日
 悩む英国の二大政党 『毎日新聞』 10月13日
 “馬鹿げた外交々々” 芦田均氏昨夜来布して語る [記事中に一問一答] 『布哇時報』 10月30日 <「芦田均
 関係文書(書類の部)」459>
 欧米見聞記 『東京だより』 52、11月1日
 欧米を視察して 日本国民にうつつ [12日報告談(於明覚寺)] 『両丹時報』 437、11月17日 <「芦田均関
 係文書(書類の部)」459>

再建ドイツを見る [「欧米見聞記」] 『東京だより』 53、12月1日
ベルリン・冷戦の縮図 [「欧米見聞記」] 『東京だより』 53、12月1日
反共防衛の計画を米国に明示すべきだ [「欧米見聞記」] 『東京だより』 53、12月1日
私が見た欧州 [談] 『ダイヤモンド』 41-50、12月21日

1954(昭和 29)年

戦争の危機は去ったか 『熊本日日新聞』 1月1、3日 [座談会：稲葉秀三、大前敏一]
ヨーロッパに旅して 『新民』 5-1、1月1日
芦田・片山元首相時局対談 『政界往来』 20-1、1月1日 [11月21日対談：片山哲]
一九五四年の年頭にあたりて 『大陸問題』 3-1、1月1日
アメリカ大陸の話三十分間 『東京だより』 54、1月1日
アメリカで会った人々(上) [「世相さまざま(50)」] 『東京だより』 54、1月1日
日本の進むべき道 『西日本新聞』 1月1日 [12月16日座談会：松本重治、風見章、木内信胤]
世界と日本 『毎日新聞』 1月1、3～6日 [12月15日座談会(於毎日新聞社)：尾高朝雄、阿部真之助、湯川秀樹、藤山愛一郎]
西独の再建に何を学ぶか 『経済展望』 26-1、1月3日
戦争の危機は去ったか アトム時代への国際情勢を探る 『東都新聞』 1月3日 [座談会：稲葉秀三、大前敏一]
政策に衆知集めよ 経済の難局打開が急務 [「政局と改進黨の出方 緒方・芦田両氏にきく」] 『朝日新聞』 1月5日
再軍備と憲法改正 ことしの二つの課題 『東京タイムズ』 1月5日 [座談会：宮沢俊義、稲葉秀三]
安定政権への道 欧米諸国の発展とくらべて 『産業経済新聞』 1月11日
ヒトラーが寝た部屋 『オール読物』 9-2、2月1日
元旦に想う [「東京だより」] 『東京だより』 55、2月1日 <<目次および冒頭に芦田均、文末に無名氏と署名>>
アメリカで会った人々(中) [「世相さまざま(51)」] 『東京だより』 55、2月1日
[「再軍備討論選手権試合」] 『文芸春秋』 32-3、2月5日
日本の再軍備について [1月25日講演(於北海道クラブ)] 『講演』 752、3月1日
ドイツ人と四国外相会議／ソ連の極東政策 [「東京だより」] 『東京だより』 56、3月1日 <<無名氏>>
ダレス氏の生立ちと政策 [「世相さまざま(52)」] 『東京だより』 56、3月1日
日本は観光に値するか 『東京だより』 56、3月1日 [2月6日座談会(於東京会館)：土屋計左右、宮田重雄、真杉静枝]
川奈の冬 まえがき 『東京だより』 56、3月1日
“新党で経済危機克服” [「保守合同」問題について記者団と一問一答] 『朝日新聞』 3月31日 [「新聞集成

昭和編年史 昭和二十九年版Ⅱ ビキニ被災事件』(新聞資料出版、2005年)収録

芦田氏を囲む大学生の再軍備討論 武装平和か非武装平和か! 『キング』30-5、4月1日[座談会: 谷中敦、石川巖、守屋洋子、境栄八郎]

インド・シナ危し/地方防衛隊を造ろう/西独の軍備始まる[「東京だより」] 『東京だより』57、4月1日
 ≪無名氏≫

フランス大統領 [「世相さまざま(53)」] 『東京だより』57、4月1日

政局安定こそ目下の急務[談] 『毎日新聞[夕刊]』4月3日

新党が出来れば内閣総辞職は当然[車中談] 『朝日新聞[夕刊]』4月15日 [『新聞集成昭和編年史 昭和二十九年版Ⅱ ビキニ被災事件』(新聞資料出版、2005年)収録]

五周年を祝う[「あるびよん談話室」] 『あるびよん』24、5月1日

冷却期間において再燃せん[談][「保守合同劇の波紋」] 『政界往来』20-5、5月1日

保守新党の結成[「東京だより」] 『東京だより』58、5月1日 ≪無名氏≫

アメリカの眼はアジアへ 『東京だより』58、5月1日

美味真求の使徒[「世相さまざま(54)」] 『東京だより』58、5月1日

ディエンビエンフーの勇将[「寄書」] 『毎日新聞』5月9日

[「アンケート 次期首班は誰か」] 『世潮』1-4、6月1日

保守新党の有り方[「東京だより」] 『東京だより』59、6月1日 ≪無名氏≫

旅の屑籠 『東京だより』59、6月1日 [インタビュー: 石坂泰三]

チャーチルの備忘録/デンビエンフーの勇将[「世相さまざま(55)」] 『東京だより』59、6月1日

近頃最大のショウ/共産主義国も不況[「東京だより」] 『東京だより』60、7月1日 ≪無名氏≫

インドシナの帰趨は重大 『東京だより』60、7月1日

軍閥政治の回顧—自由黨創立の当初 『東京だより』60、7月1日 [座談会: 鳩山一郎、安藤正純、石坂豊一、植原悦二郎、大野伴睦、北吟吉、世耕弘一、林譲治、星島二郎、森幸太郎]

フランスの女性[「世相さまざま(56)」] 『東京だより』60、7月1日

吉田茂の胸の底には 『文芸春秋』32-10、7月1日 [座談会: 原安三郎、岸信介、阿部真之助]

新党問題をこう見る 『京都新聞』7月16日 [インタビュー]

仏印問題の推移は重大 日本は転機に直面せん 『ダイヤモンド』42-30、7月21日

新党推進を語る[「一問一答」] 『毎日新聞』7月23日

新党をこう推進する 『西日本新聞』7月29日 [座談会: 金光庸夫、石橋湛山、岸信介]

清沢君の思い出[「“暗黒日記”を読んで」] 『東洋経済新報』2936、7月31日

*揮毫 『政界往来』20-8、8月1日

梅雨はあけたれど/ヴェトミンの休戦/英米の距離 『東京だより』61、8月1日 ≪無名氏≫

ジュネーブの思い出[「世相さまざま(57)」] 『東京だより』61、8月1日

新党の構想を語る 『河北新報』8月4日

- 外務省の課長時代[「私の処女出版」]『東京新聞』8月8日
- 新党の結成を天下に懇える『東京だより』62、9月1日
- フランスに現れた新衛星—マンデス・フランスの片貌—[「世相さまざま(58)」]『東京だより』62、9月1日
- 新党よ何処へ行く『東京だより』62、9月1日[座談会：岸信介、富岡健吉、小林幸三郎、清水二三夫、八尋正也、有馬英治]
- 青年よ!! 銃をとれ!![7月25日新党結成促進大講演会於中央公会堂。文責在記者]『日本講演』6-17、9月1日
- 吉田・芦田会談の波紋[「東京だより」]『東京だより』63、10月1日<<無名氏>>
- 素人と玄人／デアギレフ遊いて廿五年[「世相さまざま(59)」]『東京だより』63、10月1日
- 古いロシヤと新しいソ連『東京だより』63、10月1日[座談会：佐藤尚武、櫻内義雄、西村直巳、堂森芳夫]
- ‘Best Years of My Life’, says Ex-Prime Minister 『Nippon Times』10月19日
- 罌堂先生を偲ぶ『時局』200、11月1日
- 青淵先生のことども[「青淵忌」]『青淵』68、11月1日
- ヨーロツパの底流／米国の総選挙[「東京だより」]『東京だより』64、11月1日<<無名氏>>
- 『日本の生きる道』[「世相さまざま(60)」]『東京だより』64、11月1日
- 欧州はどうなる『東京だより』64、11月1日[座談会：岩永信吉、寺岡洪、中村正吾、湯川盛夫]
- 吉田は引退するか『文芸春秋』32-17、11月1日[インタビュー：阿部真之助]
- 新党をめぐる政局のゆくえ—渦中の人・芦田均氏の意中を叩く—『ダイヤモンド』42-47、11月21日[インタビュー：久留島秀三郎]
- 政局はどうなる[「東京だより」]『東京だより』65、12月1日<<無名氏>>
- トインビー博士の偉業[「世相さまざま(61)」]『東京だより』65、12月1日
- 季徳全女子の来訪を機会に『東京だより』65、12月1日[座談会：前田多門、葛西嘉資、宮元利直、近藤操、馬朝茂]

1955(昭和30)年

- 吉田さん引退[「東京だより」]『東京だより』66、1月1日<<無名氏>>
- チャーチルの誕生日[「世相さまざま(62)」]『東京だより』66、1月1日
- トインビー博士の偉業『日本歴史』80、1月1日
- 平和共存の思想『東京だより』67、2月1日
- スターリンの登龍門[「世相さまざま(63)」]『東京だより』67、2月1日
- 選挙の警鐘[「東京だより」]『東京だより』68、3月1日<<無署名>>
- 明治法学の功労者 ボアソナード博士 [「世相さまざま(64)」]『東京だより』68、3月1日

鳩山内閣と外交問題／賑やかな政界はなし[「東京だより」]『東京だより』69、4月1日<<無名氏>>

ブルガーニンの執権は何を意味する『東京だより』69、4月1日

『文民』とは何を云うか『東京だより』69、4月1日[座談会：織田信恒、松本学、金森徳次郎、牧野英一、宮沢俊義]

矢張り女はフランスだ／住宅問題の断片[「世相さまざま(65)」]『東京だより』69、4月1日

台湾海峡の風雲／政争は尚つゞく[「東京だより」]『東京だより』70、5月1日<<無名氏>>

身近に見た偉人[「世相さまざま(66)」]『東京だより』70、5月1日

ヤルタ会談の文書―スターリンとローズヴェルトとの取引―『東京だより』70、5月1日

世界の片隅『東京だより』70、5月1日[インタビュー：荒川昌二、千葉浩]

不十分な防衛の義務[「憲法改正は是非か」]『毎日新聞』5月3日

芦田均氏の政局観『大陸問題』4-6、6月1日[対談：土居明夫]

四巨頭会談の開催を何と見る／南ヴェトナムの擾乱と東南亜[「東京だより」]『東京だより』71、6月1日<<無名氏>>

新聞王マツココミック[「世相さまざま(67)」]『東京だより』71、6月1日

憲法改正か憲法擁護か[5月3日ラジオ東京放送]『東京だより』71、6月1日[座談会：片山哲、海野晋吉、鍋山貞親、矢部貞治]

アジアは一つか―バンドン会議と米国―『東京だより』71、6月1日

クレムリンの二巨頭[「世相さまざま(68)」]『東京だより』72、7月1日

日ソ交渉の前途『ダイヤモンド』43-31、7月11日

ロシアの夏[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』7月23日

巨頭会談と日本の立場『毎日新聞』7月26、27日[座談会：有田八郎、横田喜三郎]

ソ連中共を見た学者の話『東京だより』73、8月1日

四巨頭会談の後に来るもの『東京だより』73、8月1日[座談会：松本重治、寺岡洪平]

日ソ関係を想う[「世相さまざま(69)」]『東京だより』73、8月1日

平和共存にも限界あり[「対ソ要求貫徹国民大会」]『実業の世界』52-12、8月15日

十年の歩み[「歴代首相回想記」]『毎日新聞』8月19、20日

西は晴、東は曇り／朝鮮はどうなる?／台湾は俱命鳥／ヴェトナムの赤信号[「東京だより」]『東京だより』74、9月1日<<無名氏>>

住みよい東京都にするには『東京だより』74、9月1日[座談会：安井誠一郎、石川栄耀、関伊能、田中峰子]

安定政権を造る一方法／四巨頭会談ではソ連が勝った[「世相さまざま(70)」]『東京だより』74、9月1日

新聞ラジオのあり方『文芸春秋』33-17、9月1日

歴史に見る軍人の政治的関与[「世相さまざま(71)」]『東京だより』75、10月1日

増強されるソ連の海空軍『ダイヤモンド』43-48、11月1日

オールドリベラリスト放談『中央公論』70-11、11月1日[9月17日座談会(於築地錦水):伊藤正徳、小汀利得、石橋湛山、三宅晴暉]

ソ連の海空軍は跳躍する『東京だより』76、11月1日

桧舞台でのアデナウアー[「世相さまざま(72)」]『東京だより』76、11月1日

[「保守合同アンケート 総裁公選をどうする」]『産経時事』11月2日

二大政党の対立『朝日新聞』11月24、25、27、28日[11月19日座談会:河上丈太郎、前田多門]

冷戦の逆戻り 四国外相会議の失敗『東京だより』77、12月1日

悲恋の後味—マーガレット姫をめぐる—[「世相さまざま(73)」]『東京だより』77、12月1日

1956(昭和31)年

ソ連の対日要求は不当—勇気をもって世界に教えよ—『新政界』2-1、1月1日

今年の国際政局は厳しい『ダイヤモンド』44-1、1月1日

対決を迫られる世界情勢『東京だより』78、1月1日

英国外相マクミラン—保守党の三羽鳥[「世相さまざま(74)」]『東京だより』78、1月1日

新しい外交のために『毎日新聞』1月4~6日[12月14日インタビュー於毎日新聞社]

保守党の将来『風声』3-1、1月10日[12月13日座談会(於東京会館):阿部真之助、岸信介、水野成夫、山地寿]

政局の動向と外交問題[12月9日講演(於神戸貿易協会)]『神戸貿易』53、1月

[「あなたのご覧になった映画で(イ)もう一度知りたい観たい映画(邦洋問わず)(ロ)その映画をご覧になった時代や、それにまつわる思い出について」]『知性』3-2、2月1日

スターリンは死んだれど『東京だより』79、2月1日

モナコ王様の婚約[「世相さまざま(75)」]『東京だより』79、2月1日

日本に残された道『二つの世界』2-3、2月13日[1月25日座談会(於丸の内会館):苗剣秋、伊部政一]

戦術の転換か[談]『朝日新聞』2月19日

憲法をどう改正するか『東京だより』80、3月1日

トルーマンの備忘録(一)[「世相さまざま(76)」]『東京だより』80、3月1日

日本の観光と航空問題『東京だより』80、3月1日[座談会:鈴木祥枝、松山義雄、松尾静磨、野沢誠一郎]

権威ある専門家の講義を[「アンケート 今後の放送に望む」]『放送文化』11-3、3月1日

ソ連共産党大会を何と見る『ダイヤモンド』44-12、3月17日

憲法はこうして生れた『東京新聞』3月30、31日

ソ連共産党大会を何と見る『東京だより』81、4月1日

トルーマンの備忘録(二)[「世相さまざま(77)」]『東京だより』81、4月1日

終始節を曲げぬ人[「馬場恒吾氏」]『読売新聞』4月6日

国をまもる憲法[2月18日演説筆記於大阪中之島公会堂]『民主政治』2-4、4月10日

The Realities of Japan's Foreign Policy 『Japan Quarterly』3-2(April-June)、4月

新憲法の生まれるまで『中央公論』71-5、5月1日[『制定の立場で省みる日本国憲法入門 第一集』(書肆心水、2013年)抄録]

スターリンを痛撃するクレムリンの肚『東京だより』82、5月1日

自由主義の旗を掲げよ[「世相さまざま(78)」]『東京だより』82、5月1日

憲法改正の争点『毎日新聞』5月2、3、5日[対談：片山哲]

国の安全が第一 国交、既定方針は崩せぬ[「モスクワ交渉をこうみる」]『朝日新聞』5月11日

日本の国際新路線 一大転機を迎えた外交面を語る『読売新聞』5月13日[5月10日対談(於読売新聞社)：山川均][『山川均全集 第20巻』(勁草書房、2001年)収録]

*憲法誕生秘話『政経人』3-5、5月

どうして日本を再建するか『大陸問題』5-6、6月1日

国会のから廻り／予想通りのロンドン会談／日本は狙われている[「東京だより」]『東京だより』83、6月1日<<無名氏>>

若返りする暮し方『東京だより』83、6月1日

めちやめちやになった夜会[「世相さまざま(79)」]『東京だより』83、6月1日

参議院制の再検討／国防会議は看板倒れか[「東京だより」]『東京だより』84、7月1日<<無名氏>>

明治末期の銀座『東京だより』84、7月1日

モロトフ退場／労働党首領ゲツツケル[「世相さまざま(80)」]『東京だより』84、7月1日

民主国会の将来 国会の暴力、について『東京だより』84、7月1日[6月8日座談会(於東京会館)：宮沢俊義、西尾末広]

重光全権を送る『東京新聞[夕刊]』7月25日

国を危くする早期妥結『新民』7-8、8月1日

まけるも道理の参議院選挙／東西両陣営の「だんまり」の場[「東京だより」]『東京だより』85、8月1日<<無署名>>

日ソ復交の問題点『東京だより』85、8月1日

ボズナン暴動の意味するもの『東京だより』85、8月1日

映画・演劇の検閲について[「世相さまざま(81)」]『東京だより』85、8月1日

ボズナン暴動の背景『ダイヤモンド』44-34、8月4日

承服できぬソ連の強圧『毎日新聞』8月21日

ソ連の要求は断じて否[「領土問題国民大会」]『経済時代』21-9、9月1日

当面する日本外交について『新政経』81、9月1日[8月10日座談会(於東京ナショナルビル)：河野密、長谷川才次、天羽英二]

民主主義の新聞『新聞研究』62、9月1日

- 日ソ交渉行詰る『東京だより』86、9月1日
- エジプトの独裁者 ナッセル大佐の片貌[「世相さまざま(82)」]『東京だより』86、9月1日
- 日ソ交渉をどうみる『河北新報』9月7日
- 力に屈するな[8月20日講演於朝日講堂]『日本講演』8-23、9月11日
- 日ソ交渉と政局『京都新聞』9月21～23日[9月20日対談：水谷長三郎]
- 校風と伝統の壊滅『学会月報』665、10月1日
- 日ソ交渉の三段飛び／両党対峙の議会政治は難航／アメリカの謎[「時局三題」]『東京だより』87、10月1日
- 慢性の栄養失調の日本人[「(83)世相さまざま」]『東京だより』87、10月1日
- スエズ問題はどうか『ダイヤモンド』44-45、10月9日
- 国際情勢と日本の憲法—自衛軍備は逆行か—[自主憲法講座より]『民主政治』2-10、10月10日
- 日ソ交渉をめぐる国際情勢[9月19日講演於神戸貿易協会]『神戸貿易』57、10月
- 七十周年に当りて『青淵』92、11月1日[座談会：大橋広、川北禎一、矢野一郎、斉藤栄三郎、今村信吉]
- 慎重論の立場から[「日ソ国交特輯」]『世界』131、11月1日[インタビュー：松岡洋子]
- 鉄のカーテンはゆらぐ[「世相さまざま(84)」]『東京だより』88、11月1日
- 鉄のカーテンは揺らぐ『ダイヤモンド』44-49、11月6日
- 動乱から日本は何を学ぶか『東京新聞』11月9、10日[11月8日座談会：西尾末広、矢部貞治]
- 動乱から日本は何を学ぶか『講演時報』856、11月16日[11月8日座談会：西尾末広、矢部貞治]
- 自由解放の精神[「特集 ソ連の東欧進入と衛星諸国」]『経済時代』21-12、12月1日
- 自由解放の精神『東京だより』89、12月1日
- [「世相さまざま(85)」]『東京だより』89、12月1日
- 国連加盟と日本の立場『日本経済新聞』12月13日[12月12日座談会：勝間田清一、横田喜三郎]

1957(昭和32)年

- 国連加盟と責任分担『新民』8-1、1月1日
- 世界情勢とソ連の実態『ダイヤモンド』45-1、1月1日
- ソ連の明星—ウラーノヴァ／チーズの女神[「世相さまざま(86)」]『東京だより』90、1月1日
- 世界はどう動くか『東京だより』90、1月1日[座談会：木内信胤、横田喜三郎、長谷川才次、松本重治、笠信太郎]
- 燃えあがる自由解放の精神『経済展望』29-1、1月3日
- 犠牲を分担する覚悟がある[「国連加盟の心構え」]『中央公論』72-2、2月1日
- ソ連の雪どけ『東京だより』91、2月1日

太陽族は日蝕か／逢瀬[「世相さまさま(87)」]『東京だより』91、2月1日
新春雑感[講演筆記]『青淵』96、3月1日
石橋首相の退陣[「巻頭言」]『東京だより』92、3月1日<<無署名>>[『日記』2月24日：石橋首相の引退]
中近東の葛藤が意味するもの『東京だより』92、3月1日
英国外相セルウィン・ロイド[「世相さまさま(88)」]『東京だより』92、3月1日
余りにも独善的な『文芸春秋』35-3、3月1日
時局問題の参考書二つ[「私のすいせん本」]『週刊東京』3-9、3月2日
『東西両陣営の対立と日本』[2月7日講演於神戸貿易協会]『神戸貿易』59、3月
官尊民卑を打破せよ[「岸内閣激励派閣解消大演説会」]『新政界』3-5、4月1日
国連をめぐる諸問題『東京だより』93、4月1日[座談会：佐藤尚武、沢田廉三、嘉治隆一、今井義一]
イスラエルとその指導者[「世相さまさま(89)」]『東京だより』93、4月1日
よい指導者を待望 マ大統領死後のフィリピン『毎日新聞』4月17日
米ソを軸とする世界軍備の今後 近代科学の発達で戦略戦術は一変『ダイヤモンド』45-19、4月30日
長期防衛計画と科学兵器[「兵器の革命と新防衛態制」]『東京だより』94、5月1日
フィリピンに旅して[「世相さまさま(90)」]『東京だより』94、5月1日
[「時計アンケート 私の持っている時計」]『時計』2-5、5月1日
フセイン王の武者振りージョルダン革命の背景ー[「世相さまさま(91)」]『東京だより』95、6月1日
防衛計画の飛躍体制『国策』4-6、6月15日
外交を活かす途[「私見」]『ダイヤモンド』45-27、6月18日
岸首相の訪米に何を期待する『東京だより』96、7月1日[座談会：岡崎勝男、長谷川才次]
パンのみに生きるに非ずーソ連思想界の胎動ー[「世相さまさま(92)」]『東京だより』96、7月1日
モスクーのクーデタ[「私見」]『ダイヤモンド』45-32、7月23日
モスクー瘡癩『東京だより』97、8月1日
芝居を語る『東京だより』97、8月1日[座談会：小泉信三、花柳章太郎、水谷八重子、渋沢秀雄]
三都の空に立つ幻[「世相さまさま(93)」]『東京だより』97、8月1日
日本の藪睨み『東京だより』97、8月1日
経済外交とは何か[「私見」]『ダイヤモンド』45-38、8月27日
大陸間弾道兵器の登場『朝日新聞』8月29～31日[8月28日座談会：入江啓四郎、林三郎、脇村義太郎、
田中慎次郎]
日本の外交『新民』8-9、10、9月1日、10月1日
中共の実態を語る『東京だより』98、9月1日[座談会：橘善守、田尻愛義、板垣修、清水董三]
英国蔵相ソーネークロフト／脚光をあびるオマン侯国[「世相さまさま(94)」]『東京だより』98、9月1
日

- 日本はどっちを向いている―底に流れる根本的な問題点―『経済往来』9-10、10月1日
- 共産主義への爆弾―ユーゴのゲーラスの著書―[「東京だより」]『東京だより』99、10月1日<<無署名>>
[『日記』9月9日：Djilasが獄中で書いた書物の内容]
- 大陸間誘導弾は防げるか『東京だより』99、10月1日[座談会：関野秀夫、矢部忠太、大井篤、保科善四郎]
- ロシア・パレーを見る[「世相さまざま(95)」]『東京だより』99、10月1日
- 安保理参加に思う『中部日本新聞』10月3日[10月2日対談(於東京会館)：蠟山政道]
- 安保理に当選して『北海道新聞』10月3日[10月2日対談(於東京会館)：蠟山政道]
- 『国連中心の外交』をどう見る[「私見」]『ダイヤモンド』45-44、10月8日
- シリアをめぐる低気圧 危機の正体を分析する『ダイヤモンド』45-48、10月29日
- 国連と日本の外交／中近東の緊迫した情勢[「東京だより」]『東京だより』100、11月1日<<無署名>>[『日記』10月18日：巻頭論文、10月19日：中近東の緊迫した情勢]
- 百歳の計『東京だより』100、11月1日[座談会：長谷川如是閑、松永安左衛門、木村義雄、石山賢吉]
- 自由精神の胎動―ソ連の弾圧をめぐる―[「世相さまざま(96)」]『東京だより』100、11月1日
- ロシア・パレーの今昔―革命にも負けぬ民族の才能―『芸芸春秋』35-11、11月1日[『革命前後のロシア』収録]
- ジュコフ屠らる[「私見」]『ダイヤモンド』45-50、11月12日
- ジュコフ追放さる／科学振興は組織的に／国立劇場は出来るのか[「東京だより」]『東京だより』101、12月1日<<無署名>>[『日記』11月13日：巻頭論文]
- 悪道路・住宅難・そして交通地獄『東京だより』101、12月1日[座談会：加納久朗、鈴木清秀、池田潔、井尻三郎]
- 英国政界の絵巻物[「世相さまざま(97)」]『東京だより』101、12月1日
- 核兵器時代の外交[「私見」]『ダイヤモンド』45-56、12月17日

1958(昭和33)年

- 新春を迎える世界の表情[「東京だより」]『東京だより』102、1月1日<<無署名>>
- 核兵器時代の外交―座談会『東京だより』102、1月1日[座談会：長谷川才次、田村幸策、福島慎太郎、林三郎]
- 若き日の思い出[「世相さまざま(98)」]『東京だより』102、1月1日
- 日本はどう進んだらよいか『東京新聞』1月1、3～5日[12月23日座談会：野村吉三郎、有田八郎]
- 「新思潮」の前後[「文学的交遊録」]『文学界』12-1、1月1日
- 『ミサイル戦略』下の国際秩序『日本経済新聞』1月3日[12月23日座談会：曾禰益、横田喜三郎、佐伯喜一]
- 日本外交の将来『講演時報』910、911、1月8、16日[座談会：野村吉三郎、有田八郎]
- 歳は悲観論であける[「私見」]『ダイヤモンド』46-3、1月14日

核兵器時代と日本の進路『国策』5-2、2月1日

イギリスの新蔵相[「世相さまざま(99)」]『東京だより』103、2月1日

憲法草案の出来るまで あわせて戦争放棄の意味[1957年12月5日憲法調査会第七回総会]『東京だより』103、2月1日[『憲法調査会総会議事録』第7回(憲法調査会、1957年12月)から再録]

清風会の目ざすもの『清風』1、2月11日

インドネシアの危機[「私見」]『ダイヤモンド』46-9、2月18日

核兵器時代の外交[「1月17日大陸問題研究所主催講演会於参議院会館」]『大陸問題』7-3、3月1日

インドネシアの革命[「東京だより」]『東京だより』104、3月1日<<無署名>>

アラビヤの石油、狸山の油『東京だより』104、3月1日[2月10日座談会(於東京ホテル):山下太郎、三村起一]

洋書から拾った話[「世相さまざま(100)」]『東京だより』104、3月1日

外交の混迷を憂える[「私見」]『ダイヤモンド』46-15、3月25日

ニコライ二世の恋[「世相さまざま(101)」]『東京だより』105、4月1日

謝辞[「芦田均氏を祝う集い」]『東京だより』105、4月1日

米国版『正力伝』を読む『学鏡』55-3、4月5日

私のヘボ将棋[「世相さまざま(102)」]『東京だより』106、5月1日

イスラエルから帰って『毎日新聞』5月8日

パリーロンドンーイスラエルの旅『東京だより』107、6月1日[『パリーロンドンーイスラエルの旅』<特別資料37>(中外調査会、1958年7月10日)]

ド・ゴール將軍の背景[「私見」]『ダイヤモンド』46-28、6月17日

国民大衆に憩えるー保守革新の対決ー『東京だより』108、7月1日

ド・ゴールが出るには出る理由がある『東京だより』108、7月1日

俺達はなぜ負けたか『東京だより』108、7月1日[6月3日座談会:木村義雄、宮沢胤勇、太田正孝、高津正道]

イムレ・ナジ元首相処刑の背景[「私見」]『ダイヤモンド』46-33、7月22日

中東動乱と日本の立場『ダイヤモンド』46-35、7月29日

中道政治の夢のあと[「戦後総理の政界秘話」]『評』5-7、7月[インタビューア:細川隆元]

ナジ元首相の処刑を何と見る『東京だより』109、8月1日

中東の動乱と日本『東京だより』109、8月1日

モスクー芸術座のことなど[「世相さまざま(103)」]『東京だより』109、8月1日[「モスクー芸術座の想い出」と改題『革命前後のロシア』収録]

アラブ国民主義を善導せよ[「私見」]『ダイヤモンド』46-39、8月26日

長期防衛計画『東京だより』110、9月1日[7月19日座談会:下村定、安田武雄、伊藤正徳、富岡定俊]

昔も今も[「世相さまざま(104)」]『東京だより』110、9月1日

其後の中東／英国とアイスランド間の紛争／台湾海峡火を吐く[「東京だより」]『東京だより』111、10月1日<<無署名>>

台湾海峡と中共『東京だより』111、10月1日[9月10日座談会：土居明夫、土居章、波多野乾一]

平和軍の創設[「世相さまざま(105)」]『東京だより』111、10月1日

台湾海峡火を吐く[「私見」]『ダイヤモンド』46-45、10月4日

私の見方 日本の外交『講演時報』946、10月8日

世界一の歌姫[「世相さまざま(106)」]『東京だより』112、11月1日

花柳章太郎赤毛布のこと『東京だより』112、11月1日[9月29日座談会：花柳章太郎、宮田重雄、渋谷秀雄、有吉佐和子]

議長に権威を 両党の妥協が必要[「国会正常化はどうしたらよいか」]『東京新聞[夕刊]』11月8日

新しい愛国心『中正』1-3、12月1日

時局を憂える[「東京だより」]『東京だより』113、12月1日<<無署名>>

イギリス政界の近頃[「世相さまざま(107)」]『東京だより』113、12月1日

西尾君と私[「西尾末広氏の無罪決定を祝って」]『新国策』6-36、12月25日

1959(昭和34)年

新春所感『政界ジープ』14-1、1月1日

ベルリンをどうする／毛沢東引退・人民公社／奇襲攻撃をやめる国際会議『東京だより』114、1月1日<<無署名>>[「日記」1958年12月14日：ベルリンをどうする、中共の人民公社、奇襲攻撃防止会議]

老人病学談義『東京だより』114、1月1日[座談会：松永安左衛門、喜多村緑郎、小糸源太郎、田崎勇三]

モンチーの回想録[「世相さまざま(108)」]『東京だより』114、1月1日

岸政権を継ぐ者は誰か！待望“第三政党”論『日本週報』469、1月5日[1958年12月13日座談会：西尾末広、鮎川義介]

芦田均氏[インタビュー記事「元首相めぐり⑥」]『東京新聞』1月7日

[「人間模様 青年に期待する歴代総理」]『毎日グラフ』12-1、1月11日

イギリス政界の近頃[「新春随筆」]『政策月報』36、1月15日

日独伊三国同盟の締結－近衛・松岡時代－『東京だより』115、2月1日

松岡外相の独伊ソ訪問－附 日ソ中立条約の調印－『東京だより』116、3月1日

当面の労働諸問題『東京だより』116、3月1日[2月10日座談会：石田博英、落合英一、太田薫、滝田実]

ヤルタの秘密協定『東京だより』117、4月1日

鳩山一郎をしのぶ『東京だより』117、4月1日[座談会：林譲治、原彪、細川隆元、矢部貞治]

日米開戦まで『世界週報』40-14～24、4月11、18、25日、5月2、9、16、23、30日、6月6、13日

ヤルタ会談の重要性『東京だより』118、5月1日

病の床にいて『東京だより』119、6月1日

ソ連かく参戦す [遺稿「第二次世界大戦秘史」抄]『山陽新聞[夕刊]』7月20～26日

第二次世界大戦秘史[遺稿]『京都新聞』8月2～5、7～13、15～31日、9月1～15、17、18日

1986(昭和 61)年

清沢冽宛書簡 5 通・清沢あや宛書簡 1 通[1941 年 7 月 17 日、1942 年 6 月 20、26 日、1943 年 4 月 7 日、1944 年 6 月 17 日、1945 年 6 月 5 日付]、北岡伸一「外交官出身総理の歴史意識—清沢冽宛幣原喜重郎・吉田茂・芦田均書簡にみる」『中央公論』101-11、1986 年 10 月 1 日[「吉田茂と清沢冽—清沢冽宛書簡に見る外交官出身総理大臣の歴史意識」と改題『人間吉田茂』(中央公論社、1991 年)収録]

4. 帝国議会議事速記録・国会会議録

『官報号外 帝国議會衆議院議事速記録』・『官報号外 国会衆議院會議録』は『官報号外』と略記し、『官報号外 帝国議會貴族院議事速記録』・『官報号外 国会參議院會議録』は『官報号外<貴族院>』・『官報号外<參議院>』と略記した。『帝国議會委員會議事速記録』・『国会委員會會議録』は委員会名のみを記し、貴族院委員會・參議院委員會・兩院委員會についてのみ、<貴族院><參議院><兩院>と記した。

第 64 回通常議會(1932 年 12 月 26 日～1933 年 3 月 25 日)

外交方針について質問、1 月 23 日『官報号外』4、1933 年 1 月 24 日

一身上の弁明(外国報道について)、1 月 25 日『官報号外』6、1933 年 1 月 26 日

第 65 回通常議會(1933 年 12 月 26 日～1934 年 3 月 25 日)

貿易調節及通商擁護に関する法律案に対する質問、3 月 10 日『官報号外』21、1934 年 3 月 11 日

第 67 回通常議會(1934 年 12 月 26 日～1935 年 3 月 25 日)

現内閣の外交政策並に外交施設について質問、1 月 25 日『官報号外』6、1935 年 1 月 26 日

第 70 回通常議會(1936 年 12 月 26 日～1937 年 3 月 31 日)

外交方針に関する緊急質問演説、3 月 11 日『官報号外』20、1937 年 3 月 12 日

第 71 回特別議會(1937 年 7 月 25 日～8 月 7 日)

貿易及関係産業の調整に関する法律案に対する質疑、8 月 2 日『官報号外』8、1937 年 8 月 3 日

第 74 回通常議會(1938 年 12 月 26 日～1939 年 3 月 25 日)

国民服制定の件について趣旨説明『<衆議院>請願委員會』8、1939 年 3 月 10 日

第 76 回通常議會(1940 年 12 月 26 日～1941 年 3 月 25 日)

関稅定率改正について質疑『<衆議院>関稅定率法中改正法律案外一件委員會』2～4、1941 年 2 月 3、5、6 日

蚕糸業統制法案に関する質疑『<衆議院>蚕糸業統制法案委員會』5、6、1941 年 2 月 15、17 日

第 77 回臨時議會(1941 年 11 月 16 日～1941 年 11 月 20 日)

防空法改正案に関する質疑『<衆議院>防空法中改正法律案委員會』3、1941 年 11 月 20 日

第 84 回臨時議会(1943 年 12 月 26 日～1942 年 3 月 24 日)

『<衆議院>北支那開発株式会社法及中支那振興株式会社法中改正法律案委員会』3、1944 年 1 月 31 日

第 89 回臨時議会(1945 年 11 月 27 日～12 月 18 日)

失業問題について答弁『官報号外』2、1945 年 11 月 28 日

食料配給について答弁『官報号外』3、1945 年 11 月 29 日

恩給停止に関する問題について答弁『官報号外』4、1945 年 11 月 30 日

住宅建築問題について答弁、11 月 30 日『官報号外<貴族院>』3、1945 年 12 月 1 日

国民労務手帳法並に入営者職業保障法廃止法律案の提案理由の説明、12 月 1 日『官報号外<貴族院>』4、1945 年 12 月 2 日

国民労務手帳法並に入営者職業保障法廃止法律案の提案理由の説明、12 月 3 日『<貴族院>入営者職業保障法及国民労務手帳法廃止法律案特別委員会』1、1945 年 12 月 4 日

失業問題について答弁、12 月 4 日『<貴族院>昭和二十年勅令第五百四十二号(承諾を求むる件)特別委員会』5、1945 年 12 月 5 日

労務供給、軍人恩給廃止問題について答弁『予算委員会』5、1945 年 12 月 6 日

労務の問題について答弁『官報号外』9、1945 年 12 月 7 日

入営者職業保障法及国民労務手帳法廃止法律案について提案理由の説明『官報号外』9、1945 年 12 月 7 日

失業問題について答弁『予算委員会』6、1945 年 12 月 7 日

沖縄県民の現状について答弁『衆議院議員選挙法中改正法律案外一件委員会』4、1945 年 12 月 7 日

石炭問題について答弁『予算委員会』7、1945 年 12 月 8 日

労働組合法案の提案理由の説明及び答弁『官報号外』10、1945 年 12 月 10 日

労働組合法案の概要説明および答弁『労働組合法案委員会』1～4、1945 年 12 月 11～14 日

労働組合法案の提案理由の説明及び答弁、12 月 15 日『官報号外<貴族院>』12、1945 年 12 月 16 日

食糧問題並に栄養問題について答弁、12 月 15 日『<貴族院>予算委員会』3、1945 年 12 月 16 日

労働組合法案の概要説明および関連質問への答弁、12 月 15 日『<貴族院>労働組合法案特別委員会』1、1945 年 12 月 16 日

労働組合法案について答弁、12 月 16 日『<貴族院>労働組合法案特別委員会』2、1945 年 12 月 17 日

第 90 回臨時議会(1946 年 6 月 20 日～10 月 11 日)

委員長として発言『帝国憲法改正案委員会』1～20、1946 年 6 月 29 日、7 月 1～6、8、9、11～13、15～20、22、23 日

委員長として発言『帝国憲法改正案委員小委員会』1～13、1946 年 7 月 25～27、29～31 日、8 月 1、2、8、10、13、16、20、21 日

帝国憲法改正案委員会経過報告『官報号外』35、1946年8月24日[『日本国憲法 解説と資料』(時事通信社、1946年11月25日)収録]

第91回臨時議会(1946年11月26日～12月25日)

決議案の解散の奉請に関する件に対する反対演説『官報号外』11、1946年12月17日

第1回特別国会(1947年5月20日～12月9日)

琉球、千島等の領土に関する発言について弁明『官報号外』9、1947年7月2日

産業国営問題について答弁『<参議院>官報号外』9、1947年7月2日

食糧緊急対策について答弁『<参議院>官報号外』10、1947年7月3日

海外同胞引揚について答弁『<参議院>官報号外』11、1947年7月4日

国民外交の樹立並びに秘密外交の打破等について答弁『<参議院>官報号外』12、1947年7月5日

講和条約、領土問題等について答弁『<参議院>官報号外』13、1947年7月7日

在外同胞引揚状況に関する報告および答弁『<参議院>在外同胞引揚問題に関する特別委員会会議録』2号、1947年8月5日

新聞報道について答弁『官報号外』34、1947年9月20日

終戦連絡中央事務局の内閣移管問題、在外資産の現状、講和會議開催の時期等について報告および答弁『外務委員会』10、1947年9月29日

海外同胞引揚げ問題について答弁『<参議院>官報号外』47、1947年11月8日

平和維持方策について答弁『予算委員会』19、1947年11月10日

在外同胞引揚問題について答弁『官報号外』57、1947年11月11日

経済再建の統一機関について答弁『<参議院>官報号外』50、1947年11月12日

移民問題について答弁『<参議院>官報号外』68、1947年11月28日

第2回通常国会(1947年12月10日～1948年7月5日)

海外移民について答弁『<参議院>官報号外』6、1948年1月24日

内閣批判に対する答弁『<参議院>官報号外』7、1948年1月26日

連絡調整事務局臨時設置法案提案理由の説明および答弁『外務委員会』2、1948年1月27日

賠償庁設置に関する法律案の提案理由の説明および答弁『決算委員会』1、1948年1月27日

多面的な親善貿易関係について答弁『<参議院>官報号外』8、1948年1月27日

連絡調整事務局臨時設置法案提案理由の説明および答弁『<参議院>決算委員会』1、1948年1月28日

賠償庁臨時設置法案に関する答弁『<参議院>決算委員会』2、1948年1月29日

海外引揚問題について答弁『<参議院>官報号外』9、1948年1月30日

予算提出、国際情勢等について答弁『予算委員会』8、1948年3月17日

行政整理等について答弁『予算委員会』9、1948年3月18日

施政方針演説『官報号外』27、1948年3月20日

施政方針演説『<参議院>官報号外』19、1948年3月20日

芦田内閣の指名に関する答弁『官報号外』28、1948年3月22日

組閣問題等について答弁『<参議院>官報号外』20、1948年3月22日

施政方針について答弁『官報号外』29、1948年3月23日

組閣の経過等について答弁『<参議院>官報号外』21、1948年3月23日

施政方針演説への質問に対する答弁『官報号外』30、1948年3月24日

施政方針演説への質問に対する答弁『官報号外』31、1948年3月25日

施政方針演説への質問に対する答弁『<参議院>官報号外』23、1948年3月25日

施政方針演説への質問に対する答弁『<参議院>官報号外』24、1948年3月26日

施政方針演説への質問に対する答弁『官報号外』34、1948年3月29日

施政方針演説への質問に対する答弁『官報号外』35、1948年3月30日

軍事公債利払問題について答弁『予算委員会』13、1948年3月31日

平和の確保、講和会議、外資導入の問題等について答弁『外務委員会』4、1948年4月1日

軍事公債利払、外資導入問題について答弁『<参議院>予算委員会』14、1948年4月1日

政務次官の臨時設置に関する法律案について答弁『<参議院>決算委員会』4、1948年4月2日

政治資金問題等について答弁『不当財産取引調査特別委員会』12、1948年4月6日

労働組合法改正に関する答弁『労働委員会』2、1948年4月6日

中小企業庁設置法案に関する答弁『<参議院>決算・商業・鉱工業委員会打合せ』1、1948年4月16日

予算提出時期、会期延長について答弁『議院運営委員会』30、1948年4月22日

予算案および法案提出について答弁『<参議院>議院運営委員会』29、1948年4月26日

朝鮮人学校閉鎖に伴う騒擾事件について答弁『官報号外』43、1948年4月27日

暫定予算について答弁『予算委員会』17、1948年4月27日

朝鮮人学校閉鎖に伴う騒擾事件について答弁『<参議院>治安及び地方制度委員会』11、1948年4月27日

本予算編成方針について答弁『<参議院>予算委員会』18、1948年4月27日

平和条約、食糧問題、労働法規問題等について答弁『<参議院>予算委員会』18、1948年4月28日

食糧問題、労働法規問題等について答弁『<参議院>予算委員会』19、1948年4月28日

外資導入、食糧問題等について答弁『<参議院>予算委員会』20、1948年4月30日
裁判官・検察官の俸給等に関する法律案について答弁『司法委員会』17、1948年5月6日
裁判官・検察官の俸給等に関する法律案について答弁『司法委員会』18、1948年5月7日
本予算提出等について答弁『官報号外』46、1948年5月7日
三党政策協定と予算との関連等について答弁『予算委員会』21、1948年5月19日
国家行政組織法案等に関する答弁『<参議院>決算委員会』11、1948年5月19日
講和会議の問題について答弁『外務委員会』6、1948年5月20日
予算提出時期等について答弁『官報号外』48、1948年5月22日
行政整理、為替レート等について答弁『予算委員会』24、1948年5月24日
国際情勢、講和問題について答弁『官報号外』49、1948年5月25日
引揚同胞対策の決議案について発言『<参議院>官報号外』40、1948年5月26日
統制撤廃、やみ取締、行政整理について答弁『決算委員会』8、1948年5月27日
食糧問題について答弁『官報号外』51、1948年5月27日
予算案提出に関する答弁『<参議院>予算委員会』26、1948年5月27日
建設省設置問題について答弁『官報号外』52、1948年5月29日
予算提出、会期延長について答弁『官報号外』55、1948年6月4日
輸送力増強に関する決議案に就いて発言『<参議院>官報号外』43、1948年6月4日
アメリカの対日援助に関する答弁『官報号外』56、1948年6月5日
予算編成、行政整理等について答弁『官報号外』57、1948年6月7日
外資導入、軍事公債問題等について答弁『官報号外』59、1948年6月9日
昭和23年度総予算に関連する答弁『<参議院>官報号外』46、1948年6月9日
米価改訂に関する決議について発言『官報号外』60、1948年6月10日
予算編成方針に関する答弁『<参議院>官報号外』47、1948年6月10日
予算案提出遅延問題等について答弁『官報号外』61、1948年6月11日
予算編成に関する答弁『<参議院>官報号外』48、1948年6月11日
会期延長問題等について答弁『議院運営委員会』49、1948年6月12日
予算編成に関する答弁『<参議院>官報号外』49、1948年6月12日
政党資金問題等について答弁『官報号外』63、1948年6月14日
軍事公債利払停止問題等について答弁『<参議院>官報号外』50、1948年6月14日
鉄道運賃値上げ、産児制限等について答弁『予算委員会』33、1948年6月15日
行政整理、六・三制等について答弁『<参議院>予算委員会』30、1948年6月15日
労働組合運動について答弁『予算委員会』34、1948年6月16日

西尾問題等について答弁『官報号外』65、1948年6月17日
差別問題について答弁『予算委員会』35、1948年6月17日
国有鉄道運賃法案に関する答弁『運輸及び交通委員会』20、1948年6月19日
予算提出遅延、外資導入等について答弁『財政及び金融委員会』43、1948年6月21日
労働問題、外資導入問題、軍事公債問題等について答弁『予算委員会』36、1948年6月21日
青少年犯罪、食糧管理法等について答弁『官報号外』68、1948年6月22日
財閥解体、公職追放等に関する答弁『予算委員会』37、1948年6月22日
財政問題、治安問題等に関する答弁『予算委員会』38、1948年6月23日
地方出先機関整理に関する決議案について報告『<参議院>官報号外』52、1948年6月23日
予算提出の遅延、人口問題、行政整理等について答弁『<参議院>予算委員会』37、1948年6月23日
出先機関整理の問題、地方財政に関する問題、西尾問題等について答弁『治安及び地方制度委員会』44、
1948年6月25日
簡易保険並びに郵便年金積立金運用、炭鉱労務者の保健衛生に関する答弁『官報号外』70、1948年6
月25日
地方財政等に関する答弁『治安及び地方制度委員会』45、1948年6月26日
経済再建に関する答弁『官報号外』71、1948年6月26日
建設省設置法案に関する答弁『<参議院>決算・国土計画委員会連合審査会』1、1948年6月26日
賃金水準について答弁『予算委員会』42、1948年6月28日
鉄道保安について答弁『司法委員会』45、1948年6月29日
国鉄ダイヤ編成について答弁『官報号外』73、1948年6月29日
教育の再建復興について答弁『官報号外』74、1948年6月30日
公益事業に関係する勤労者・公務員の争議問題について答弁『官報号外』75、1948年7月1日
予算修正について答弁『官報号外』76、1948年7月2日
予算修正について答弁『予算委員会』44、1948年7月2日
予算修正について答弁『<参議院>官報号外』58、1948年7月3日
参議院の性格について答弁『<参議院>予算委員会』40、1948年7月3日
北陸地震の災害状況と緊急措置について報告『官報号外』78、1948年7月4日
参議院の性格に関する発言について答弁『<参議院>官報号外』59、1948年7月4日
政治資金問題について証言『不当財産取引調査特別委員会』42、1948年7月6日

第12回臨時国会(1951年10月10日～11月30日)

平和条約及び日米安全保障条約について質疑『平和条約及び日米安全保障条約特別委員会』3、1951年
10月18日[“無軍備か再軍備か”吉田・芦田対決 世界的怒涛の中に独立日本民族の旗を振れ]と題
して『平和のための防衛』<政調情報26>(国民民主党本部、1951年11月11日)収録]

第 13 回通常国会(1951 年 12 月 10 日～7 月 31 日)

憲法第九條の解釈について質疑『<両院>両院法規委員会』5、1952 年 3 月 18 日

第 16 回特別国会(1953 年 5 月 18 日～8 月 10 日)

国家防衛問題について質問『予算委員会』26、1953 年 7 月 30 日[「芦田・吉田一騎打—七月国会の防衛問答」と題して『東京だより』50、1953 年 9 月 1 日に転載]

第 26 回通常国会(1956 年 12 月 20 日～1957 年 5 月 19 日)

在職 25 年表彰に対する挨拶『官報号外』37、1957 年 5 月 6 日

第 30 回臨時国会(1958 年 9 月 29 日～12 月 7 日)

松岡駒吉哀悼演説『官報号外』2、1958 年 9 月 30 日